699-46
1200501581826
99
-6

699
46

軍戰記展覽會目錄

川縣圖書館協會

帝國圖書館藏

軍戰記展覽會目錄

發行所寄贈本

昭和一二・一・十 帝國圖書館

299-46

序

昭和十年度の石川縣圖書館協會の鄉土叢刊中に「前田氏戰記集」を計畫した我々は、その刊行記念として、軍戰記の展覽會を催うすことを決意した。我々は最近數年間毎年何等かの圖書展覽會を開き續けてきたのであるが、人手にも經費にも時間にも何等餘裕なく、可成無鐵砲にやつてゐるので、どうせ專門學者の批評に値するようなものは生れ得べくもない。今年も亦例によつて例の如く無理やりに實現したのであつた。この冊子目錄はその場合の出陳目錄に多少手を加へたものである。今玆に自ら序するにあたり當時の意圖を記錄しておくことも無意義ではなからうと思ふ。

この度の展覽會の實施にあたつて當初から胸にしてゐたことは、今日世界の大勢は風雲急にして何となく血の雨降らす危險をすら想はせるような實情にあるので、何時の世にも免れがたいこの社會的業病による人心の荒みを少しでも緩かにする途もがなと思ひ、古來最も甚しく血の洗禮を受けた當時の人々は如何に之に處してきたであらうかを、皆と一緒に綜合的に觀察する機會を作りたいといふにあつた。

そこで各方面の資料蒐集を考へたのであるが、それには大體四つの着眼點があつた。その第一は軍戰記文學であつた。我が國の軍戰記文學は鎌倉時代以來明治時代にいたるまでに、なか〳〵優秀なものが豐富に創作されてゐる。我々はその代表的なものを所謂軍記物語の名によつて呼ばんとする七種の作品卽ち保元物語・平治物語・平家物語・源平盛衰記・太平記・義經記・曾我物語等において見る。それらの文學によつて最近六七百年の間如何に我國民の精神が培はれて來つたかを觀察することは相當意味深いことであると考へた。かくて文學者達が本文研究・異本研究などのためにする顰に倣つて各時代にわたりて各種の鈔本・刊本類の蒐集をしたのであつた。

第二は戰記史書である。我々は之を諸戰記の名によつて取扱ひ、全國的に地方戰記の蒐集をなすことにも手を延ばした。これは軍記物語と絕對的に截然たる區別のあるものでもなく、又史的價値豐かなものばかりを蒐集したのでもないが、この類のものは大體「前田氏戰記集」と性質を近うするものであり、之によつて我國の一般諸戰記中に前田氏戰記集の位置づけをすることもできようと信じたのであつた。

第三は戰記美術としての繪卷であつた。我々は文學によつて戰爭を觀ると共に美術を通じて戰亂社會相を眺めることも亦頗る興味あることゝ思ふ。繪卷は一枚の繪と異り半ば文學であるため、その點最も好適の資料である。但し著名なる繪卷の原圖は殆どすべて國寶的のものであり、その陳列には一

點でも容易ならぬ設備を必要とするため、現實の問題としては模寫圖を列べ得たにとゞまるが、それでも模寫圖そのものが極めて優秀なるものであるから、三十點に近き繪卷は多少觀衆の眼を娛しまし め得たことゝ信ずるのである。

第四は石川縣の鄕土的圖書・文書の類である。これは直ちに前田氏戰記集の內容ともなり、或はその前段階をなし、又その周邊を物語るものであつてこの度の展覽會には最も重要な部面の一である。

かくて蒐め得たものは、數量的には本目錄に登載する如く總數五百七十餘點に達してゐる。四つに分けてそのいづれの一をとつて見ても充分獨立の展覽會が催し得るような大問題を、數多く捉へ來つて無力なものが不準備に催した展覽會が如何なるものになるかを前以て考へぬではないが、それにも拘らず今年も亦同じようなことをやりつゞけてゐることには多少の所信がなくはない。言ふまでもなく我々の圖書展は直ちに天下の專門學者を相手にしてゐるのではなく、目標はこの地にある。この地の先人がかつて圖書を以て天下に名を成した歷史を有するに鑑み、現在の石川縣人が何かにつけ圖書に關してもう少し高い常識をもつてくれゝばと願ふのである。そして現に尙縣下に相當豐かに散在してゐる古書古文書を、鼠の巢にしたり襖の下張にするが如きことだけは絕對にないように、できるならば死藏してゐるものを持ち出して、進んで學界を賑はすような氣持にもなるようにと、そのような期待を抱いて、力弱くとも刺戟を加へ續けて行く考でゐるのである。

かような貧弱な企圖に對して別欄出品者名錄にあるような天下著名の所藏家諸先輩が、惜氣もなくその秘藏書を貸與せられたその寛大なる同情に對しては、我々は何と感謝の意を表はしてよいかわからない。年々相變らぬ支持を加へられつゝある向に對しては特に然りである。尙本年は德富蘇峰先生からはじめて御援助を仰ぐことになつたのであるが、先生が本館の企圖に同情されて、成簣堂の貴重書中關係圖書を擧げて御貸與下された如きは、全く我々が望み得し以上に出でるものであつて深く感銘してゐるところである。今目錄上に個々の圖書を取扱ふにつけても、夫々の所藏者との印象深き交渉が想起されて感慨無量である。

昭和十年十二月

石川縣圖書館長
石川縣圖書館協會長　中田邦造

凡例

一、此目錄は、昭和十年十一月八日より十二日まで五日間、石川縣立圖書館と石川縣圖書館協會との共同主催で、同館並に石川縣商品陳列所において催されたる標記展覽會の出品目錄を、會後編換へをなし、略解を加へ、正誤・補遺を施して、若干の圖版を添へたものである。

二、目錄の編成は、石川縣立圖書館員の手で成し遂げたものであるが、夫々の部門について各方面の外援を得たることは言ふまでもない。特に第四高等學校教授密田良二氏・當地鄉土史家副田松園氏・桂井未翁氏等のお手を煩はしたことは甚だ多い。玆に記して謝意を表しておく。

三、軍記物語の部にのみ鈔本・刊本の別をたてたことには深く他意のあるわけではない。刊本は多く流布本に屬し內容上よりも刊行の形式に興味の中心があるように覺ゆるからに他ならない。鈔本は可成注意して內容上より各種の異本調べや系統立てをやつてみようとしたが、でき上つたところでは左程嚴密なものとはなつてゐない。この部門に關しては館員野口正喜君が大に盡力した。

四、鄉土關係圖書の部において多數の古文書・消息類の原文を揭げながら、長基連氏所藏にかゝるも

のに限り、之を消略した。それは近く「長家文獻集」を刊行してその中にもつと立派に全文を取り入れる計畫が進行してゐるからである。この方面を主として分擔研究したのは館員太田南圃・松本三都正の兩君である。

五、この目錄には從來になく多數の圖版を取り入れた。このことについては間接ながら特に所藏者各位の御寛容を希ふ次第である。寫眞撮影等の仕事はすべて當地醫科大學附屬病院勤務越村與四男君と館員繩村彌三男君の手を煩はしたものである。

六、表紙意匠に用いた圖は石川縣商品陳列所々藏の保元物語繪卷の一部である。

七、十一月中旬の展覽會の冊子目錄を、十二月半に入つて漸く脫稿した有樣で、年末多忙の折柄、之を印刷し了ることについては可成困難を感じたのであるが、例年のことながら、活文堂主人の義俠心によつて、ともかく年内に完成したことは感謝に堪へない。

圖版目次

軍記物語（目次—本文一頁）

第一葉

一　保元物語（尊雅自筆本）……一

二　保元物語（塙本—古鈔本）……三

第二葉

三　保元物語（古活字本—嵯峨本）……七

四　保元物語（古活字本—別版）……九

五　保元物語（古活字本—別版）……一〇

六　保元物語（古活字本—別版）……一一

第三葉

七　平治物語（片假名交り書古鈔本）……一八

八　平治物語（平假名交り書古鈔本）……二〇

本文參照番號

第四葉

九　平家物語（附譜本）……三五

一〇　平家正節……三六

第五葉

一一　平家物語（康豐本—古鈔本）……四二

第六葉

一二　平家物語（一方本—古鈔本）……三八

一三　平家物語（覺一本—古鈔本）……四四

第七葉

一四　平家物語（眞名本—古鈔本）……四六

第八葉

一五　平家物語（屋代本—古鈔本）……五五

第九葉

一六　平家物語（百二十句本—古鈔本）……五六

一七　平家物語（百二十句本—古鈔本）……五七

第十葉

一八　平家物語（古活字本—下村刊）……六六

一九　平家物語（八坂本—古活字本）……六八

第十一葉

二〇　平家物語（覺一本—古活字本）……六九

二一　平家物語（古活字本—別版）……七一

第十二葉

二二　平家物語（古活字本—別版）……七二

二三　源平物語（古活字本）……八四

二四　太平記（梵舞自筆本）……九四

第十三葉

二五　太平記（國寶—西源院本）……八九

第十四葉

二六　太平記（古活字本）……九九

二七　太平記（古活字本—荒木開板）……一〇〇

二八　太　平　記（古活字本—別版）……一〇三

第十五葉

二九　太　平　記（古活字本—富春堂刊）……一〇四
三〇　太　平　記（古活字本—別版）……一〇七
三一　太　平　記（古活字本—別版）……一〇八

第十六葉

三二　太　平　記（古活字本—春枝開板）……一〇九
三三　太　平　記（古活字本—別版）……一一〇
三四　太　平　記（古活字本—別版）……一一一
三五　太　平　記（古活字本—別版）……一一二

第十七葉

三六　義　經　記（古活字本）……一三〇
三七　義　經　記（古活字本—別版）……一三一
三八　義　經　記（古活字本・丹緑本）……一三二

第十八葉

三九　義　經　物　語（古鈔本）……一二八
四〇　曾　我　物　語（古鈔本）……一四二

第十九葉

四一　曾　我　物　語（古鈔本）……一四〇
四二　曾　我　物　語（古活字本）……一四六

第二十葉

四三　曾　我　物　語（組合繪入、古活字本）……一四七

諸　戰　記（本文三〇頁—三一頁）

第二十一葉

四四　承久三年具注暦（鎌倉期鈔本）……一七七

第二十二葉

四五　承　久　記（古活字本）……一七八
四六　承　久　記（古活字本—別版）……一七九
四七　新田左中將義貞軍記（古活字本）……一九四

第二十三葉
四八 信　長　記（古鈔本）……二一八
四九 じゆらくものがたり（古活字本）……二五七
五〇 大坂物語（古活字本）……二八七
五一 大坂物語（古活字本—別版）……二八八
第二十四葉
五二 關原始末記（伴信友手校定本）……二六一
第二十五葉
五三 大坂安部之合戰記（瓦板）……二九八
第二十六葉
五四 肥前國有間原城責圖（原圖）……三五三
第二十七葉
五五 兩朝平攘錄（唐本・鈔本）……三七〇

合戰繪卷等（本文六八頁—六九頁）

第二十八葉
五六 前九年合戰繪……三九五
第二十九葉
五七 後三年之役繪卷……四〇〇
第三十葉
五八 八幡太郎繪詞……四〇五
第三十一葉
五九 平治物語繪卷……四〇七
第三十二葉
六〇 曾我物語繪卷……四一一

加能越關係（本文七四頁—七五頁）

第三十三葉
六一 畠山義統書狀……四六八
六二 畠山義綱書狀……四七一

第三十四葉
六三　織田信長黑印狀……四五七
六四　織田信長朱印狀……四九五
第三十五葉
六五　織田信忠書狀……四五八
六六　柴田勝家書狀……四七六
第三十六葉
六七　堀秀政書狀……四九二
六八　前田利家書狀……五〇九
第三十七葉
六九　末森戰圖……五四八
以上

本文目次

軍記物語
1　保元物語……1
2　平治物語……4
3　平家物語……7
4　源平盛衰記……15
5　太平記……17
6　義經記……24
7　曾我物語……26
諸戰記
1　平安朝時代……13
2　鎌倉時代……34
3　吉野時代……36

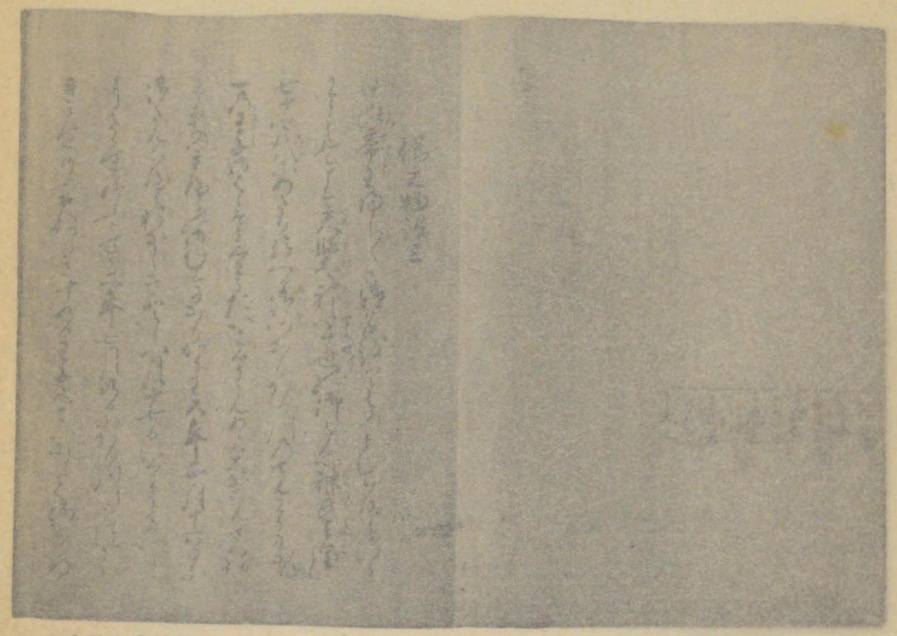
4 室町時代……38
5 戰國・安土-桃山時代……42
織田・豐臣氏關係……42
地方關係……54
6 江戸時代初期……69
7 海外關係……63
8 戰記雜書……67

合戰繪卷

上古……69
中古……72
近古……

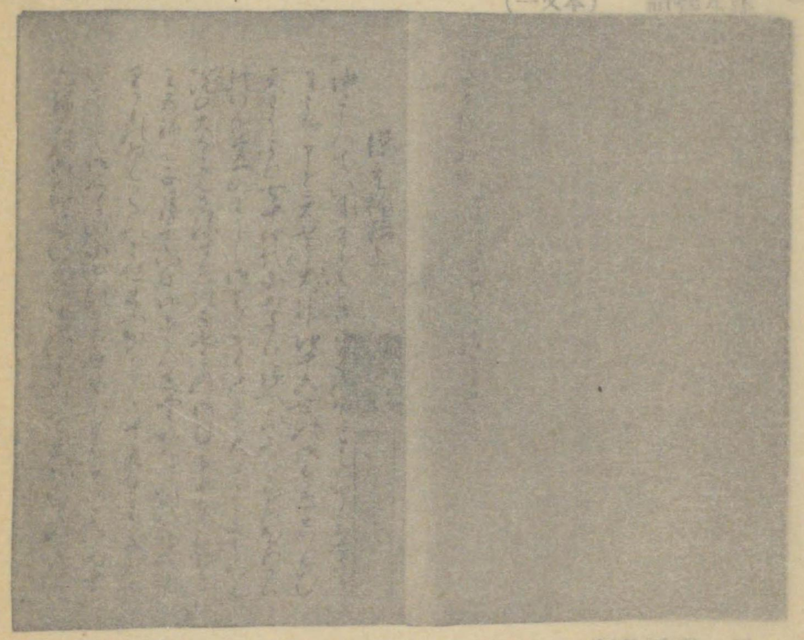
加能越關係

1 一般書及古文書集……75
2 富樫氏關係……80
3 畠山氏關係……83
4 長氏關係……88
5 前田氏關係……92
利家關係……92
末森合戰……95
大聖寺並淺井畷合戰……99
大坂役……102



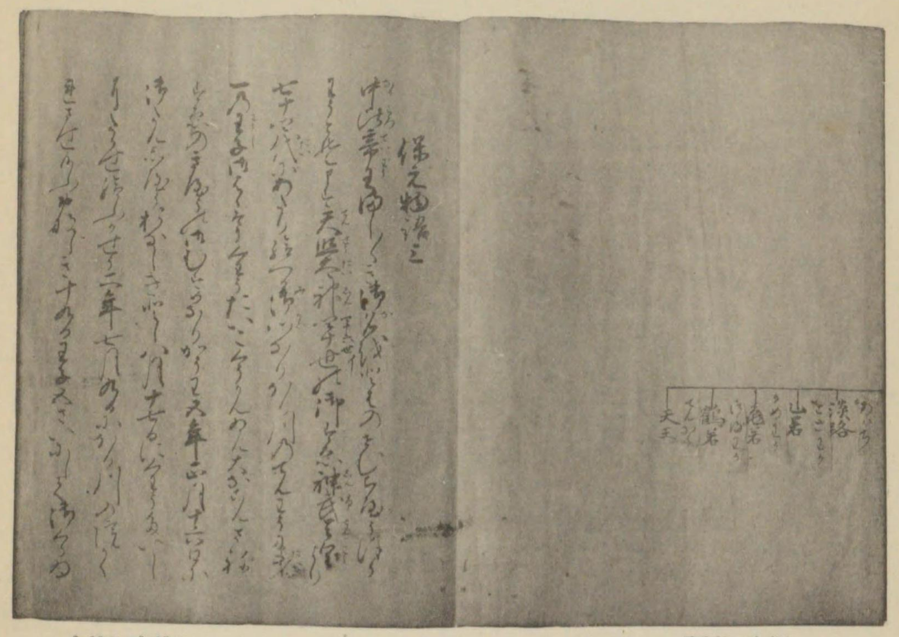
0.89尺－0.69尺

（一文本）　語物元保　一



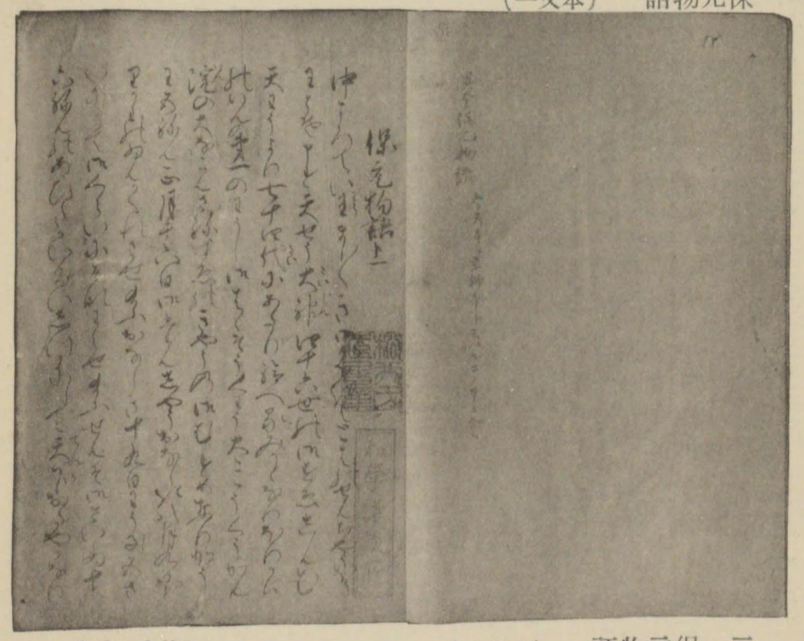
0.89尺－0.80尺

（三文本）　語物元保　二



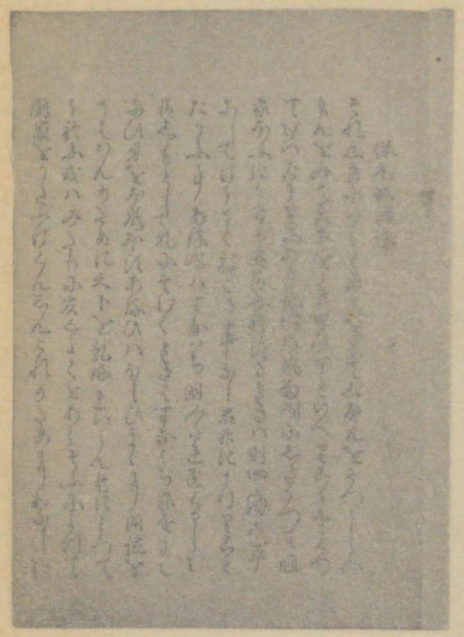
0.89尺－0.69尺

（一文本）　語物元保　一

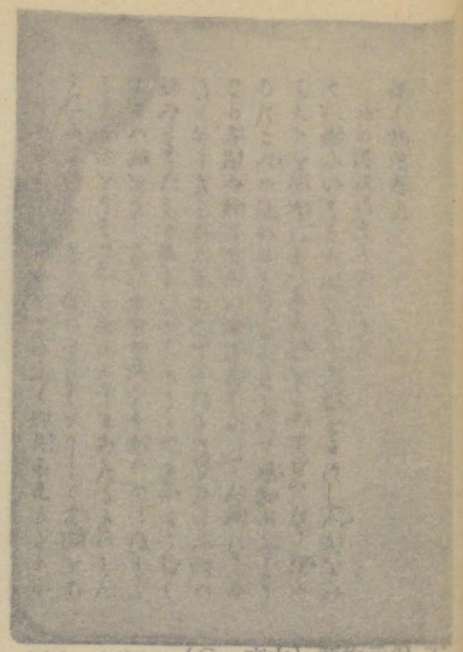


0.89尺－0.60尺

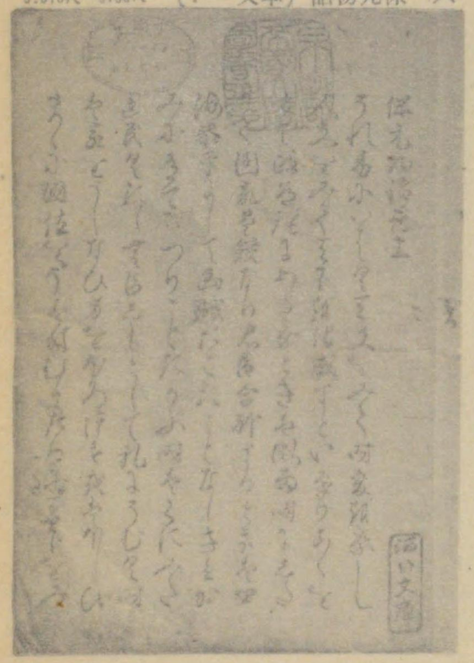
（三文本）　語物元保　二



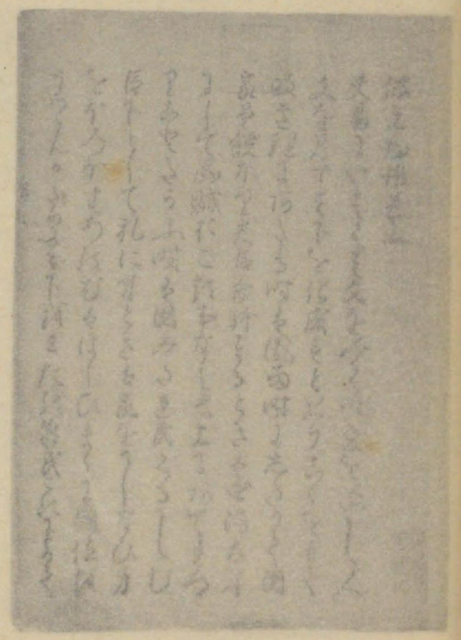
0.915尺—0.65尺　（一一文本）　語物元保　六



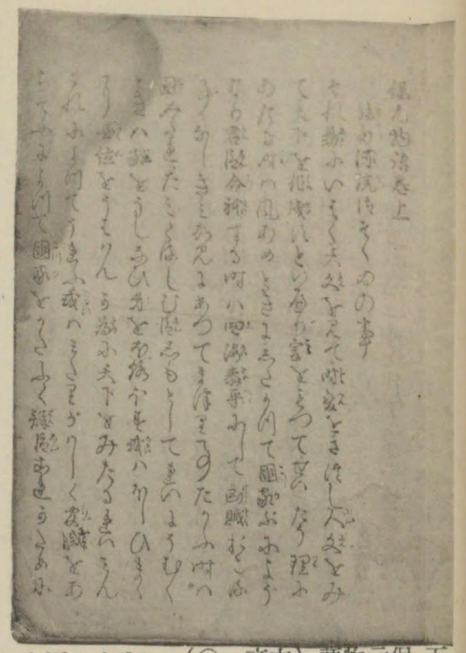
0.925尺—0.65尺　（〇一文本）　語物元保　五



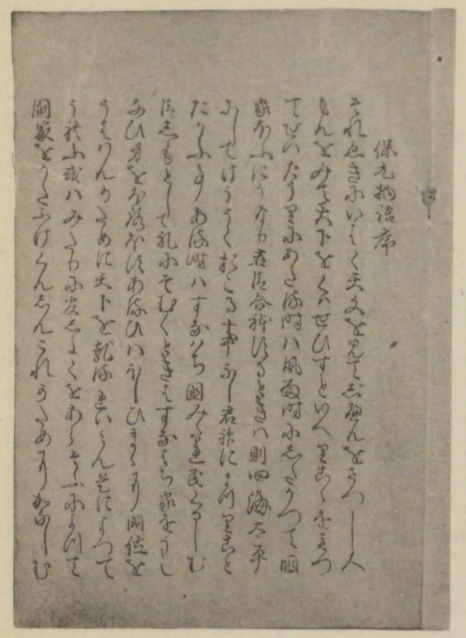
0.95尺—0.68尺　（九文本）　語物元保　四



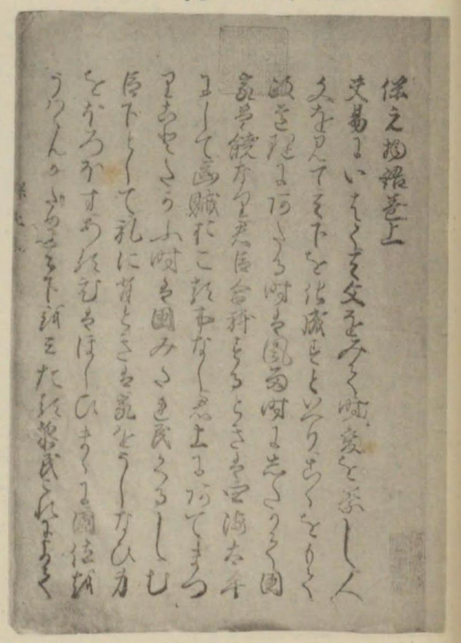
0.905尺—0.67尺　（七文本）　語物元保　三



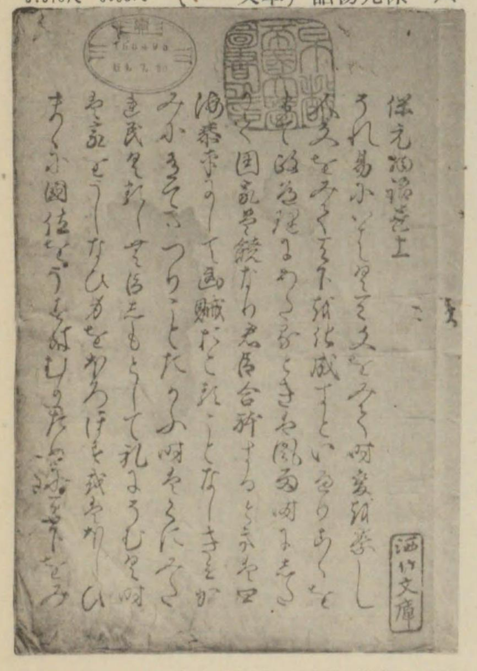
0.925尺—0.65尺　（〇一文本）語物元保　五



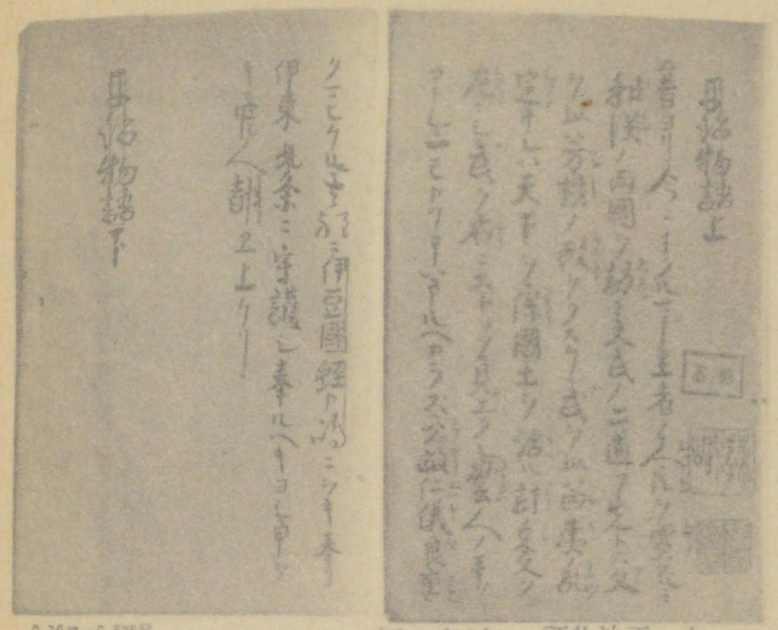
0.915尺—0.65尺　（一一文本）語物元保　六



0.905尺—0.67尺　（七文本）語物元保　三

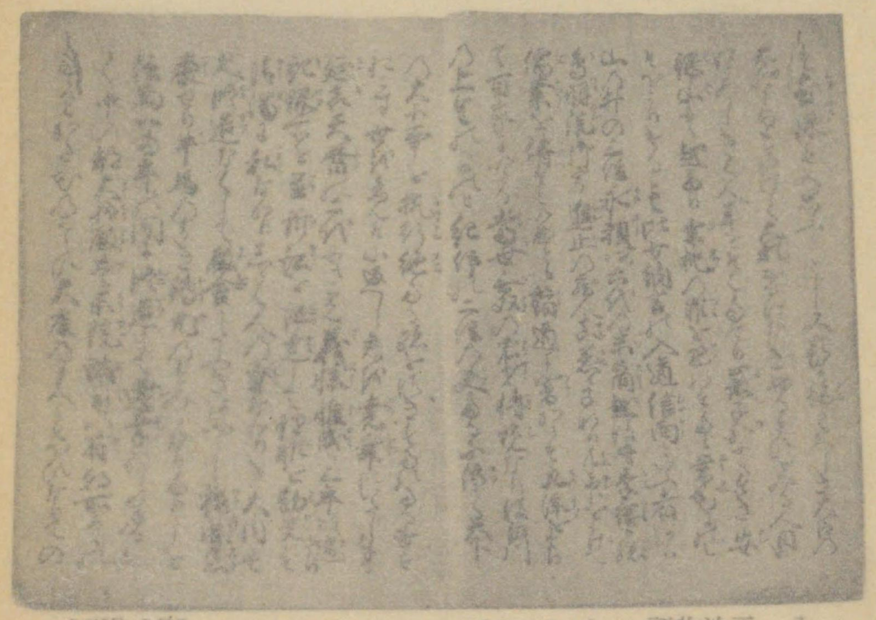


0.95尺—0.68尺　（九文本）語物元保　四



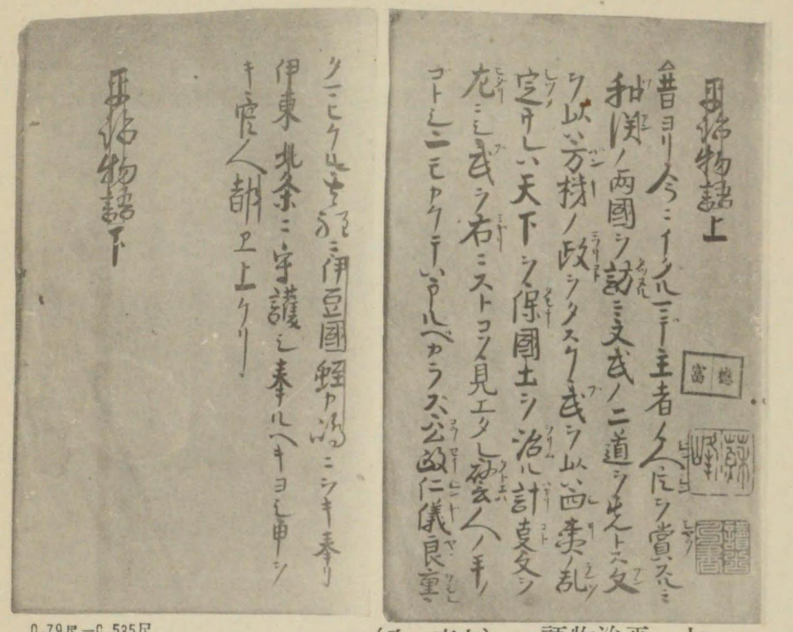
0.79尺—0.535尺

七　平治物語　（本文一八）



0.395尺—0.55尺

八　平治物語　（本文二〇）



平治物語上

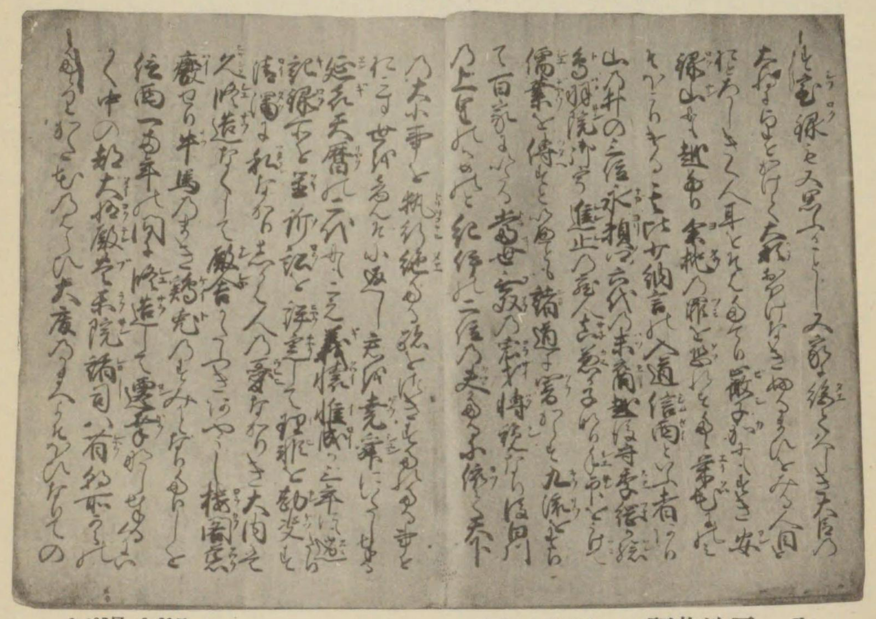
普ヨリ今ニイタルマデ主者タルヒトノ賞スミ和漢ノ両國ノ記ニ文武ノ二道ヲ兼ヒトスル文ヲ以方技ノ政ヲクスリ武ヲ以西夷ノ乱ヲ定メ天下ヲ保國土ヲ治ル計莫文ヲ左ニ武ヲ右ニストコロ見エタリ武人ノ手ノコトヒニヒトクテいかるべからず公政仁儀良臣

クニヒクルヒ主ヲ伊豆國經ヲ流ニシキ奉リ伊東 北条ニ守護ヒ奉ルヘキヨシ申シ宣人部ヒ上ケリ

平治物語下

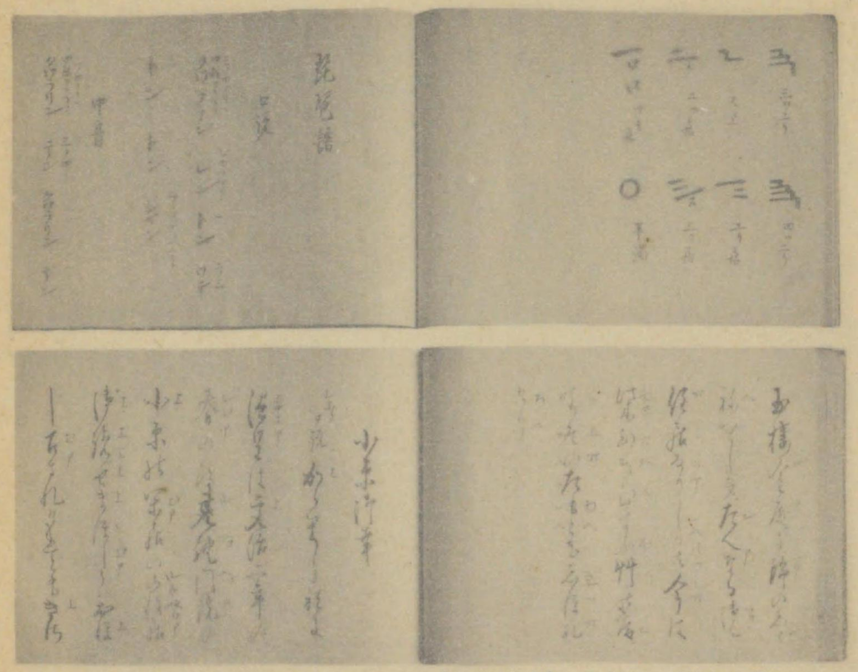
0.79尺—0.535尺

七　平治物語　（本文一八）



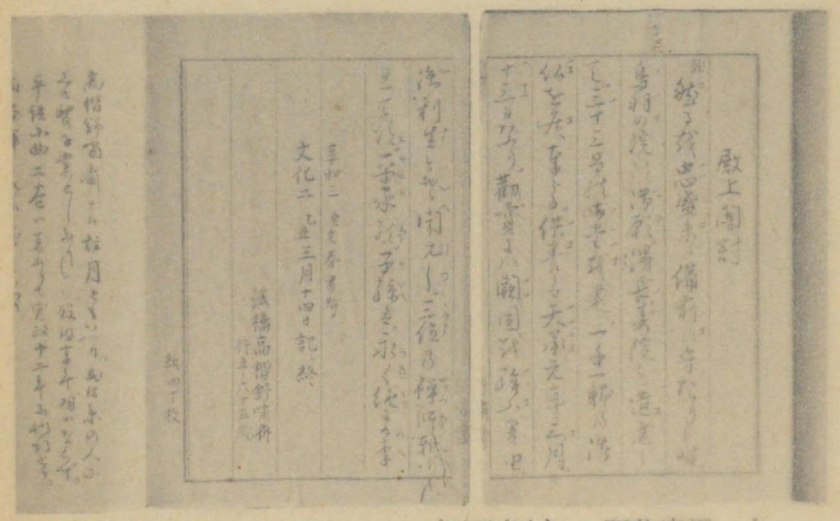
0.895尺—0.68尺

八　平治物語　（本文二〇）



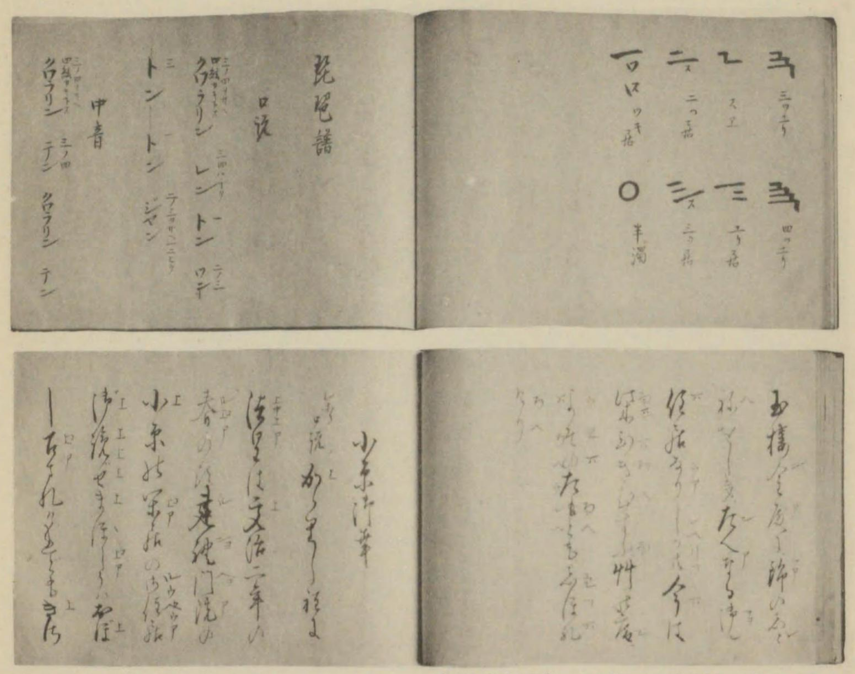
0.49尺－0.70尺

一〇　平家正節　（本文三六）



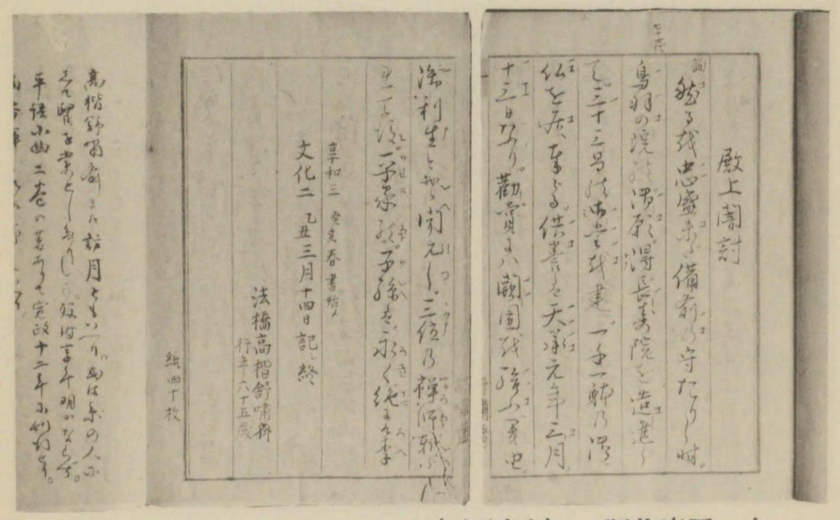
0.78尺—0.545尺

九　平家物語　（本文三五）



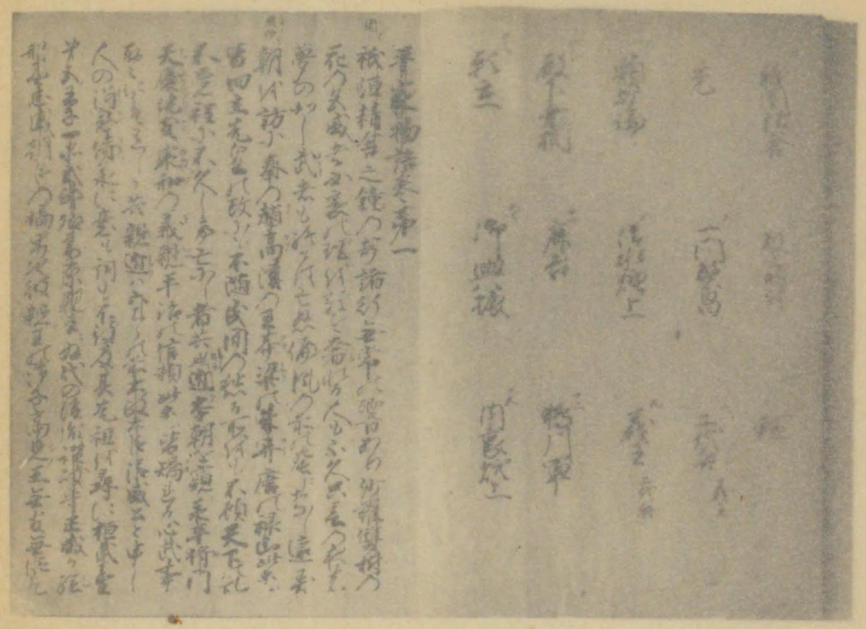
0.49尺－0.70尺

一〇　平家正節　（六三文本）

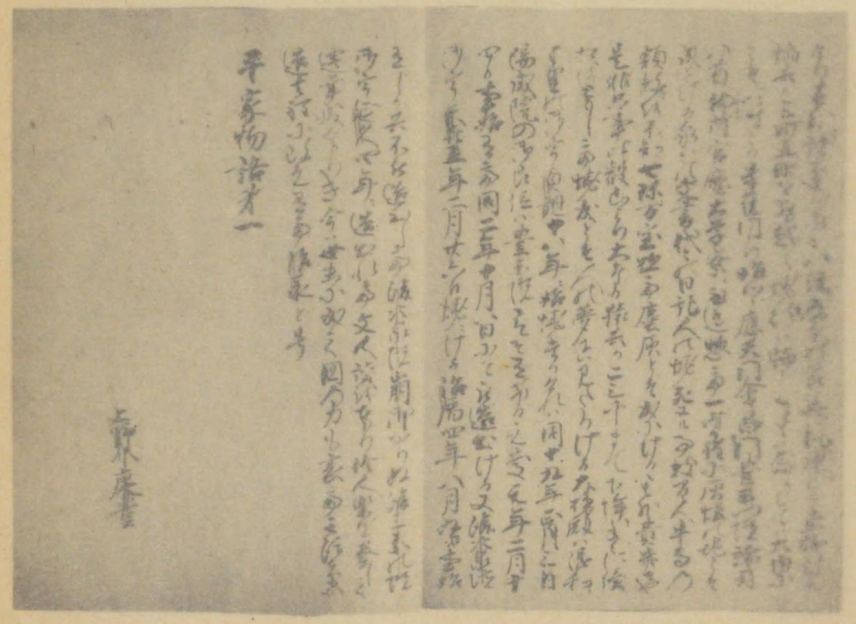


0.78尺—0.545尺

九　平家物語　（五三文本）

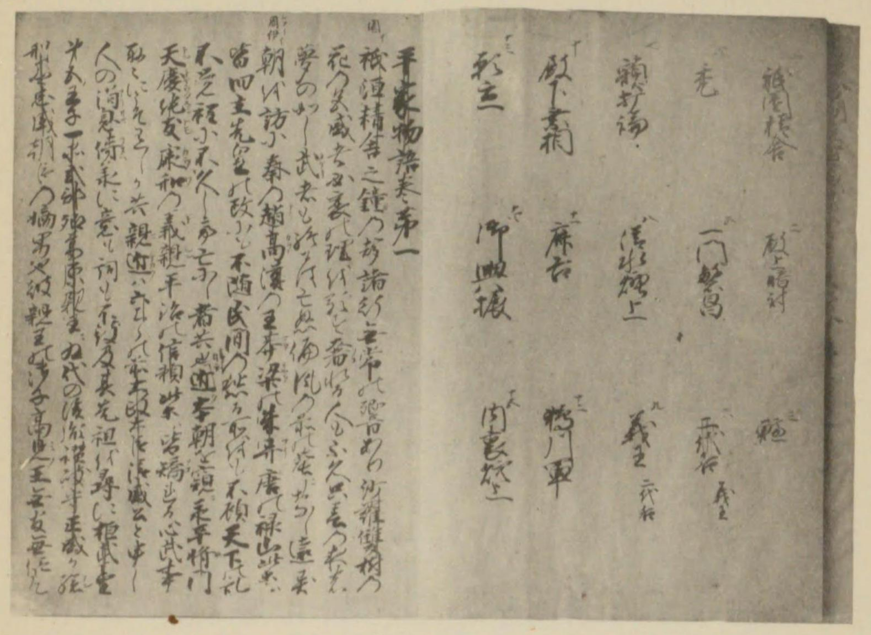


上　巻　頭

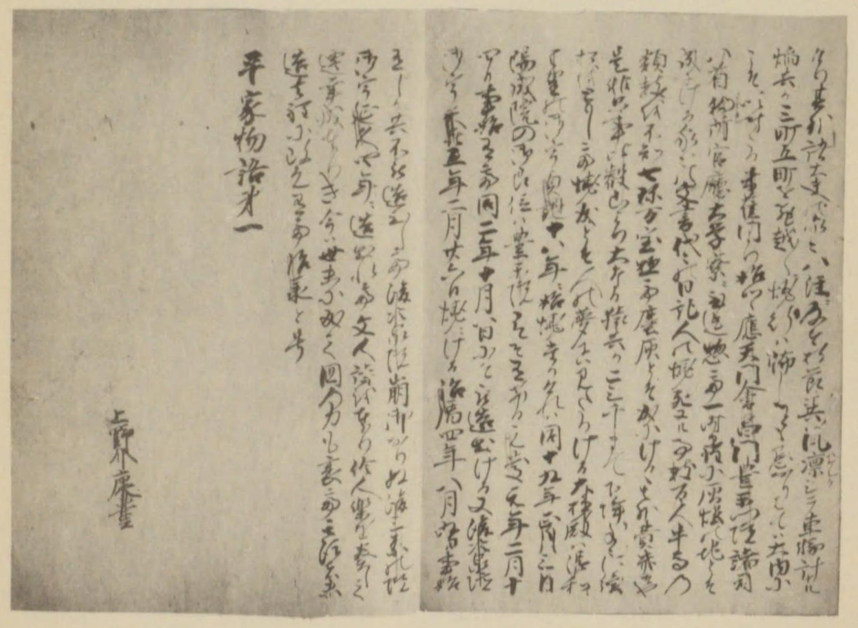


下　巻　末

0.98尺－0.74尺

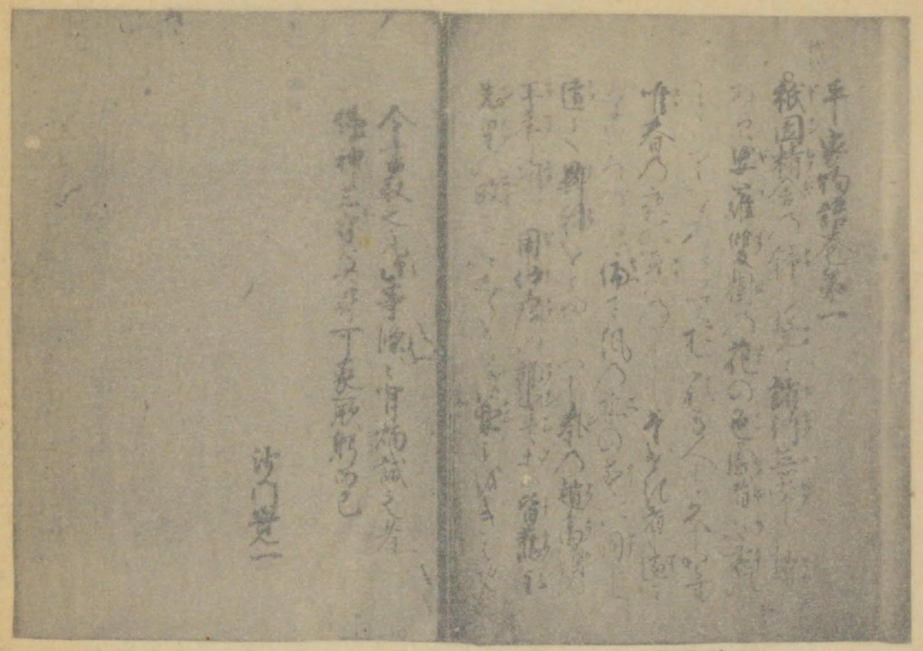


上　巻　頭



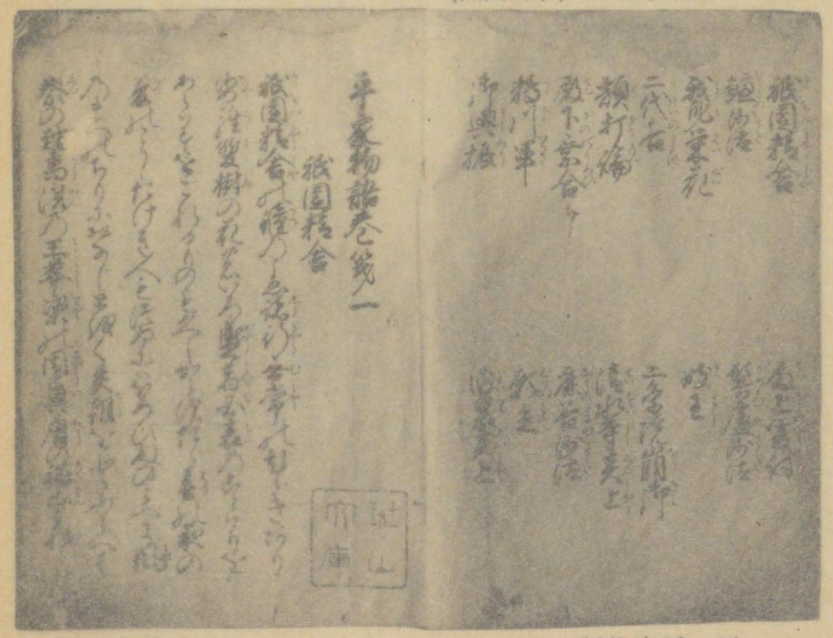
下　巻　末

0.99尺－0.74尺



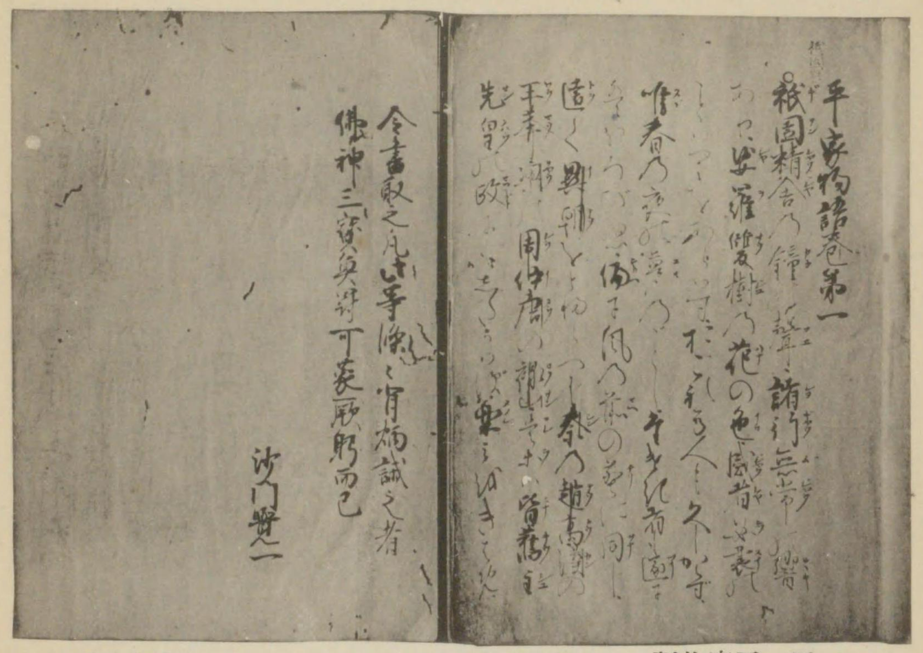
1.035尺－0.765尺

一三　平家物語　（本文四四）



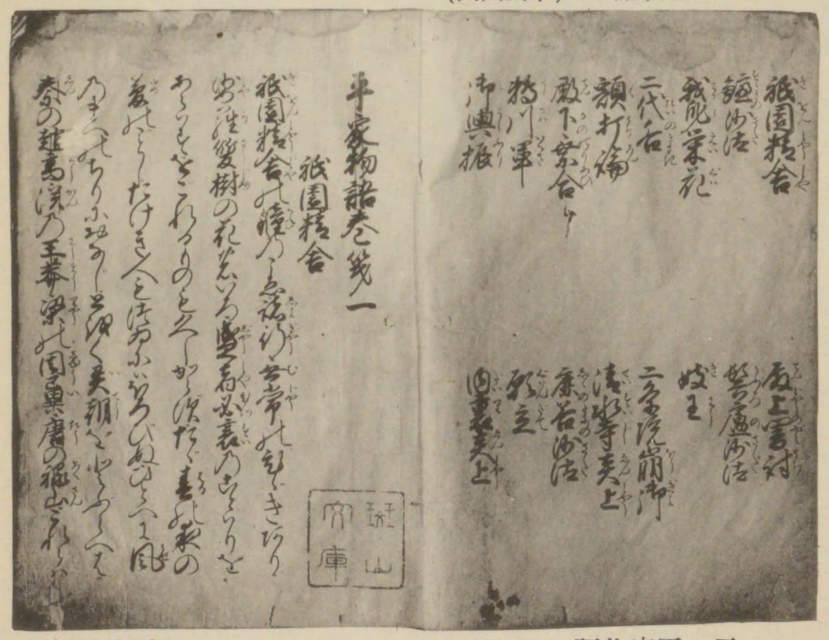
1.02尺－0.785尺

一二　平家物語　（本文三八）



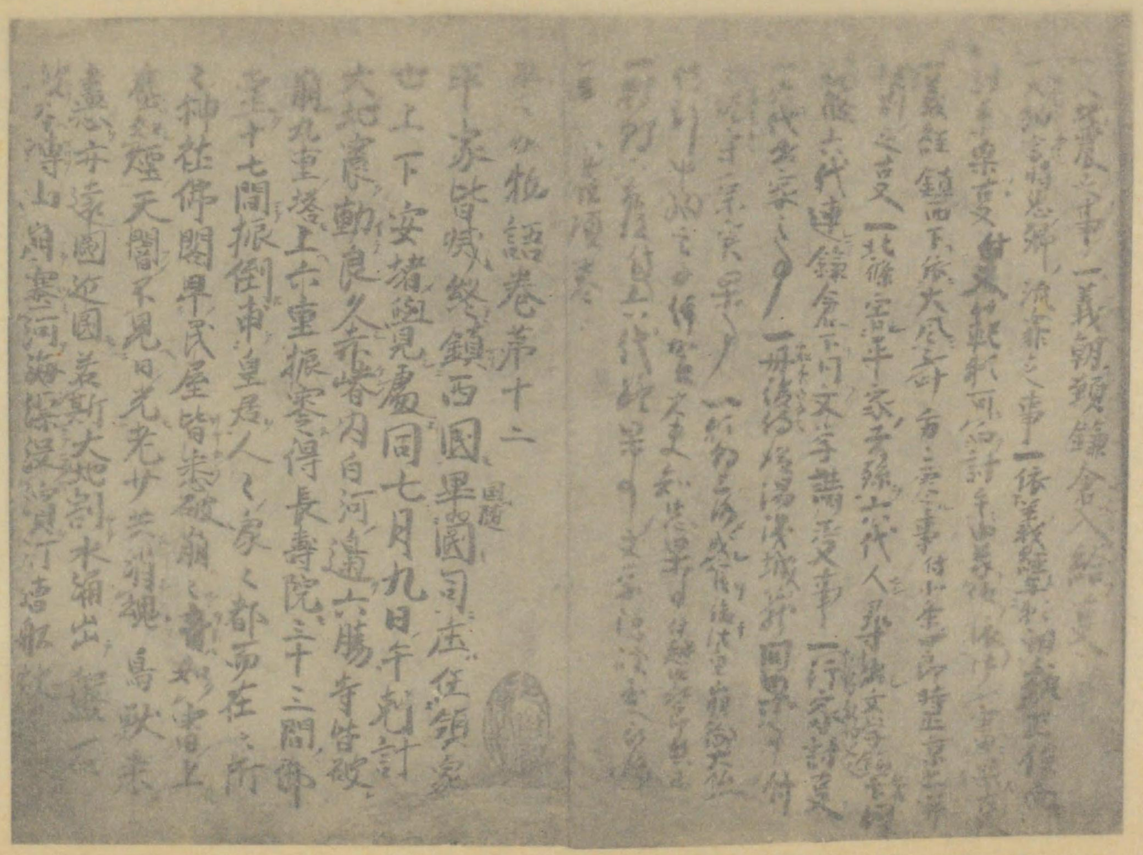
1.035尺－0.765尺

一三　平家物語　（四四文本）



1.02尺－0.735尺

一二　平家物語　（八三文本）



平家物語卷第十二

平家皆滅終鎮西國平國司庄領家

世上下安堵覺慶同七月九日午剋討

六地藏動良久赤峰内白河遠六勝寺皆破

崩九重塔上六重振零得長寿院三十三間御

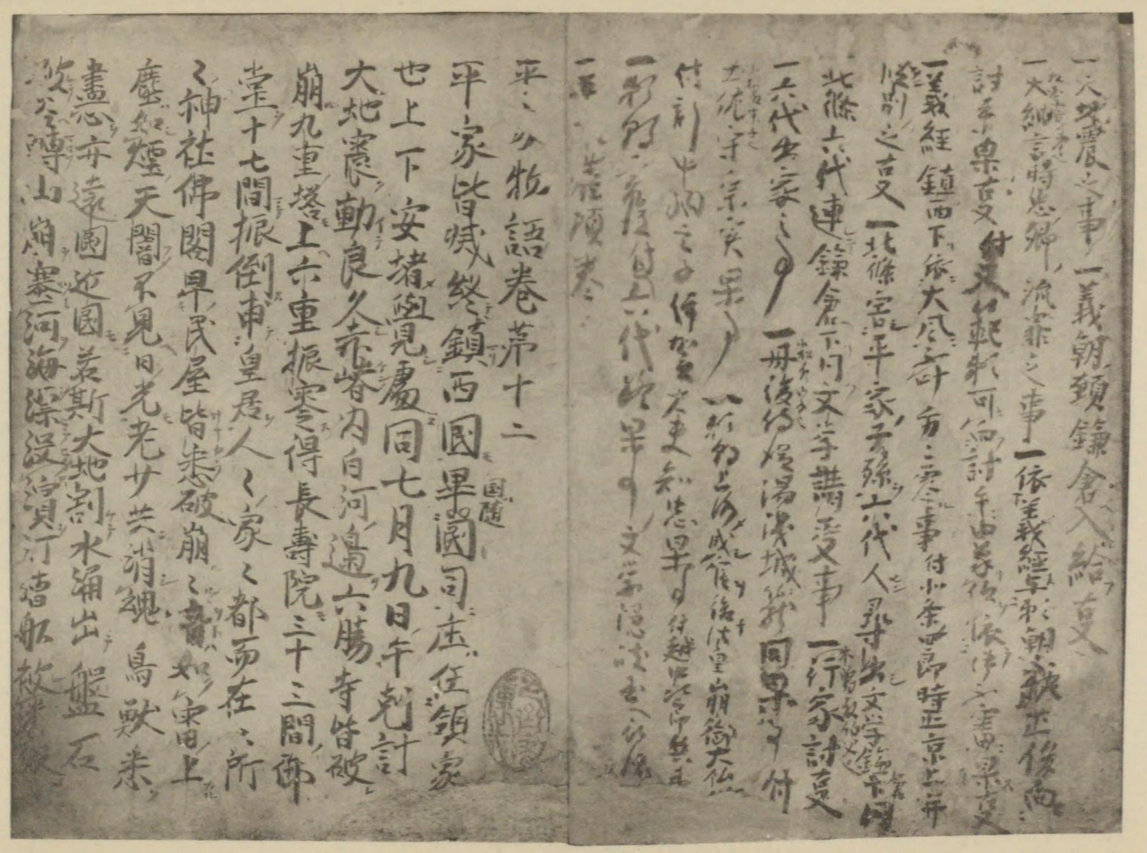
堂十七間振倒申皇居人々家々都而在所

々神社佛閣畢民屋皆悉破崩々音如雷上

震動煙天闇不見日光老少共羽魂魄悉来

悪斗緣國近國義朝大地割水涌出壓一切

死骸海山角塞河海深没浦々遠所漕船



平家物語卷第十二

平家皆滅終鎮西國早國司庄領家
世上下安堵覺處同七月九日午剋計
大地震動良久有堂内白河邊六勝寺皆破
崩九重塔上六重振零得長壽院三十三間御
堂十七間振倒御所皇居人々家々都而在所
々神社佛閣早民屋皆悉破崩如雷上
塵煙天闇不見日光老少共消魂鳥獸悲
盡心亦遠國近國若斯大地割水涌出盤石
砕裂傳山崩塞河海深没潰河造船故障

0,915尺—0,67尺

1.515/2-0.61/8

一 成親禪門逝去事

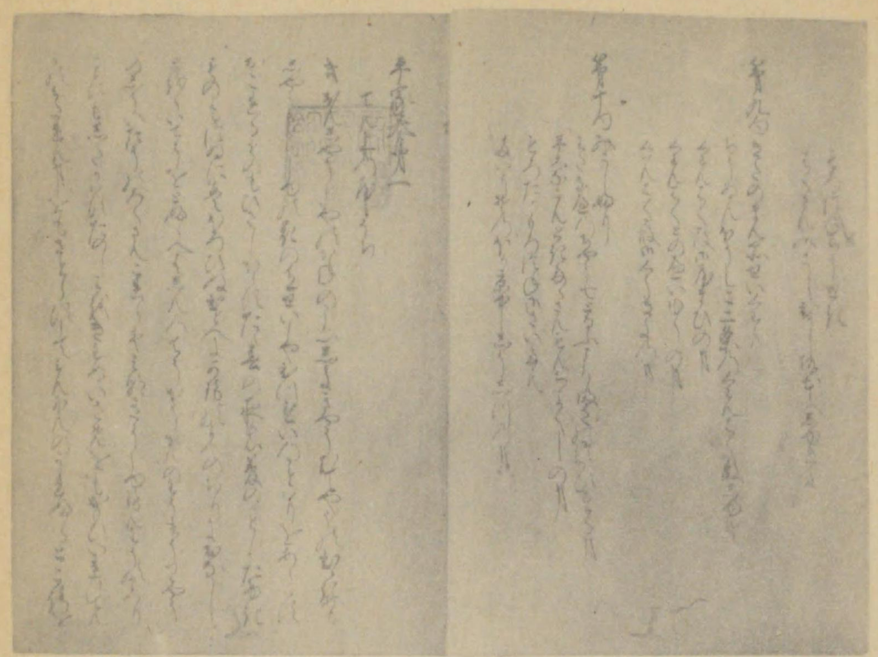
一 彗星事

平家巻第二

安元三年五月五日天台座主明雲大僧正被停止公、請上被没収所領、蔵人御使ニ如意輪御本尊ヲ召返テ被改易御持僧、即蔵人ヲ付テ今度神輿ヲ内裏ヘ奉振、衆徒ノ張本ヲ被召ケリ加賀國ニ座主ノ御房領有、師高是ヲ停廃ス、間依其宿意、語門徒大衆致訴訟、既ニ及朝家ノ御大事ニ、間西光・師経父子ト要賀依テ讒訴、殊ニ可被行重科トソ聞ケル

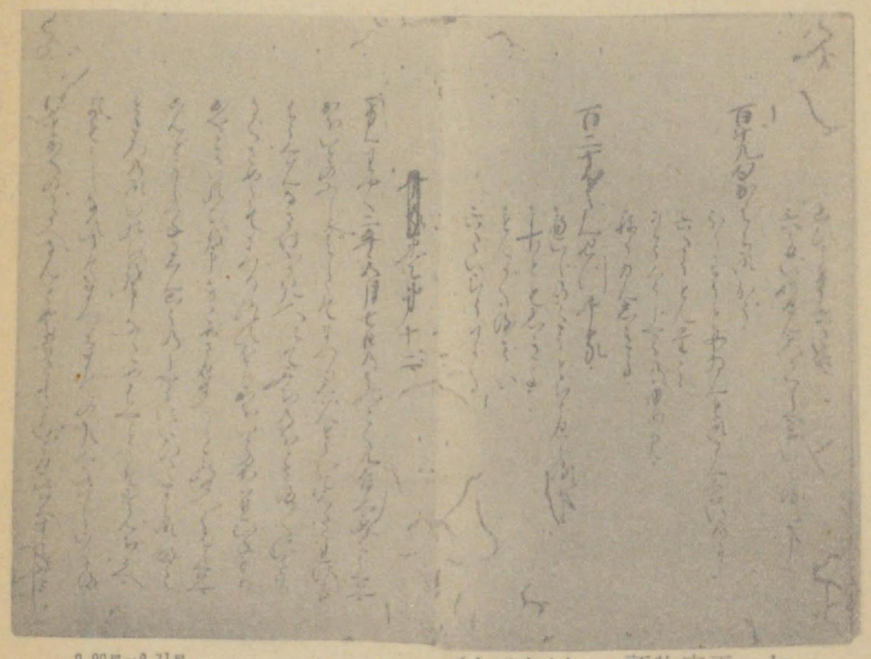
本居文庫

1,015尺−0.68尺



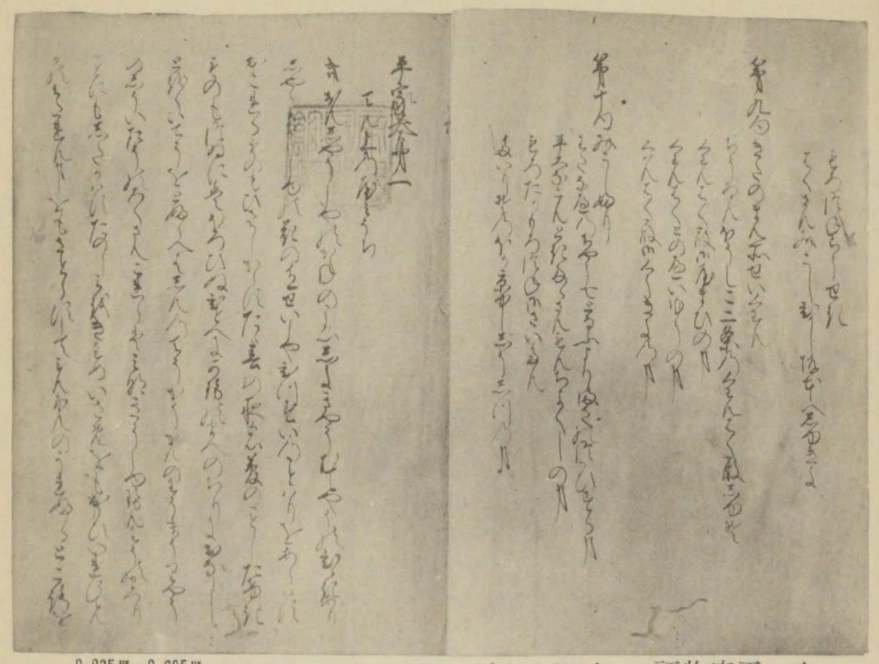
0.935尺—0.695尺

一六　平家物語　（本文五六）



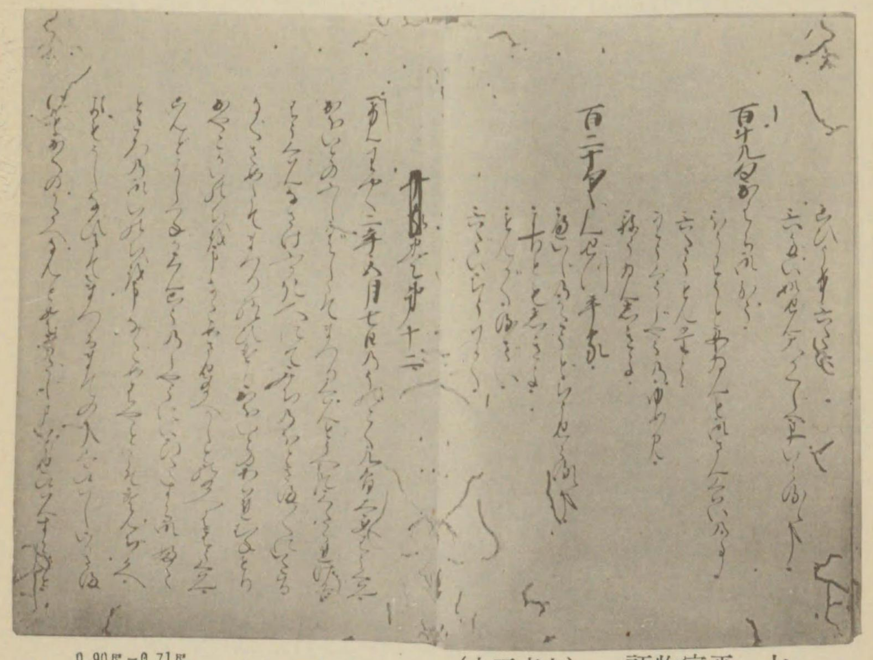
0.90尺—0.71尺

一七　平家物語　（本文七五）



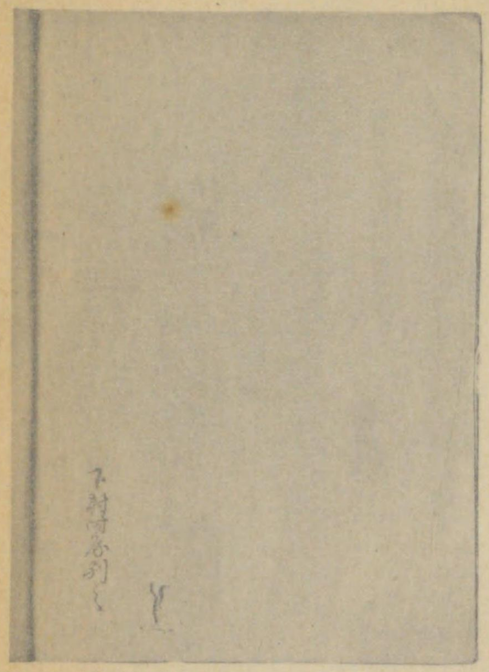
0.935尺—0.695尺

一六　平家物語　（六五文本）

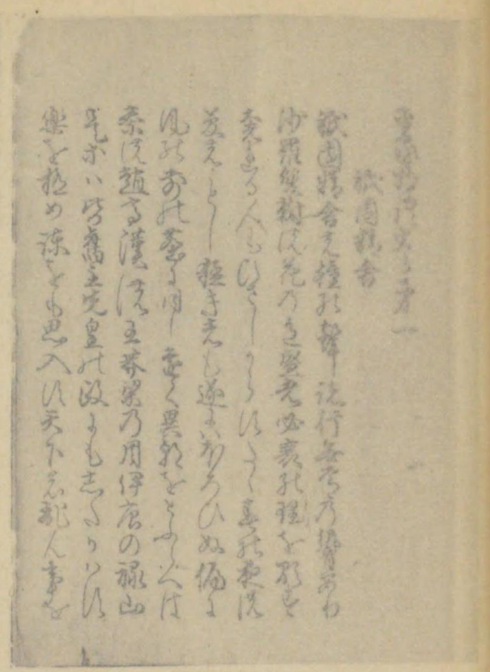


0.90尺—0.71尺

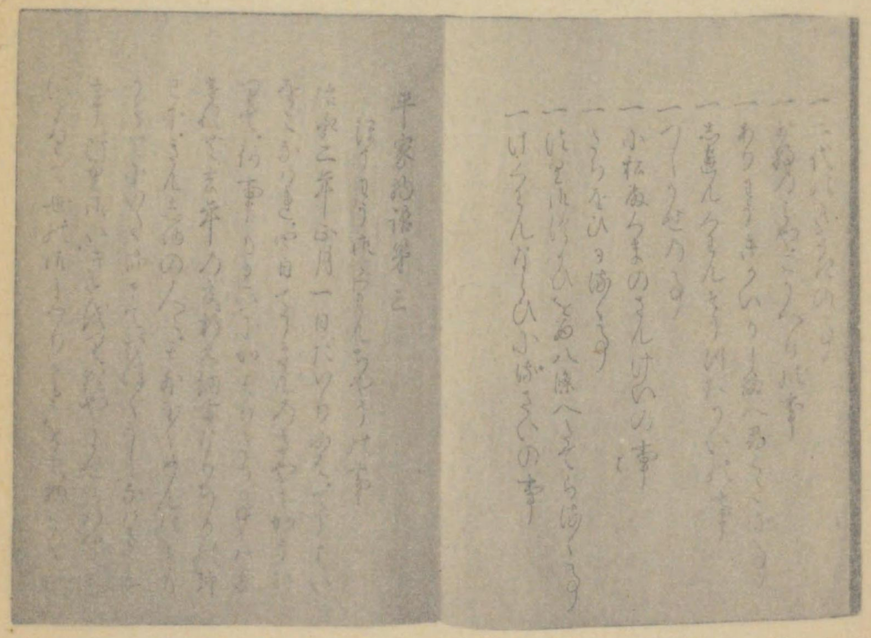
一七　平家物語　（七五文本）



0.925尺－0.635尺

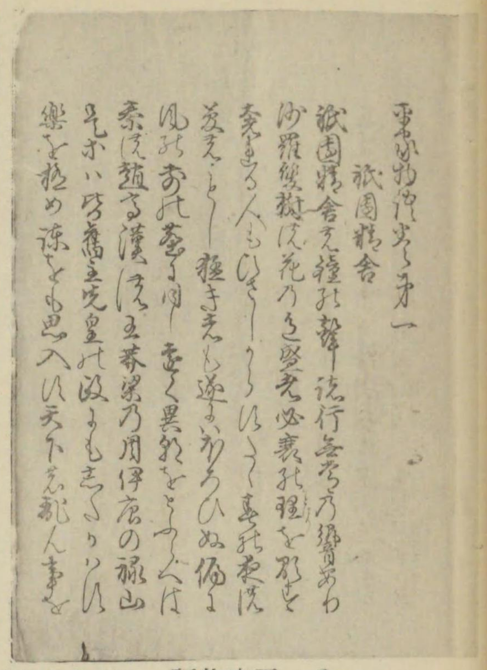


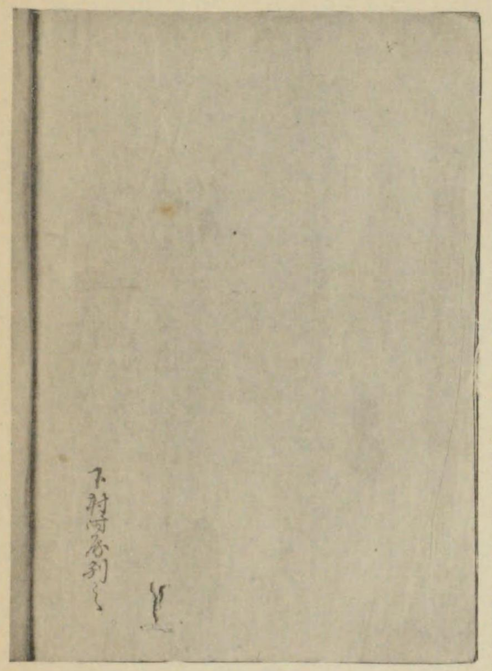
（六六文本）　語物家平　八一



0.455尺－0.55尺

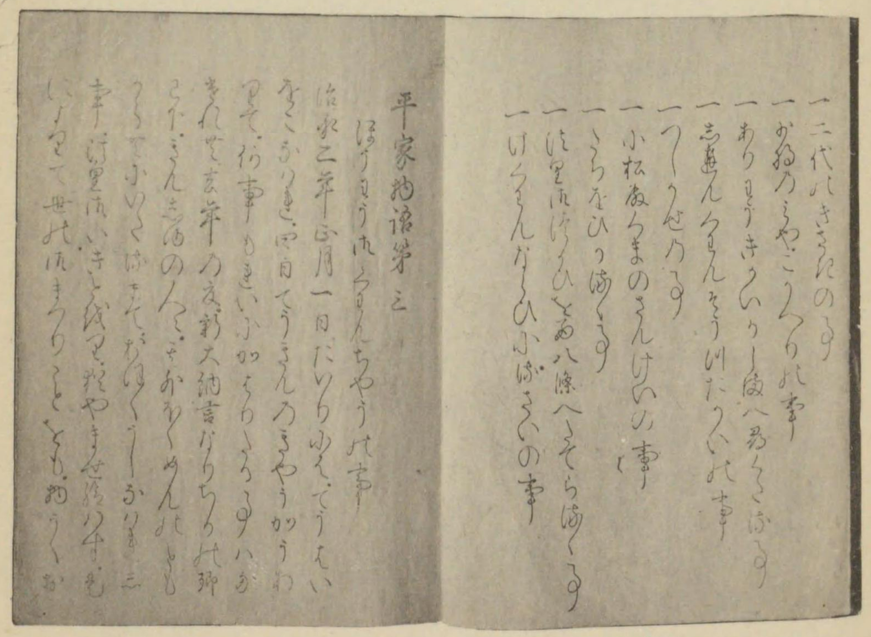
（八六文本）　語物家平　九一





0.925尺－0.635尺

（六六文本）　語物家平　八一



0.855尺－0.65尺

（八六文本）　語物家平　九一

地ト成ル其間ノ態(如何計ソヤ人ノ焼死事数百人
牛馬ノ類ハカスヽラス其夕喜ニアラス山王ノ御谷ヨリ
元尊山ヨリ火ヲ出シ後共ニ二三千ヲリ降テ手手ニ松火
ヲ焼キ中ヲ焼ントツ人ノ勢ニハ見ヘタリケル大地震ハ
清和天皇ノ御宇貞観十八年ニ始メテ焼タリケル公同
十九年正月二日陽成院ノ御即位ハ豊楽院ニテソ
有ケル元慶元年四月九日事始メ在テ同二年十月
八日ニソ被造出ケル後冷泉院御宇天喜五年二月
二十六日又ヤキニケリ治暦四年八月十四日事始メ
在シカ共不被造出テ後冷泉院崩御ヤリ又後三條
院御宇延久四年四月十五日造出シテ文人詩ヲ

奉作伶人舞楽造奉成今ハ卅末ニ成テ国ノ力モ
衰タレハ其後ハ絶ニ不被造

平家物語第一

燼ノ地トソ成ケル家々ノ財宝ノ数事士珍奇寶
サナカラ灰燼トナリヌ其間ノ費イカ計ソ人ノ焼死スル
事数百人牛馬ノ類数ヲ不知其事ニ非ス山王ノ御
谷メトテ比叡山ヨリ大ナル後共カ二三千ヲリ下リ手
手ニ松火ヲトモヒテ京中ヲ焼トソ人ノ勢ハ見ヘタリケル
大地震ハ清和天皇ノ御宇貞観十八年ニ始メテ焼タリ
ケレハ同十九年正月二日陽成院ノ御即位ハ豊楽
院ニテソ有ケル元慶元年四月九日事始有テ同二年
十月八日ソ造出サレタリケル後冷泉院ノ御宇天喜
五年二月廿六日又焼ニケリ治暦四年八月十四日ニ
事始ヲシカ共未作リモ出サレスシテ後冷泉院崩御ヤ
リ又後三條院ノ御宇延久四年四月十五日ニ作リ出

サレテ文人詩ヲ上リ伶人舞ヲ奏シテ聖幸ナレ共今ハ
世末ニ成テ国ノ力モ衰タレハ其後ハ絶ニ作ラレス

平家物語巻第一

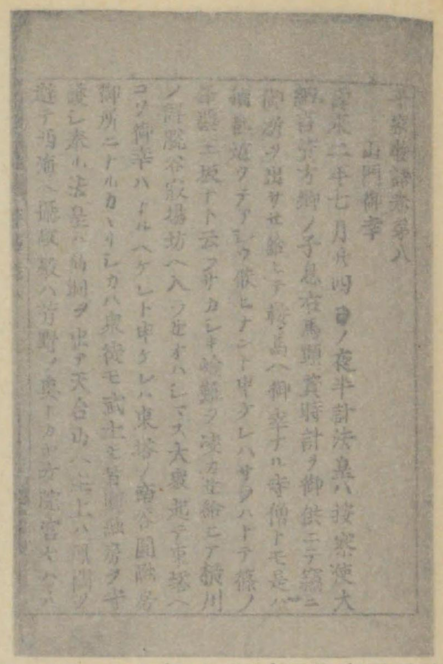
地ト成ル家家ノ日記代代ノ文書七珍萬寶十カラ塵灰ト成ル其間ノ費ヘ如何計ソヤ人ノ燒死事數百人牛馬ノ類ハカスシラス其外事ニアラス山王ノ御谷メトテ比叡山ヨリ大ナル猿共カ二三千ヲリ降テ手手ニ松火ヲ燃テ京中ヲ燒トソ人ノ夢ニハ見ヘタリケル大極殿ハ清和天皇ノ御宇貞觀十八年ニ始メテ燒タリケレハ同十九年正月三日陽成院ノ御即位ハ豐樂院ニテソ有ケル元慶元年四月九日事始メ在テ同二年十月八日ニソ被造出ケル後冷泉院御宇天喜五年二月二十六日又ヤキニケリ治暦四年八月十四日事始メ在シカ共不被造出シテ後冷泉院崩御ナリ又後三條院御宇延久四年四月十五日造リ出シテ文人詩ヲ

奉作伶人奏樂遷幸奉成今ハ世末ニ成テ國ノカモ衰タレハ其後ハ終ニ不被造

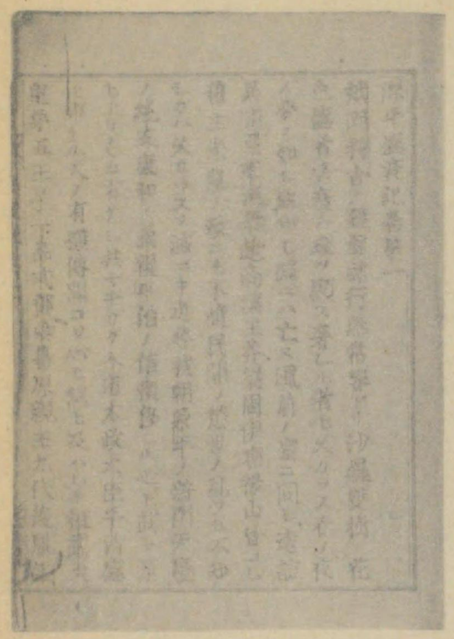
平家物語第一

燼ノ地トソ成ケル家々ノ日記代々ノ文書七珍萬寶サナカラ塵灰トナリヌ其間ノ費イカ計ソ人ノ燒死ヌル事數百人牛馬ノ類數ソ不知是只事ニ非ス山王ノ御谷メトテ比叡山ヨリ大ナル猿共カ二三千オリ下リ手手ニ松火ソトモヒテ京中ヲ燒トソ人ノ夢ニハ見ケリケル大極殿ハ清和天皇ノ御宇貞觀十八年ニ始テ燒タリケレハ同十九年正月三日陽成院ノ御即位ハ豐樂院ニテソ有ケル元慶元年四月九日事始有テ同二年十月八日ヲ造出サレタリケル後冷泉院ノ御宇天喜五年二月廿六日又燒ニケリ治暦四年八月十四日ニ事始有シカ共未作リモ出サレスシテ後冷泉院崩御ナリヌ後三條院ノ御宇延久四年四月十五日ニ作リ出サレテ文人詩ヲ上リ伶人樂ヲ奏シテ遷幸ナシ奉ル今ハ世末ニ成テ國ノカモ皆衰タレハ其後ハ終ニ作ラレス

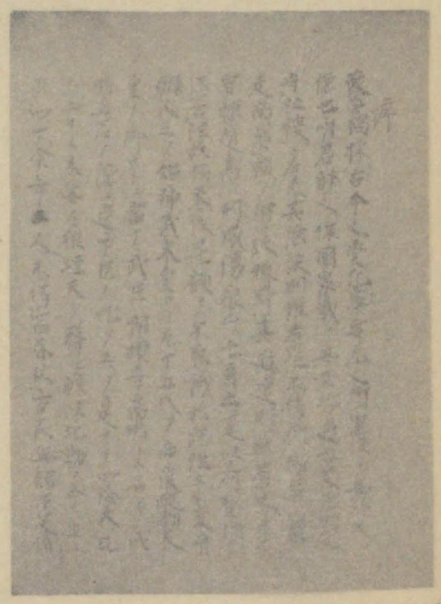
平家物語卷第一



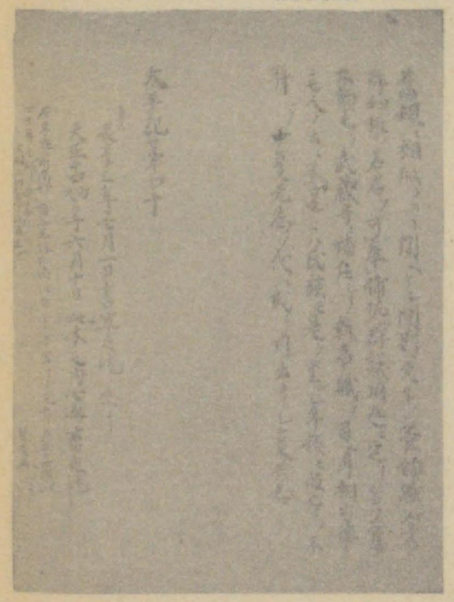
二二 平家物語（本文七二）0.91尺—0.65尺



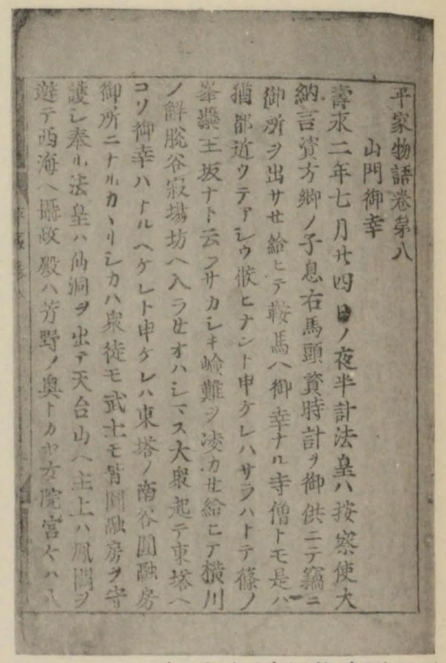
二三 源平盛衰記（本文八四）0.88尺—0.65尺



二四 太平記（本文九四）



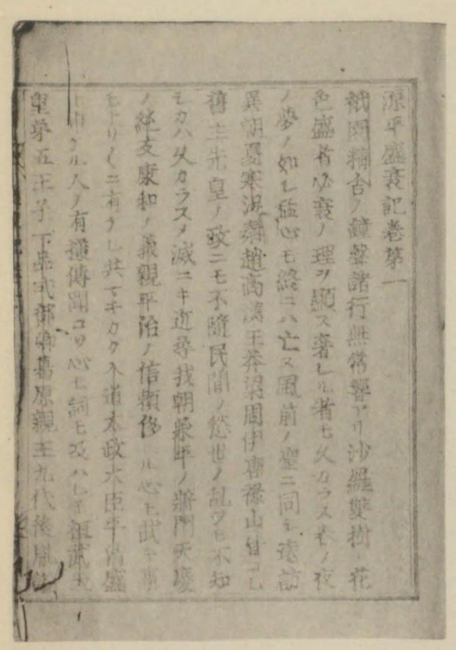
0.86尺—0.68尺



平家物語卷第八
山門御幸

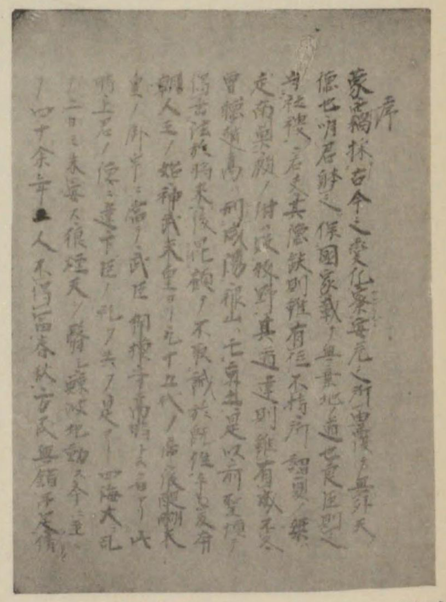
壽永二年七月廿四日ノ夜半計法皇ハ按察使大納言資方卿ノ子息右馬頭資時計ヲ御供ニテ竊ニ御所ヲ出サせ給ヒテ鞍馬ハ御幸ナル寺僧トモ是ハ猶都近ウテアシウ彼ヒナント申ケレハサラハトテ篠ノ峯縣王坂ナト云フサカシキ嶮難ヲ凌カせ給ヒテ横川ノ解脫谷寂場坊ハ入ラせオハシマス大衆起テ東塔ハコソ御幸ハナルヘケレト申ケレハ東塔ノ南谷圓融房御所ニナルカトリシカハ衆徒モ武士モ皆圓融房ヲ守護シ奉ル法皇ハ仙洞ヲ出テ天台山ハ主上ハ風聞ヲ避テ西海ハ攝政殿ハ芳野ノ奥トカヤ方隆宮ヤハ八

二二平家物語（本文七二）　0.91尺—0.65尺



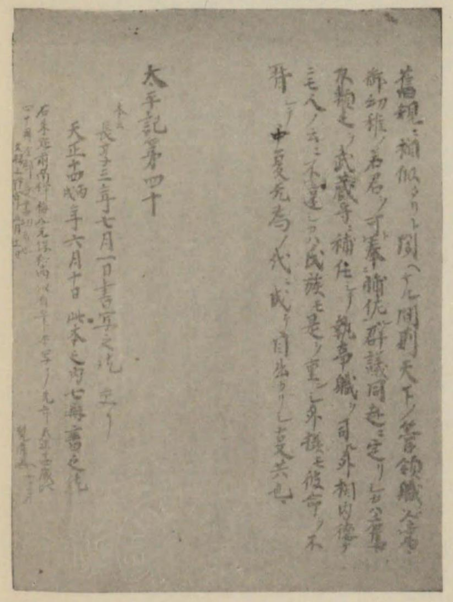
源平盛衰記卷第一

二三源平盛衰記（本文四八）　0.88尺—0.65尺

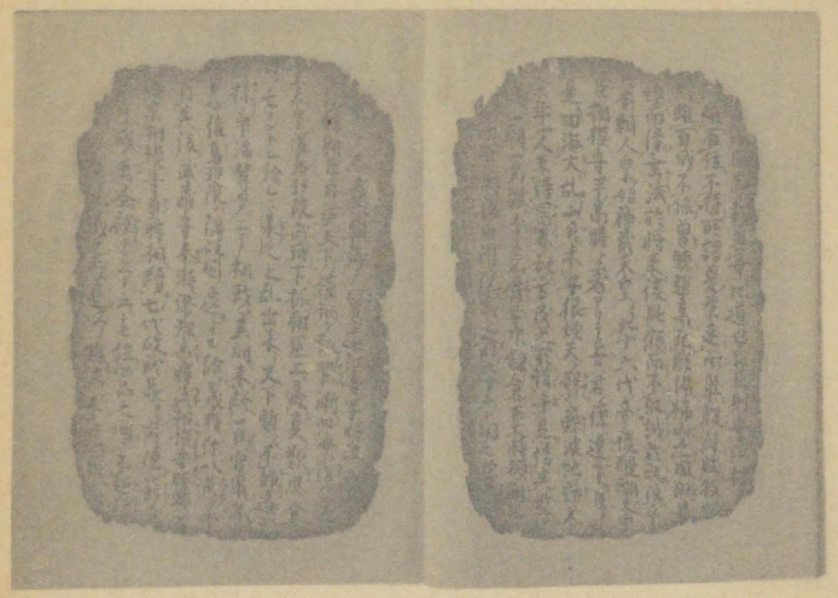


序

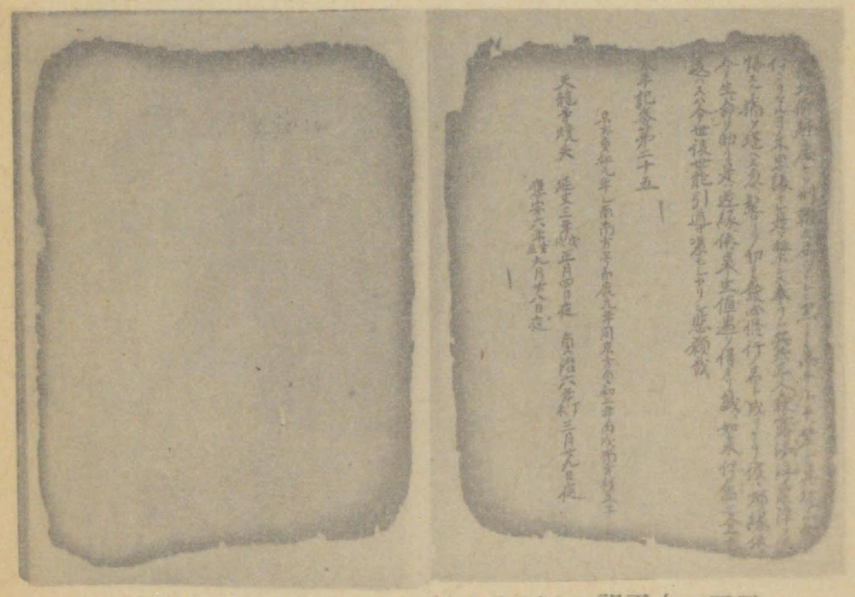
二四太平記（本文九四）　0.86尺—0.69尺



太平記卷第四十

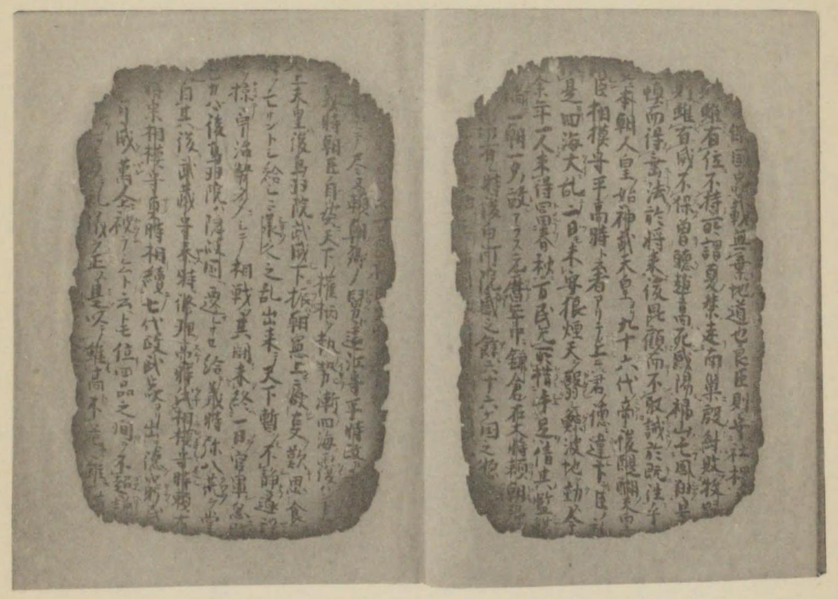


上　第一卷始首　　下　第二十五卷末尾

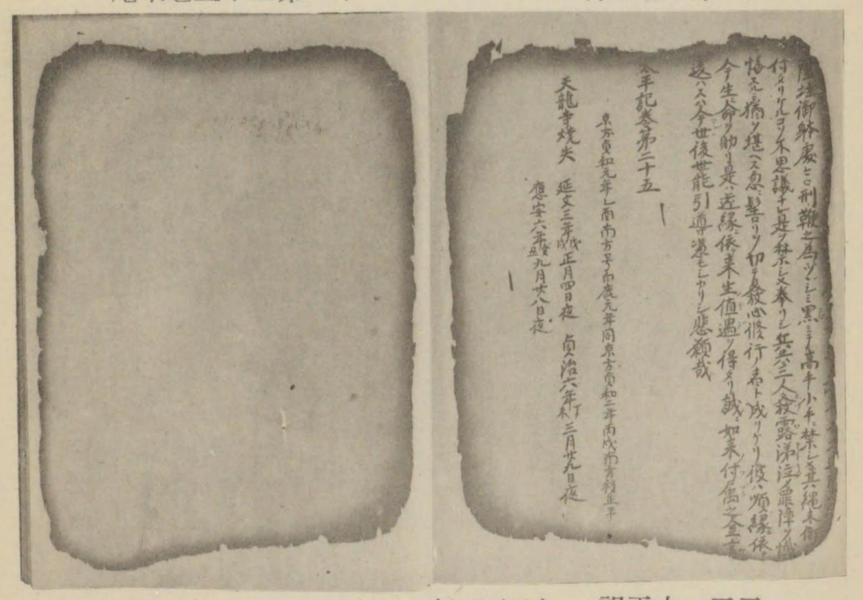


二五　太平記　（九八文本）

0.855尺→0.69尺

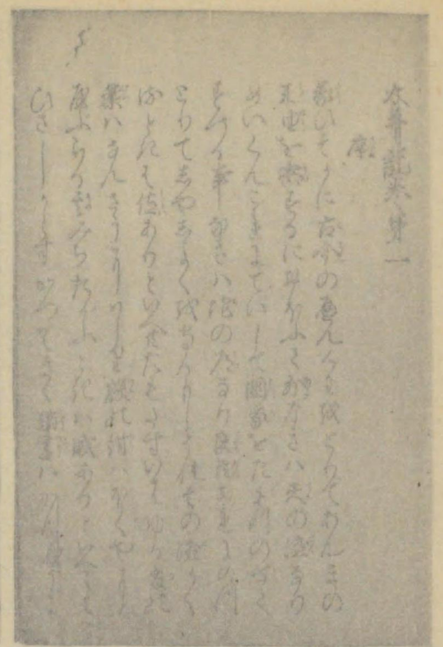


上　第一卷始首　　下　第二十五卷末尾

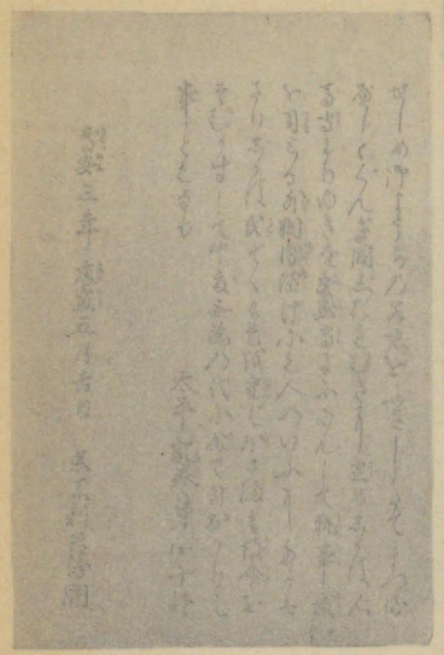


二五　太平記　（九八文本）

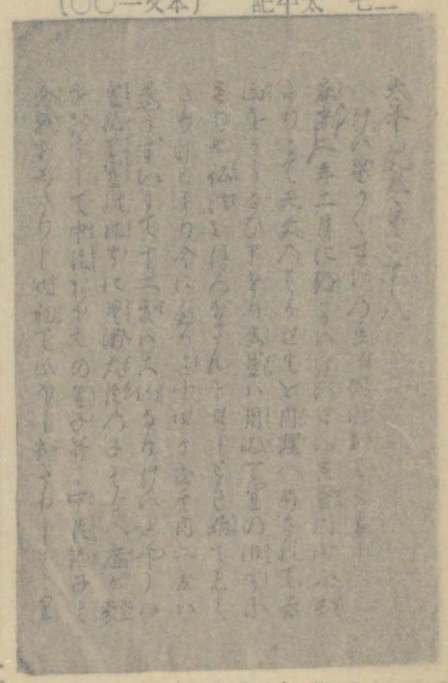
0.855尺→0.69尺



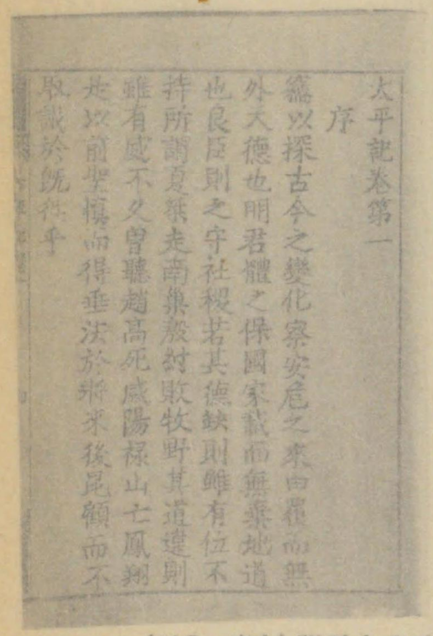
二七 太平記 (本文一〇〇)



0.925尺—0.66尺

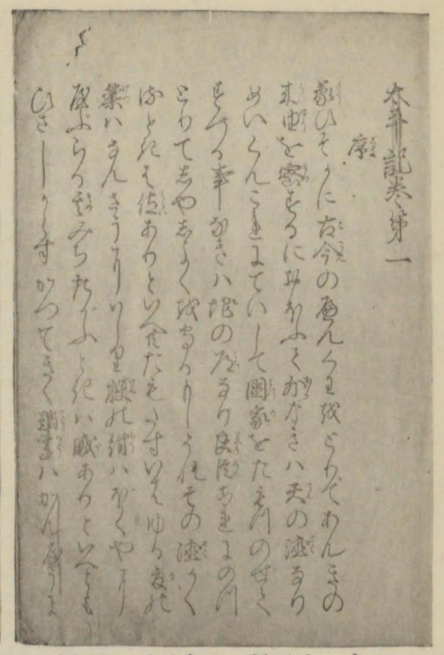


二六 太平記 (九九文本) 0.95尺—0.665尺



太平記卷第一
序
論以探古今之變化察安危之來由覆而無
外天德也明君體之保國家載而無棄地道
也良臣則之守社稷若其德缺則雖有位不
持所謂夏桀走南巢殷紂敗牧野其道違則
雖有威不久曾聽趙高死咸陽祿山亡鳳翔
是以前聖慎而得垂法於將來後昆顧而不
取戒於既往乎

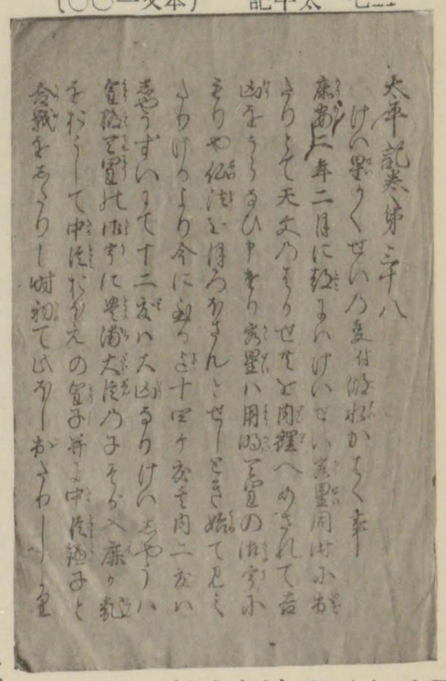
二八 太平記 (三〇一文本) 0.875尺—0.63尺



太平記巻第一
序

0.925尺—0.66尺

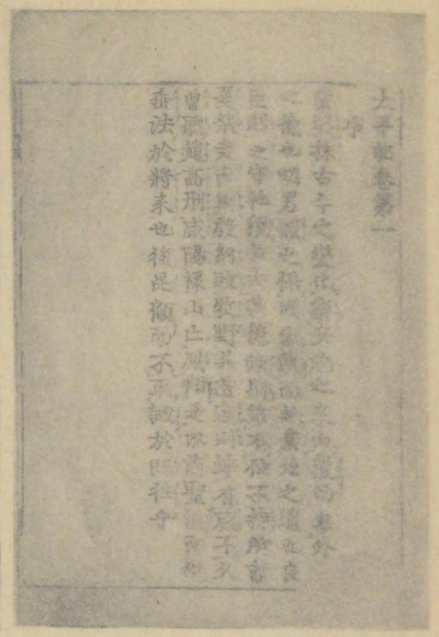
二七 太平記（〇〇一文本）

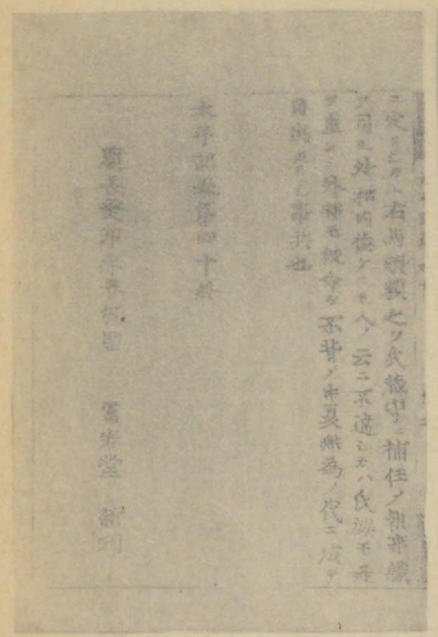


太平記巻第一
序

0.875尺—0.63尺（三〇一文本）記平太八二

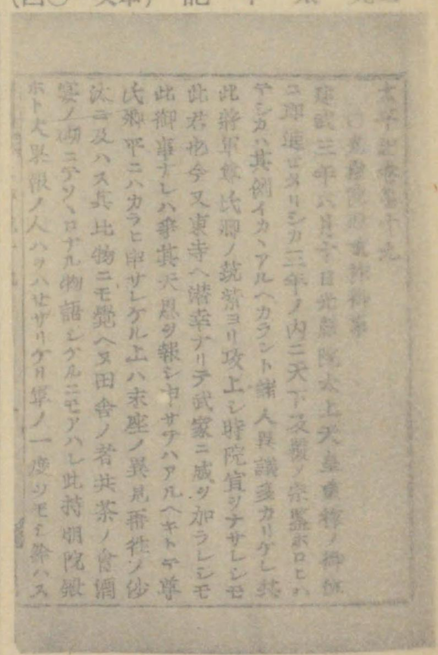
0.95尺—0.665尺（九九文本）記平太 六二

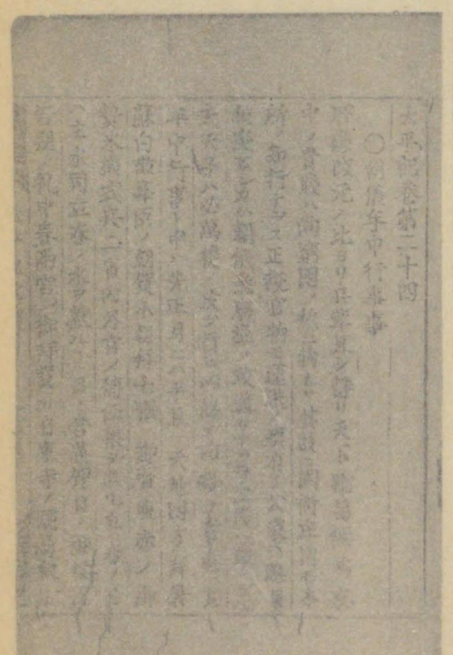




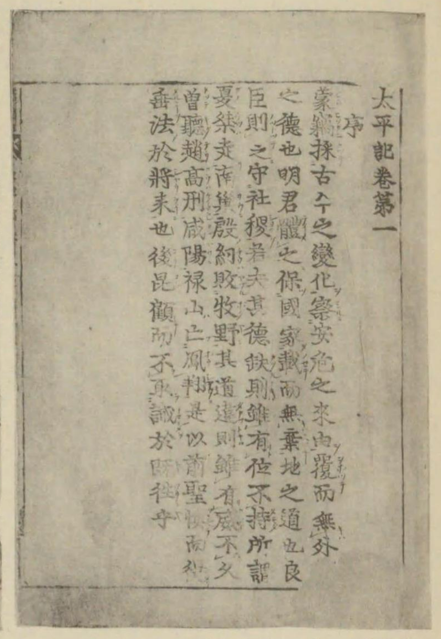
0.89尺—0.85尺

二九 太平記（本文一〇四）





0.88尺—0.85尺（八〇一文本）三一 太平記（本文一〇七）三〇 太平記

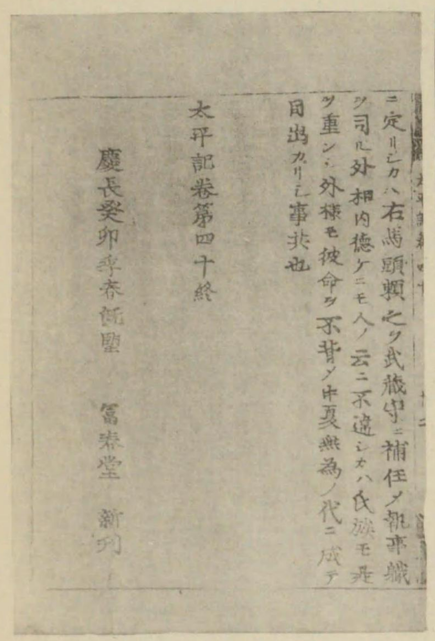


太平記巻第一

序

蒙聞揆古今之變化察安危之來由覆而無外
之德也明君體之保國家載而無棄地之道也良
臣則之守社稷者夫聖德缺則雖有位不持所謂
夏桀走南巢殷紂敗牧野其道違則雖有辰不久
曾聽趙高刑咸陽祿山亡鳳翔是以前聖慎而後
垂法於將来也後昆顧而不承誡於既往乎

二九 太平記 (本文一〇四)

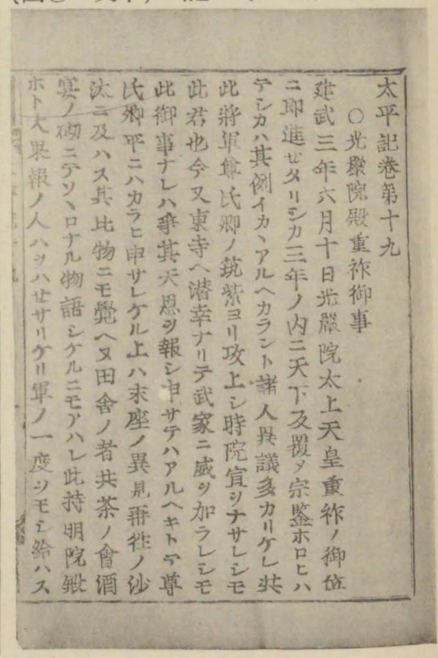


二定リシカハ右馬頭頼之ノ武蔵守ニ補任ノ執事職
ヲ司ル外押内徳ケニモ人ノ云ニ不適シカハ氏族モ是
ヲ重ン・外様モ彼命ヲ不背ノ中夏無為ノ代ニ成テ
目出カリシ事共也

太平記巻第四十終

慶長癸卯孟春低圍　富春堂　新刊

0.89尺—0.65尺

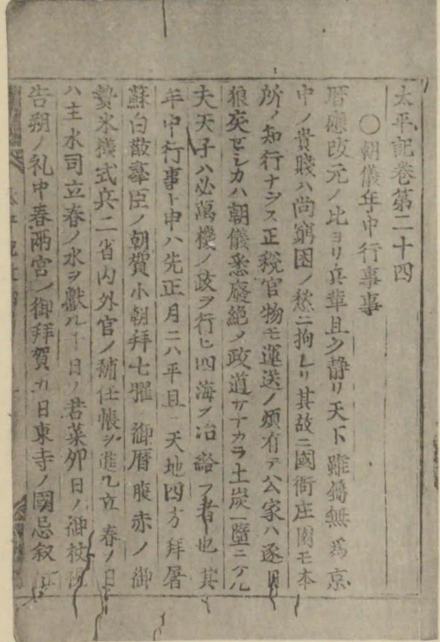


太平記巻第十九

○光厳院殿重祚御事

建武三年六月十日光厳院太上天皇重祚ノ御位
ニ即進セタリシカ三年ノ内ニ天下又覆ヘ宗鑒ホロヒハ
テシカハ其例イカヽアルヘカラント諸人異議多カリケレ共
此將軍尊氏卿ノ兢紫ヨリ攻上シ時院宣シナサレシモ
此君也今又東寺ヘ潜幸ナリテ武家ニ威ヲ加ラレシモ
此御事ナレハ尊其天恩ヲ報シ申サテハアルヘキトテ尊
氏卿平ニハカラヒ申サレケル上ハ末座ノ異見再往ノ沙
汰ニ及ハス其比物ニモ懲ヘヌ田舎ノ者共茶ノ會酒
宴ノ砌ニテソヽロナル物語シケルニモアハレ此持明院殿
ホト大果報ノ人ハヲハせサリケリ軍ノ一度ソモシ給ハス

三〇 太平記 (本文一〇七)



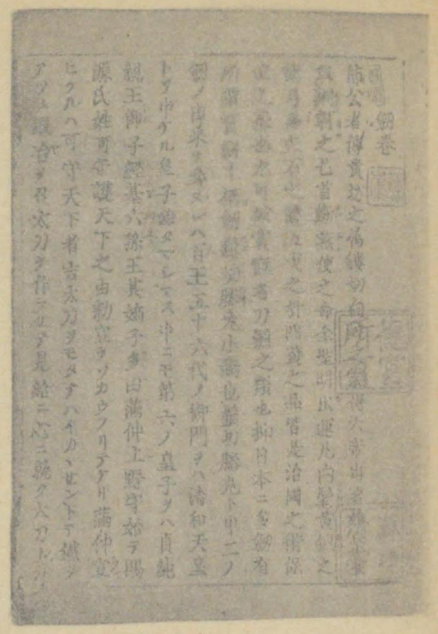
太平記巻第二十四

○朝儀年中行事事

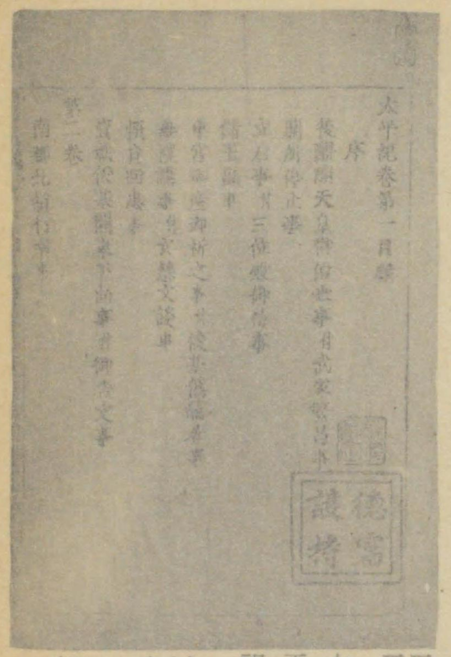
暦應改元ノ比ヨリ兵革且ク静リ天下雖獨無為京
中ノ貴賤ハ尚窮困ノ愁ニ拘レリ其故ニ國衙庄園モ本
所ノ知行ナラス正税官物モ運送ノ煩有テ公家ハ逐日
狼戾セシカハ朝儀悉廢絶ノ政道ヲヲカラ土炭一鹽ニ乏ル
夫天子ハ必萬機ノ政ヲ行ヒ四海ノ治給フ者也其
年中行事ト申ハ先正月二八平旦天地四方拜屠
蘇白散奉臣ノ朝賀小朝拜七曜御暦服赤ノ御
贄氷魚式兵二省内外官ノ補任帳ヲ進ル立春ノ日
ハ主水司立春ノ水ヲ獻ル十日ノ君菜外日ノ御祓
告朔ノ礼中春兩宮ノ御拜賀九日東寺ノ國忌叙

0.93尺—0.665尺

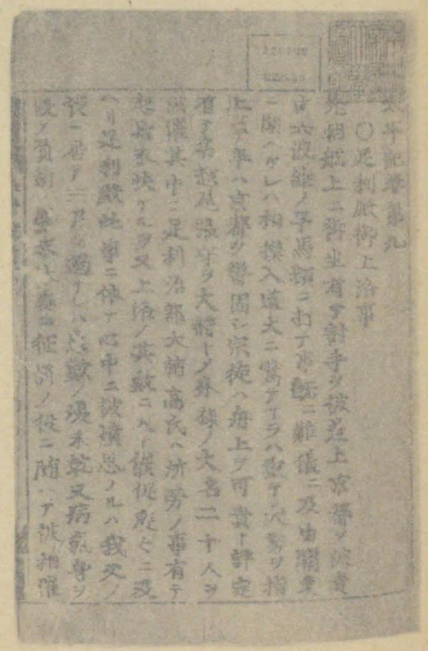
三一 太平記 (本文一〇八)



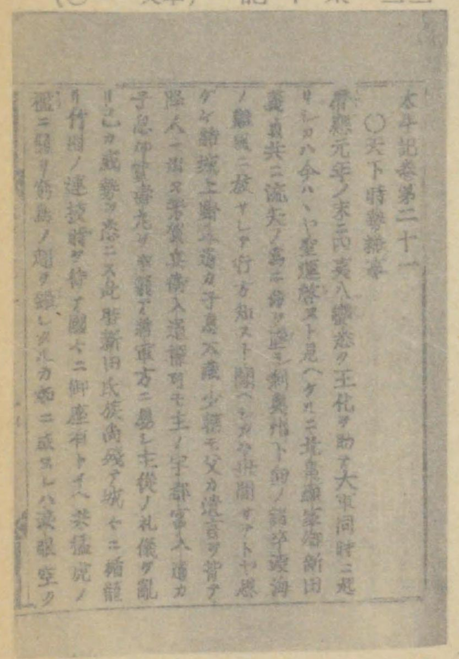
三二　太平記（本文一〇九）



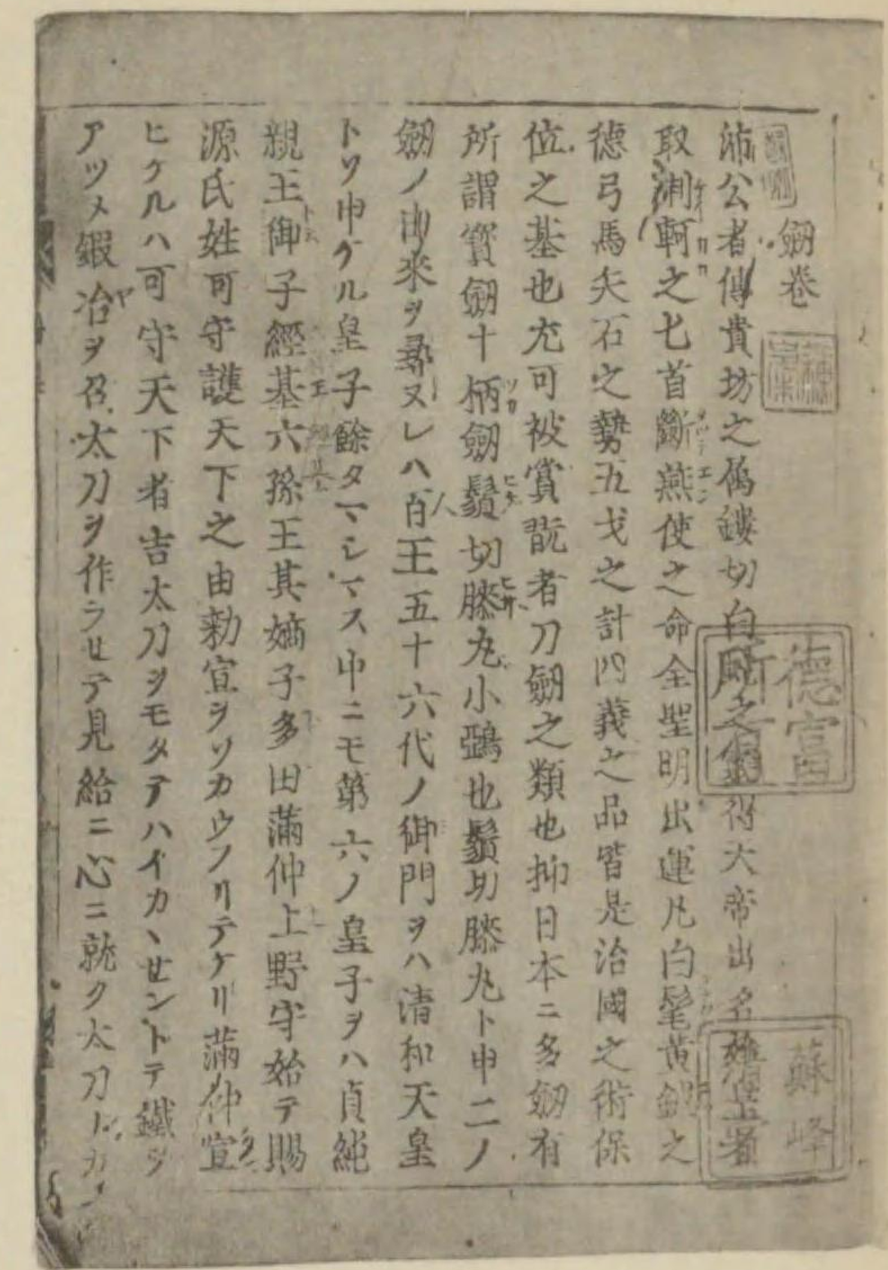
三三　太平記（本文一一〇）



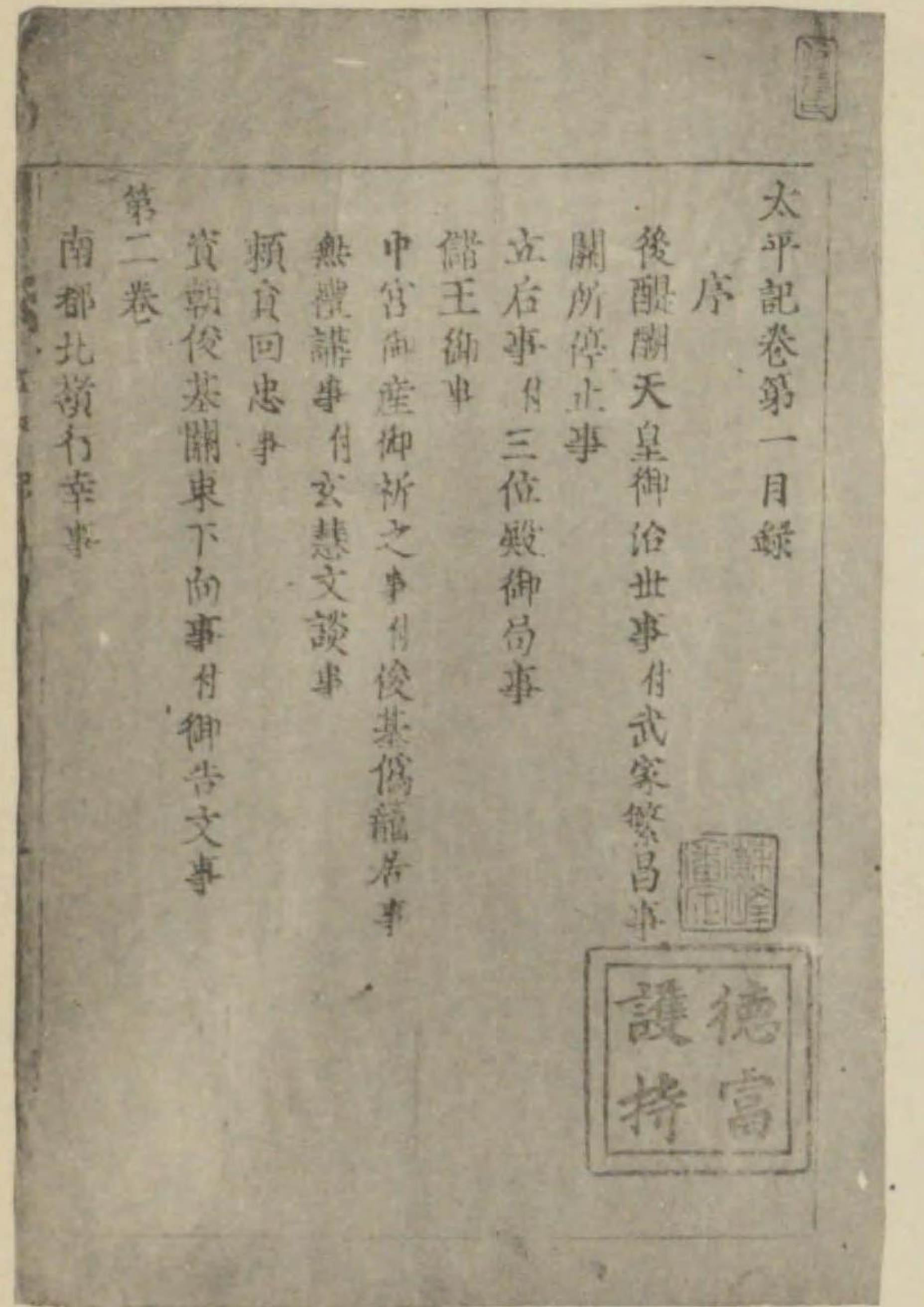
三四　太平記（本文一一一）　0.91尺—0.64尺



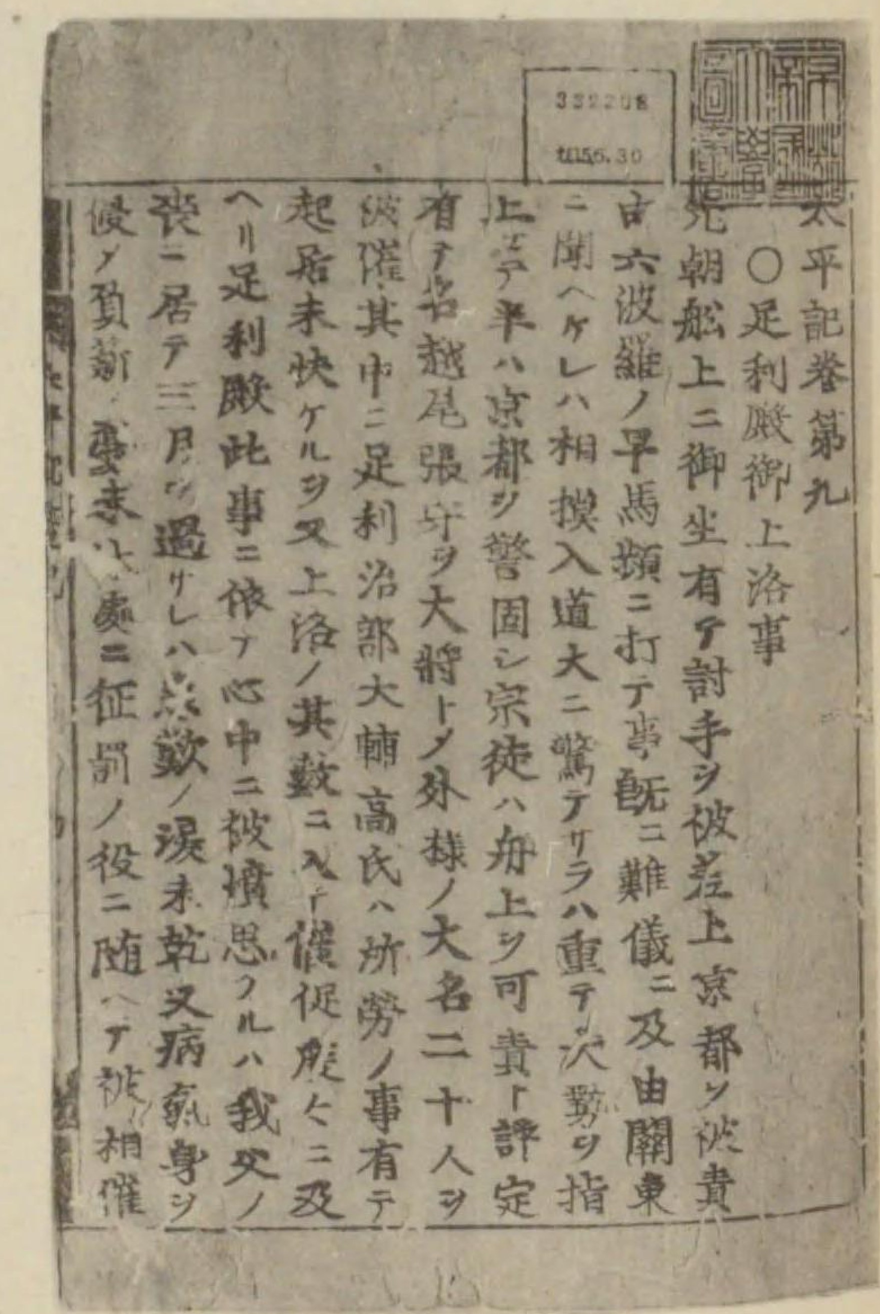
三五　太平記（本文一一二）　0.91尺—0.63尺



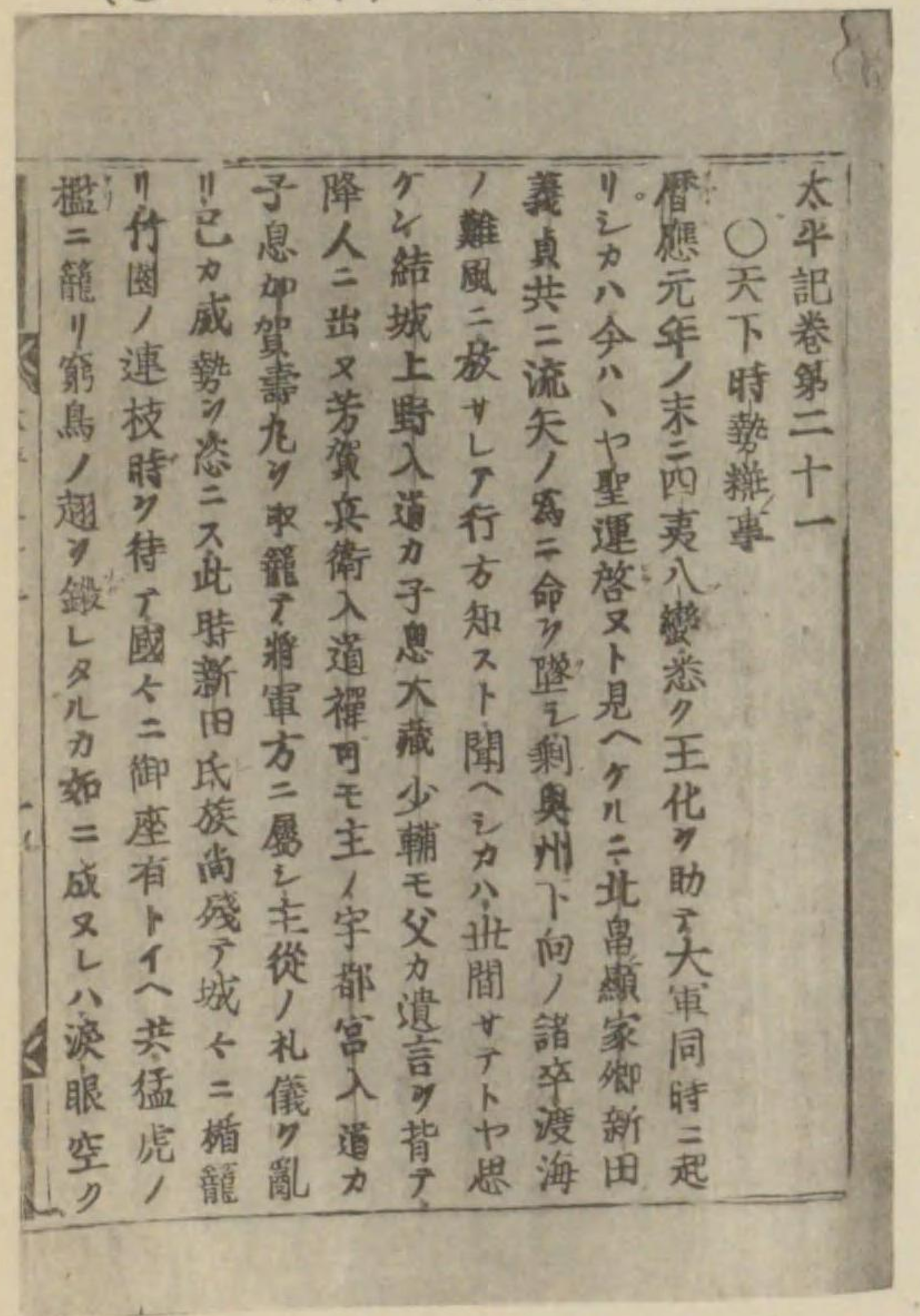
三二　太平記（本文一〇九）



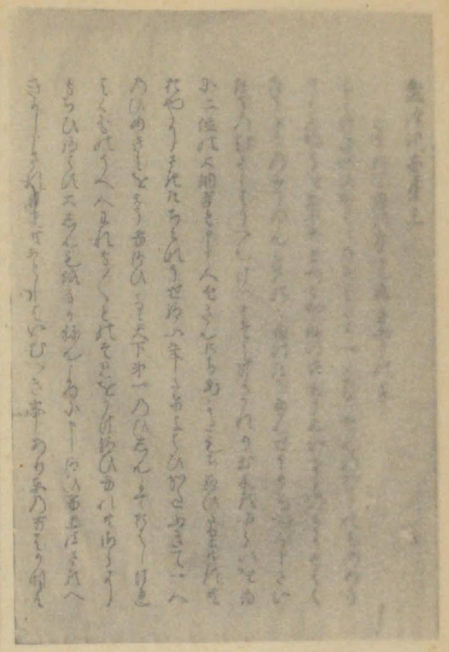
三三　太平記（本文一一〇）



三四　太平記（本文一一一）0.91尺—0.64尺

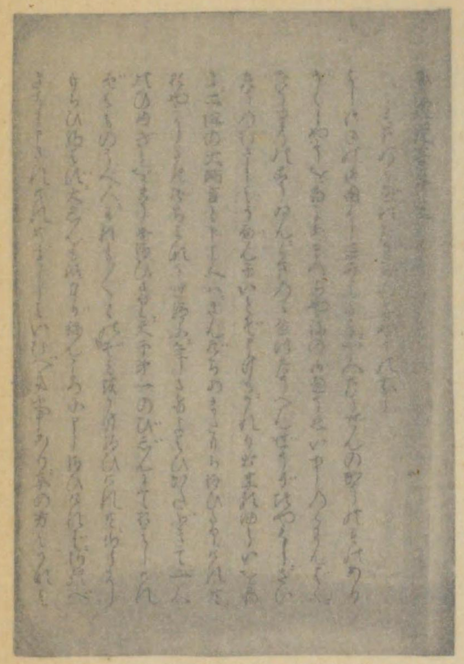


三五　太平記（本文一一二）0.91尺—0.68尺



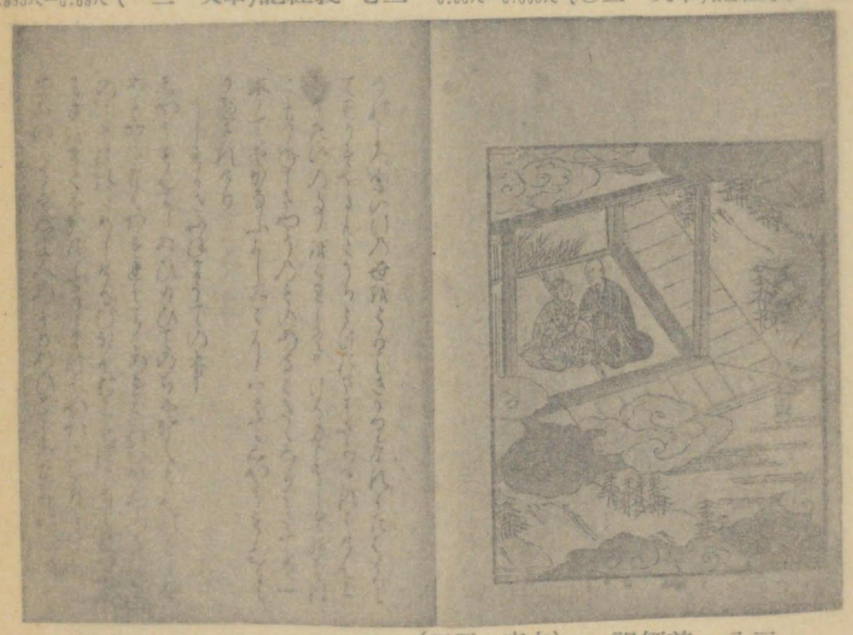
0.93尺—0.685尺

三六　義經記（本文一三〇）



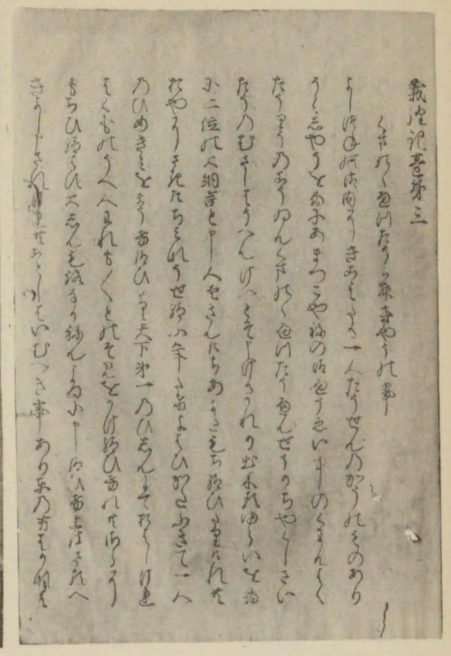
0.935尺—0.69尺

三七　義經記（本文一三一）

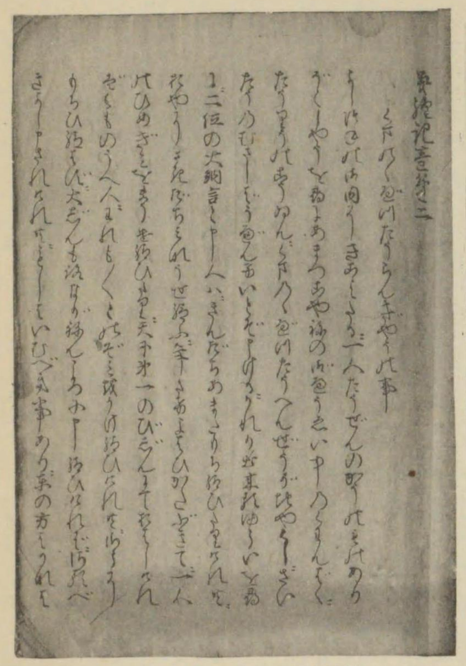


0.875尺—0.635尺

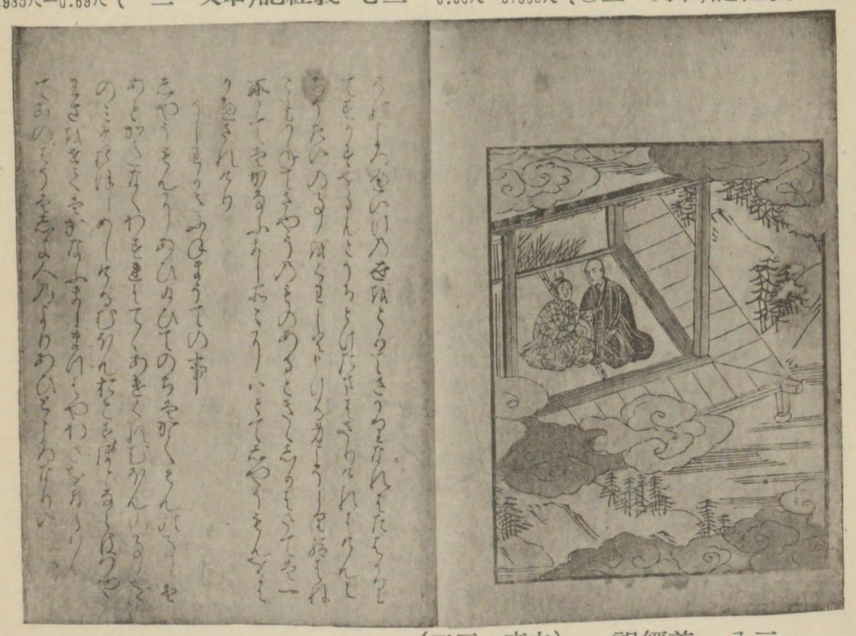
三八　義經記　（本文一三二）



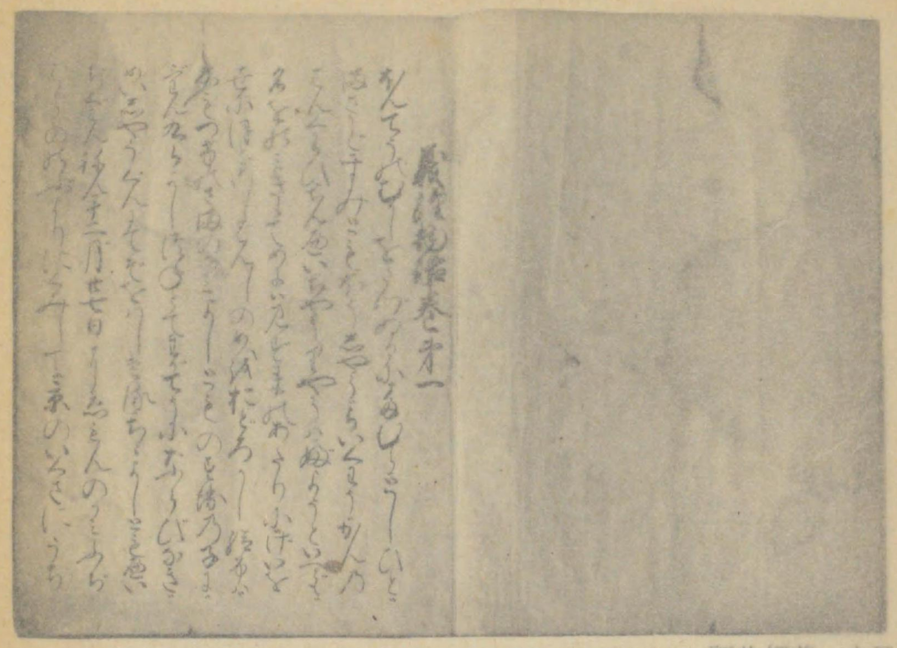
0.93尺—0.685尺 (〇三一文本) 義經記 六三



0.935尺—0.69尺 (一三一文本) 義經記 七三

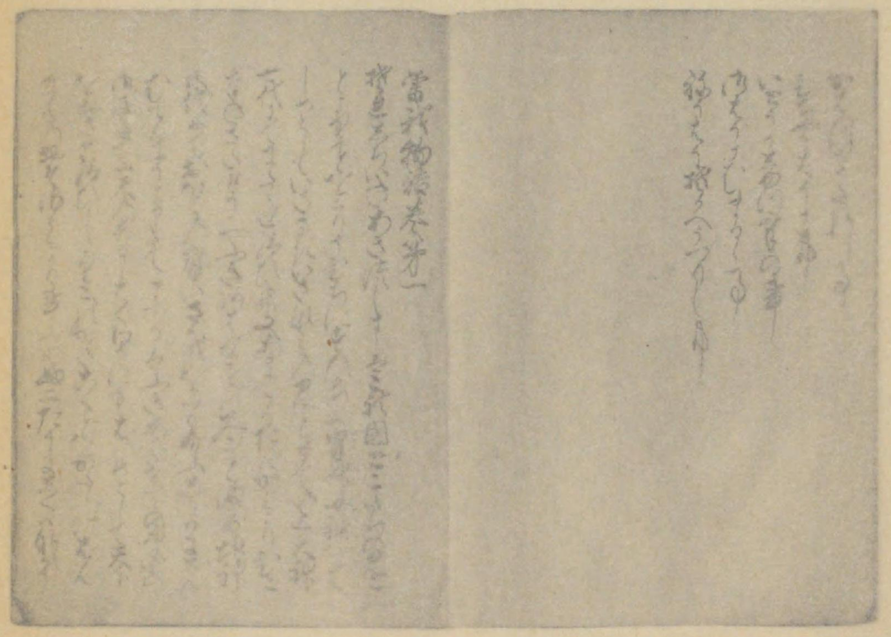


0.875尺—0.635尺 (二三一文本) 義經記 八三



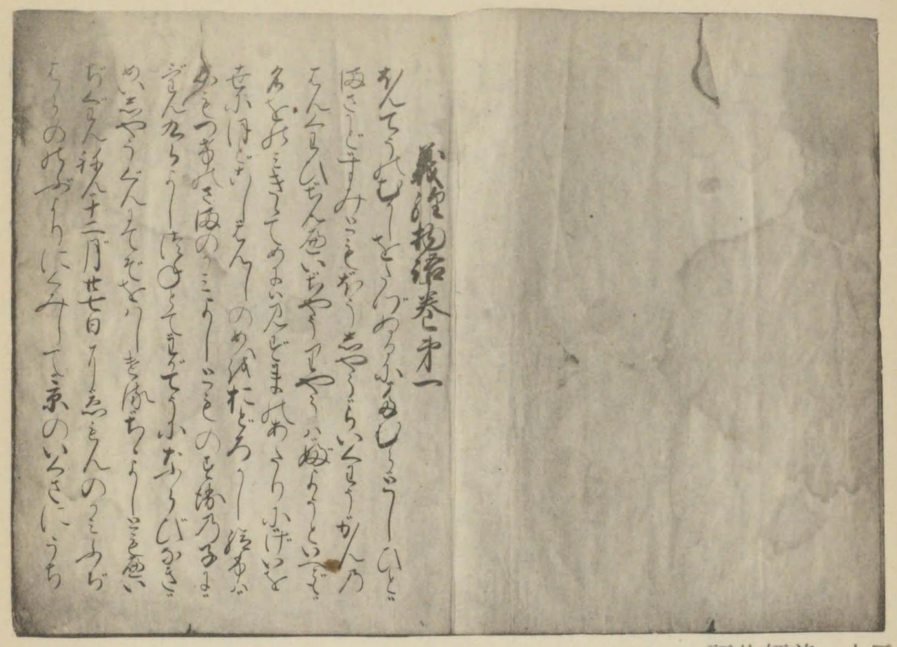
0.91尺—0.705尺

三九　義經物語　（本文一二八）

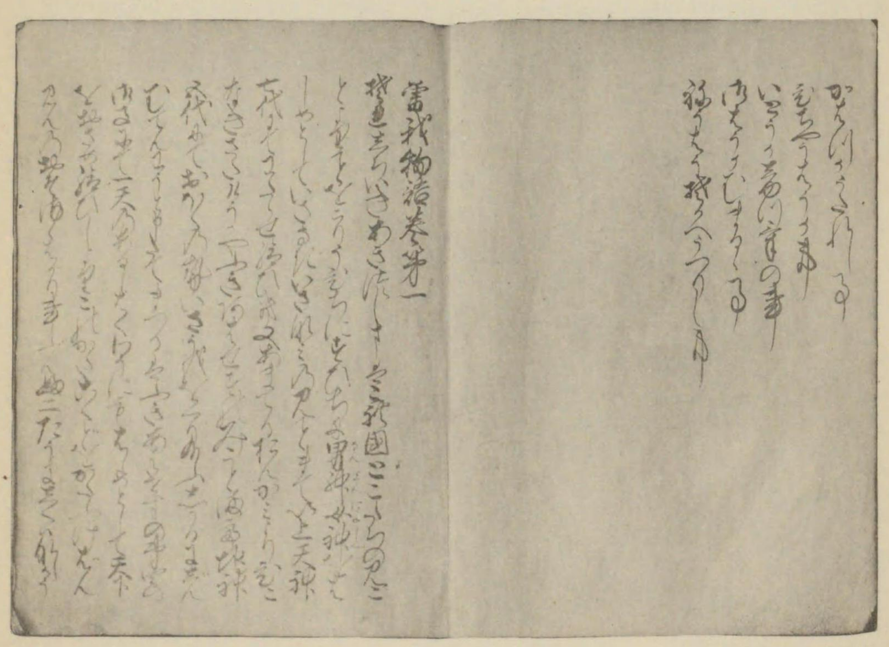


0.80尺—0.575尺

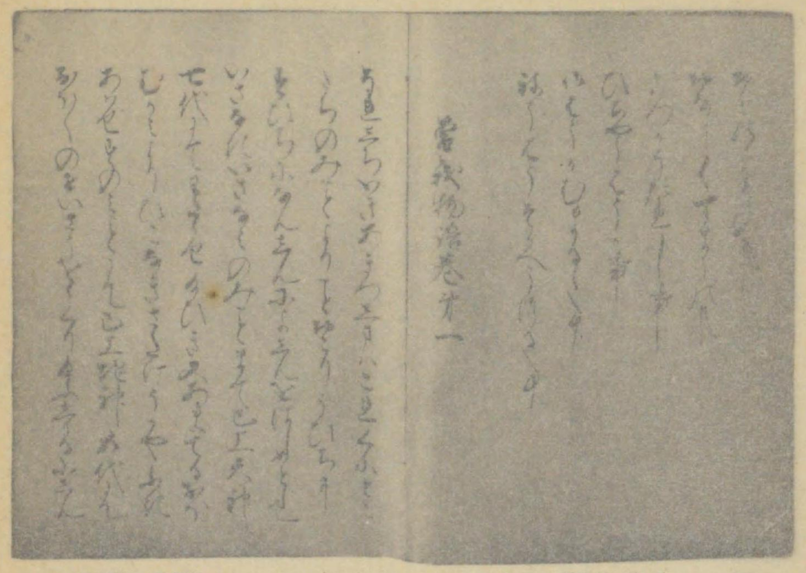
四〇　曾我物語　（二四一文本）



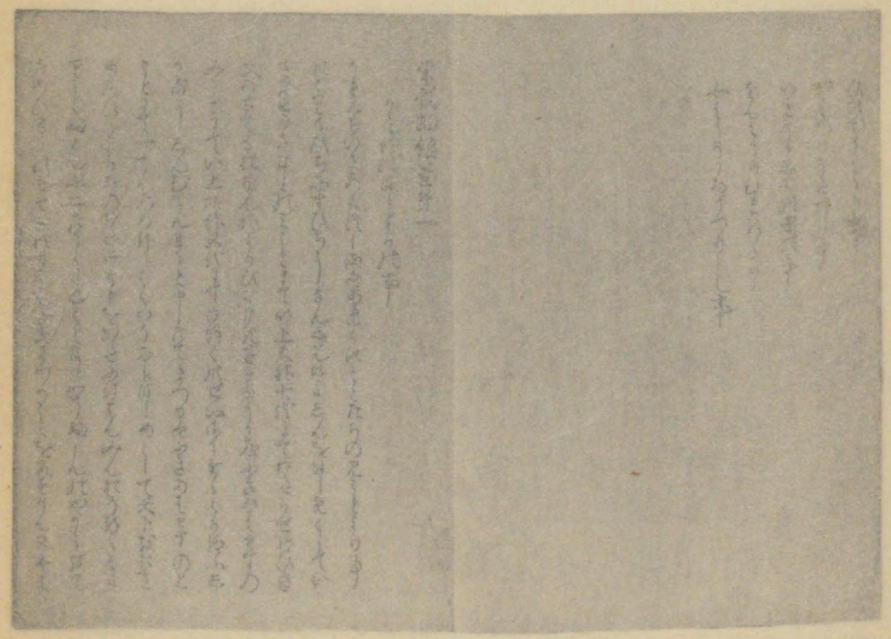
0.91尺—0.705尺　　（本文一二八）　　語物經義　九三



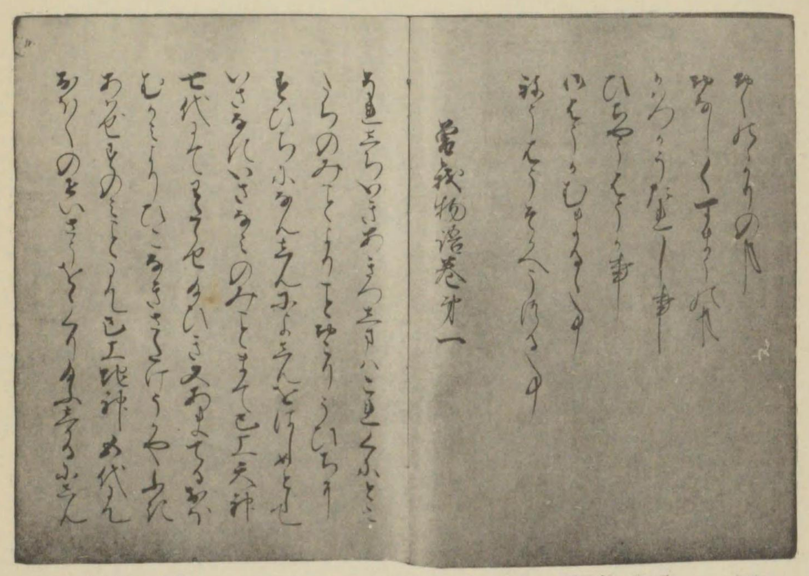
0.89尺—0.675尺　　（二四一文本）　　語物我曾　〇四



0.795尺—0.59尺　　(〇四一文本)　曾我物語　一四

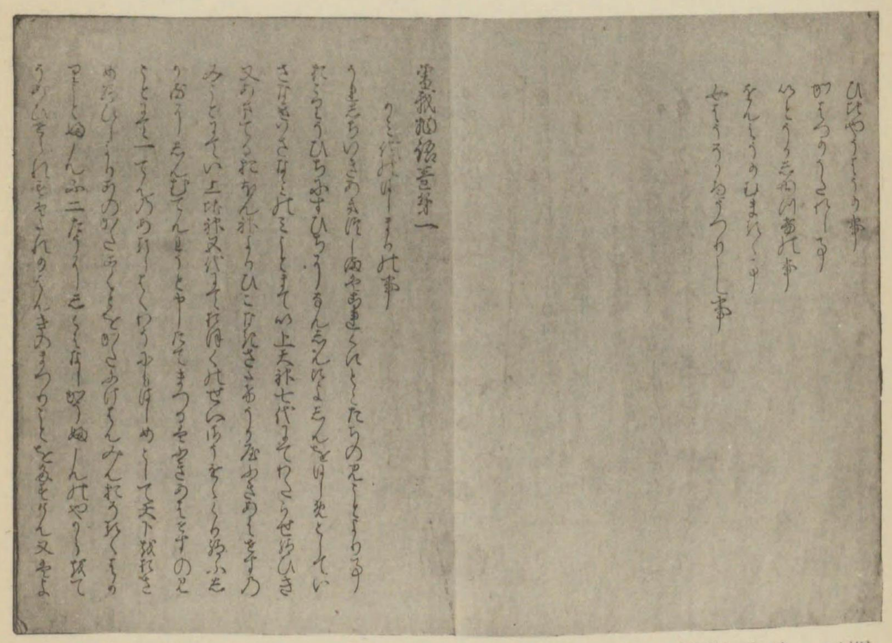


0.59尺—0.685尺　　(六四一文本)　曾我物語　二四



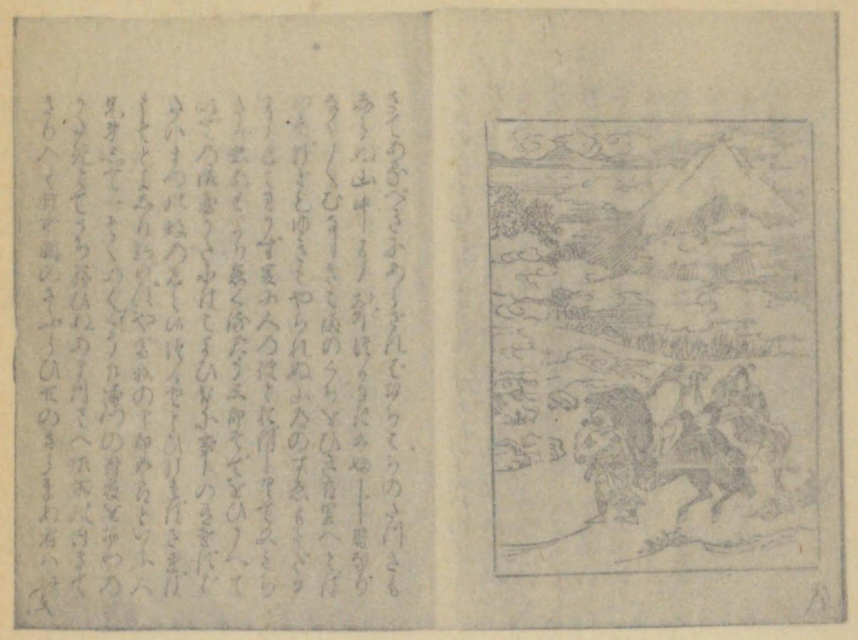
0.795尺－0.58尺

四一　曾我物語　（本文一四〇）



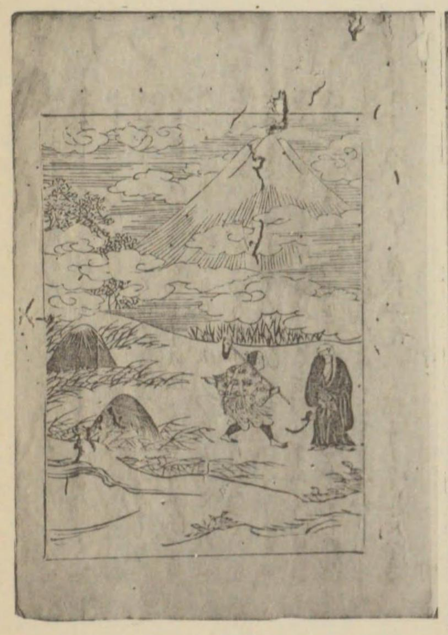
0.90尺－0.685尺

四二　曾我物語　（本文一四六）



0.895尺—0.88尺

（七四一文本）　語物我曾　三四



0.895尺—0.66尺

（七四一文本）　語物我曾　三四

軍記物語

1 保元物語

一 保元物語 鈔本

積善院尊雅筆　古寫　三冊　前田利爲氏藏

參考保元物語ノ校訂ニ用ヰシ京師本ニ內容一致スル點多シ。（圖版參照）

二 保元物語 古寫

三冊　學習院圖書課藏

九條家舊藏ニシテ、九條家本ト呼バル。京師本ノ系統ナルベキモ、京師本ニ於テハ人名等多クハ假字ヲ用フルテ、本書ハ大概眞字ヲ用フ。

三 保元物語 古寫

三冊　松井簡治氏藏

塙本トシテ知ラレルモノニシテ、京師本ノ內容ニ一致スルトコロ多シ。

「和學講談所」ノ印記アリ。（圖版參照）

四 保元物語

二冊　東京文理科大學圖書館藏

奥書「此保元物語ハ一種ノ異本也。往年保元物語印板シテ世ニ行ハル。其後又水戸西山公其臣今井弘

濟ニ命シテ考訂アリシ參考保元物語モ印板ヲ免サレテ世ニ行ハル。彼參考ニ引レシハ京師本・杉原本・鎌倉本・半井本・岡崎本ノ五品ナリ。先ノ印本參考本ニ校合スルニ似タル所モアリ。誠ニ珍書ナル故銀鄕安齋ノ藏本ヲ乞需テ書寫シ云々。」

朱書アリ。「根津文庫」ノ印記アリ。

五　保元合戰物語　古寫　二冊　猪熊信男氏藏

保元物語ノ別名ナリ。眞字多キ片假名交リニシテ、內容辭句ハ流布本保元物語ニ近似スルモ、上下二卷トナシ、三卷ノ流布本トハ編次ヲ異ニス。用紙ハ輪廓印刷ノモノヲ用フ。

六　保元物語　六卷　二冊　高木武氏藏

內容辭句ハ流布本ニ似テ、保元合戰記トモ內題アレバ、合戰物語本ヲ平假名交リ文ニ書寫シテ節目ヲ立テ、之ヲ六卷ニ分置シタルモノナルベシ。「長亭藏書」ノ印記アリ。

刊本

七　保元物語　古活字　平假名交リ十行　嵯峨本　二冊　東京文理科大學圖書館藏

慶長頃刊。內容辭句ハ流布本系ノモノナルガ、上・下二卷ニ分テリ。

「嵯峨流渡邊文庫」ノ印記アリ。（圖版參照）

八　保元物語　古活字（前書ト同版）　卷下欠　一冊　猪熊信男氏藏

九　保元物語　古活字　平假名交リ十行　卷下欠　一冊　京都帝國大學圖書館藏

「洒竹文庫」ノ印記アリ。（圖版參照）

一〇　保元物語　古活字　附訓平假名交リ十二行　卷下欠　二冊　谷村一太郎氏藏

（圖版參照）

一一　保元物語　古活字　附訓平假名交リ十二行　三冊　德富蘇峰氏藏

元和頃刊。「渡邊家山淵書倉印」ノ印記アリ。（圖版參照）

一二　保元物語　寬永頃刊　一冊　帝國圖書館藏

一三　保元物語　丹緑本　卷三欠　二冊　京都帝國大學圖書館藏

一四　保元物語　丹緑本　三冊　大友佐一氏藏

一五　保元物語　繪入　三冊　石川縣立圖書館藏

× ×

一六　參考保元物語　今井弘濟考訂・內藤貞顯重校　元祿六年刊　九冊　京都帝國大學圖書館藏

一七　繪本保元平治　秋里籬島著　享和元年刊　一〇冊　石川縣立圖書館藏

2 平治物語

鈔本

一八 平治物語　室町頃寫　片假名交リ七行　三冊　德富蘇峰氏藏

目次ナク句節ヲ分タズ、記事簡潔ニシテ「賴朝伊豆下着」ニテ筆ヲ止メ、參考平治物語ニ引ク所ノ半井本ニ近キ系統ノ善寫本ナリ。朱點アリ。（圖版參照）

一九 平治物語　積善院尊雅筆　古寫　三冊　前田利爲氏藏

內容・記事著シク流布本ト異リ、「もりやす夢合せ、賴朝伊豆下着」ニテ筆ヲ止ム。前記同氏藏尊雅筆保元物語ト姉妹書ナリ。

二〇 平治物語　古寫　平假名交リ十行　合一冊　池田龜鑑氏藏

「賴朝伊豆下着」ニテ筆ヲ止ムル姿ナリ。前田家本等ト同一系統ノ異本ナラン。（圖版參照）

二一 平治物語　古寫　三冊　松井簡治氏藏

塙本、流布本トハ著シキ相違アリ。前田本・池田本等ノ系統ヲ引ケルモノナルベク、「賴朝伊豆下着」ニテ筆ヲ止ム。「和學講談所」ノ印記アリ。

二二 平治物語　古寫　三冊　學習院圖書課藏

「牛若奧州下向」以下ノ記事增補サレタル點、流布本ト同趣ニシテ京師本ノ系統ナルベシ。九條家舊藏本ニシテ前記同課藏保元物語ト姉妹書ナリ。

二三 平治物語　六卷　二冊　高木武氏藏

內容・目次等流布本ニ同ジク、目次ヲ六卷ニ分置シタルモノナリ。前記同氏藏保元物語ト姉妹書ナリ。

奧書「平治物語二卷加也。此本何方へ參居候共早速此人へ御戻シ可被下候己上
文化十乙亥年初春生年廿歲寫之　小野住　石川梅染主」

二四 平治物語　二冊　小川壽一氏藏

古キ姿ノモノヲ要約書寫セルモノニシテ、全文皆抄約體ニシテ人物ノ對話ノミニテ、緊文ヲ約セル箇所多シ。平治物語評判ノ寫本ナランカ。朱點アリ。

刊本

二五 平治物語　古活字　平假名交リ十行　嵯峨本　三冊　東京文理科大學圖書館藏

慶長頃刊。前記同館藏保元物語ト同種印本ナリ。「嵯峨支流渡邊文庫」ノ印記アリ。

二六 平治物語　古活字（前書ト同版）　卷上欠　二冊　德富蘇峰氏藏

二七 平治物語　古活字　附訓平假名交リ十一行　卷上欠　二冊　京都帝國大學圖書館藏

刊記「紀州　能阿彌鋟梓」

二八　平　治　物　語　古活字　平假名交リ十行　卷中・下欠　一　冊　京都帝國大學圖書館藏

二九　平　治　物　語　古活字　附訓平假名交リ十二行　三　冊　德富蘇峰氏藏

元和頃刊。前記同氏藏保元物語古活字本ト同種印本ナリ。「渡邊家山淵書倉」ノ印記アリ。

三〇　平　治　物　語　丹絲本　平假名交リ　三　冊　京都帝國大學圖書館藏

前記同館藏保元物語丹絲本ト姉妹書ニシテ、卷四・五・六ヨリ成ル。卷六ハ補足寫本ナリ。

三一　平　治　物　語　丹絲本　平假名交リ（前書ト異版）　合　三　冊　大友佐一氏藏

三二　平　治　物　語　片假名交リ　一　冊　帝國圖書館藏

×　×

三三　參考平治物語　今井弘濟考訂・內藤貞顯重校　元祿六年刊　六　冊　德富蘇峰氏藏

「瀧澤氏藏書」ノ印記アリ。馬琴ノ手澤本ナリ。

三四　參考平治物語　今井弘濟考訂・內藤貞顯重校　元祿六年刊　六　冊　京都帝國大學圖書館藏

3　平家物語

鈔本

三五　平　家　物　語　高楷訪月自筆（文化二年）　二四冊　高野辰之氏藏

平家各卷ヲ上下二冊宛ニ分チ、節譜ヲ附ス。祇園精舍ノ卷及ビ灌頂ノ卷ナシ。

奥書「高楷舒嘯齋また訪月ともいへり。或は京の人にして醫を業としたりしか。歿時享年明かならず。平語小曲二卷の著ありて寛政十二年に刊行せり。云々」（圖版參照）

三六　平　家　正　節　荻野知一著　三八冊　帝國圖書館藏

平家ノ語リ本ナリ。美濃半截綴、本文三十六冊、小秘事一冊、譜錄一冊アリ。朱ヲ加フ。

奥書「右此灌頂ノ卷者盲僧平曲之中、次ニ大小二曲之奥秘」凡不ニ一部之章句曲節諳語之者」猥不レ許ニ傳授ニ。仍此書爲ニ家藏」最不レ可レ出ニ窓外」者也。安永丙申秋日千邨諸成撰」

「室賀正堯藏書」ノ印記アリ。（圖版參照）

三七　訪　月　八坂流譜本ノ影寫　一　冊　山田孝雄氏藏

平家物語「月見」ノ卷ニ八坂流ノ節付ヲシタルモノ。

×　×

三八　平家物語　古寫　一方本　一二冊　高野辰之氏藏

一方檢校本系統ノ書寫本。朱點ヲ附セリ。「箭峰藏書」ノ印記アリ。（圖版參照）

三九　平家物語　元和・寛永頃寫　一方本　一二冊　神宮文庫藏

一方檢校本系統ノ書寫本。朱點ヲ附セリ。「林崎文庫」「和學講談所」ノ印記アリ。

四〇　平家物語　一方本　一二冊　東京文理科大學圖書館藏

第一冊ニ節付アリ。

四一　平家物語　京師本　一二冊　帝國圖書館藏

十二卷目次末ニ「高倉院御願文」「劍」「宗論」ノ三目アレド本文ナシ。

奥書「右平家物語十二卷者於或家求レ之。不レ可レ出ニ閫外一者也。嘉永三季十一月五日鱸室」

「伴氏家印」ノ印記アリ。

四二　平家物語　古寫　康豐本　一二冊　前田利爲氏藏

各卷末ニ「上野介康豐」ノ墨書アリ。鎌倉問註所舊藏。（圖版參照）

四三　平家物語　古寫　葉子十行本　一二冊　京都府立圖書館藏

朱點ヲ附セリ。「津山文庫」ノ印記アリ。

四四　平家物語　文祿・慶長頃寫　覺一本　一二冊　高野辰之氏藏

朱點ヲ附セリ。大村伯爵家舊藏。

奥書「于時應安四年辛亥三月十五日平家物語一部十二卷付灌頂當流之師說傳受之秘決一字不レ闕以ニ口筆一令ニ書寫レ之讓ニ與定一檢校一訖。抑愚質餘算既過ニ七旬一浮命亘レ期ニ後年一而一期之後弟子等中雖ニ爲ニ一句一若有ニ癈忘輩一者定及ニ諍論一歟、仍爲レ備ニ後證一所レ令ニ書留レ之也。此本努々不レ可レ出ニ他處一又不レ可レ及ニ他人之披見一附屬弟子之外者雖レ爲ニ同朋并弟子一更莫レ令レ書ニ取之一。凡此等條々肖ニ炳誡一之者佛神三寶冥罰可レ蒙ニ厥躬一而已。沙門覺一」（圖版參照）

四五　平家物語　慶長以前寫　覺一本　零本　四冊　山田孝雄氏藏

四六　平家物語　文明頃寫　眞名本　一二冊　前田利爲氏藏

尾張熱田ノ別當宗弁ノ筆寫ナリ。卷一ハ後ノ補足ニシテ、用紙・筆續ヲ異ニスルモ、卷二以下ハ春日版等ノ古刊經・古寫經ノ裏面ヲ用フ。「節齊」ノ印記アリ。（圖版參照）

四七　平家物語　阿波國文庫眞名本ノ影寫　四部合戰狀本　一〇冊　山田孝雄氏藏

卷二・四・八ノ三冊ヲ缺キ、灌頂卷ヲ別冊トス。別冊末ニ「文安四年卯月五日」トアリ。

四八　平家物語　眞名本　四部合戰狀本　一二冊　宮內省圖書寮藏

「御系譜掛」ノ印記アリ。

四九　平家物語　古寫　長門本　二〇冊　前田利爲氏藏

二十卷ニ分タレ、句節ヲ立テズ平書ナリ。金澤學校舊藏。

五〇　平家物語　古寫　長門本　一七冊　東京文理科大學圖書館藏

「溫故堂文庫」ノ印記アリ。

五一　平家物語　安永三年寫　長門本　二〇冊　大阪府立圖書館藏

「寧樂文庫」「本柴藏書」ノ印記アリ。

五二　平家物語　卷五　一冊　佐々木信綱氏藏

朱點ヲ附セリ。「和學講談所」ノ印記アリ。

五三　平家灌頂卷　一冊　小川壽一氏藏

平家物語卷十二・女院御出家大原御幸ノ卷ノ寫。朱點ヲ附セリ。

五四　平家物語　古寫　八坂本　拈葉綴　十二卷欠　一一冊　京都府立圖書館藏

五五　平家物語　古寫　屋代本　卷二　一冊　京都府立圖書館藏

鎌倉本系統ノ片假名交リ書ニシテ、現存古鈔本中ノ最モ古キモノヽ一ト云ハル。卷二以外ハ高野辰之博士現藏ニ屬ス。「不忍文庫」ノ印記アリ。（圖版參照）

五六　平家物語　百二十句本　九冊　帝國圖書館藏

每卷十句許百二十句ニ編セルヲ特徵トス。本書ハ九冊ニ合綴セルヲ以テ特ニ九冊本トモ稱セラル。（圖版參照）

五七　平家物語　古寫　百二十句本　一二冊　大島雅太郎氏藏

朱點ヲ附セリ。（圖版參照）　一二冊　羽倉信眞氏藏

五八　平家物語　古寫　延慶本　一二冊　山田孝雄氏藏

「荷田氏珍藏」ノ印記アリ。

五九　平家物語　內閣文庫四十八冊本ノ影寫・延慶本　四冊　帝國圖書館藏

六〇　平家物語　延慶本　片假名交リ　角倉本

天保三年大膳亮道樹ナル者、朽木山樂ノ書寫セルヲ複寫セルモノニシテ、二冊ヲ合シテ一冊トセリ。

「榊原芳埜納本」ノ印記アリ。

六一　平家物語　文祿四年寫　片假名交リ　卷十・十一欠　一〇冊　東京文理科大學圖書館藏

朱點ヲ附セリ。

× ×

六二　平家物語考證　野呂定基著　藤波本　一二冊　宮內省圖書寮藏

平家物語中解釋不當ノ語句ヲ摘抄シテ辨解シタルモノ。「帝室圖書」ノ印記アリ。

六三　平家物語標註　平道樹著　天保二年寫　二八冊　帝國圖書館藏

長門本ニヨツテ人物・系譜等ヲ註釋・考證シタルモノ。

六四　平家物語撮要　文政五年寫　三冊　京都府立圖書館藏

慶長七年原本ニヨリ書寫セルモノ。

× ×

六五　平家公達卷詞　天保十四年寫　一冊　小川壽一氏藏

土佐光信ノ女ノ筆ト傳ヘラルル繪卷ノ詞ニシテ、平家物語トハ直接關係ナク、平家公達ノ風流・韻事・哀話等生活狀態ヲ記セルモノ。

本書ハ東京帝室博物館所藏ノ繪卷ト共ニ現存二本ノ一ナリ。越後桂氏ノ舊藏本。

刊本

六六　平家物語　古活字　平假名交リ十行　一二冊　鈴鹿三七氏藏

慶長刊。一方本ナル古活字印本ニ基キ、新ニ章段ヲ立テ、刊行シタルモノ。

刊記「下村時房刊之」。（圖版參照）

六七　平家物語　古活字（前書ト同版）　卷九・十欠　一〇冊　德富蘇峰氏藏

朱點ヲ附セリ。

六八　平家物語　古活字　八坂本　平假名交リ十行　零本　一冊　德富蘇峰氏藏

慶長頃刊。「木街狩野氏之文庫」等ノ印記アリ。（圖版參照）

六九　平家物語　古活字　雙邊・片假名交リ十二行　一二冊　東京美術學校藏

最モ信憑ニ値スル覺一本系平家物語ナリト推賞セル山田孝雄氏ノ識語アリ。（圖版參照）

七〇　平家物語　古活字（前書ト同版）　一二冊　高野辰之氏藏

七一　平家物語　古活字　雙邊・片假名交リ十二行　一二冊　德富蘇峰氏藏

元和刊。原裝・原題簽存ス、卷八ハ繪入整版本ニテ補フ。（圖版參照）

七二　平家物語　古活字　單邊・片假名交リ十二行　卷八　一冊　高野辰之氏藏

慶長刊。（圖版參照）

七三　平家物語　寛永三年刊　一二冊　宮內省圖書寮藏

「松岡文庫」ノ印記アリ。

七四　平家物語　繪入　明曆二年刊　一二冊　宮內省圖書寮藏

七五　平家物語　万治二年刊　一二冊　神宮文庫藏

「林崎文庫」ノ印記アリ。

七六　平家物語　万治二年刊（前書ト同版）　一二冊　山田孝雄氏藏

七七　平家物語　繪入　元祿十一年刊　一二冊　東京文理科大學圖書館藏

「高崎文庫」ノ印記アリ。

七八　新版繪入　平家物語　寶永七年刊
大阪油屋平右衛門板。　一二冊　鈴鹿三七氏藏

七九　平家物語　繪入　享保十二年刊
河原町仁衛門・加朱校合。　一二冊　山田孝雄氏藏

八〇　平家物語　延寶五年刊　丹緑本
京都書肆堂板。　一二冊　高岡市立圖書館藏

×　×

八一　平家物語評判秘傳抄
平家物語ノ事實ヲ逐條評論シタルモノ。　二四冊　谷村一太郎氏藏

4　源平盛衰記

鈔本

八二　源平鬪諍錄　内閣文庫藏眞名本ノ影寫　五冊　山田孝雄氏藏

×　×

八三　源平兵亂起原　一冊　太田敬太郎氏藏
保元平治ノ亂ヨリ源義仲滅亡ニ至ル源平兩氏ノ騷亂ヲ記ス。

刊本

八四　源平盛衰記　古活字　雙邊・附訓片假名交リ十一行四卷合一　一冊　德富蘇峰氏藏
（圖版參照）

八五　源平盛衰記　古活字　雙邊・附訓片假名交リ十二行　四六冊　帝國圖書館藏
「榊原芳埜納本」ノ印記アリ。

八六　源平盛衰記　寶永四年刊　和註・繪入横本　一三冊　早稻田大學圖書館藏

×　×

八七　源平軍物語　明暦二年刊　一五冊　石川縣立圖書館藏

八八　源平拾遺　藤井高尙著　天保七年刊　二冊　京都帝國大學圖書館藏

5　太平記

鈔本

八九　太平記　古寫　西源院本　一二冊　龍安寺藏

現在國寶トシテ指定セラル。龍安寺中西源院舊藏ニシテ、十四行・附訓片假名交リ書ナリ。全冊火災ノタメソノ周邊ヲ燒キ、殘レル中心部ヲ補修シテ現在本ノ體裁ヲナセリ。十三冊中一冊ヲ缺ク。

卷第二十五ノ奥書「京方貞和元年乙酉南方號白鹿元年同京方貞和二年丙戌南方移正平。天龍寺燒失、延文三年戊戌正月四日夜、貞治六年丁未三月廿九日夜、應安六年癸丑九月廿八日夜」。

（圖版參照）

九〇　太平記　西源院本ノ影寫　六冊　東京帝國大學史料編纂所藏

九一　太平記　室町末期寫　築田本　二一冊　帝國圖書館藏

本文二十二卷ヲ缺キ、目錄一卷ヲ加ヘテ四十卷二十一冊。十行平假名交リ書。

卷八・十六・廿五末ニ「築田遠江守氏親寫畢」、卷十五・十八末ニ「築田遠江守氏助書之」ノ墨書アリ。

九二　太平記　寶德本　五冊　帝國圖書館藏

原本ハ寶德ノ奥書アルモノニシテ、十行片假名交リ書ナリ。本書ハ神部信九郎源忠貞所藏古活字本ニヨリ、安永十年稻葉通邦ノ筆寫シタルモノ。「稻葉氏藏」ノ印記アリ。

各巻首「主明室寶正居士」ノ署名アリ。

九三　太　平　記　古寫　義輝本　三九册　帝國圖書館藏

巻二・四十ヲ缺キ、總目錄一册ヲ添ヘテ現存三十九巻。十一行片假名交リ書ニシテ、足利義輝舊藏ナリトイフ。「義輝」ノ印記アリ。

九四　太　平　記　天正十四年寫　梵舜本　四〇册　前田利爲氏藏

奥書「長享三年七月一日書寫之訖、交了、天保十四丙戌年六月十日此本之内七册書之訖。
右朱點前南禪梅谷元保和尚以自筆本寫了。先年天正十四歲比四十册全部遂書功者也。
文祿三甲午年五月十一日　梵舜(花押)四十二歲」(圖版參照)

九五　太　平　記　室町末期寫　神宮文庫本　二一册　神宮文庫藏

本文四十巻二十册ニ目錄一册ヲ添フ。「古事類苑編纂事務所」ノ印記アリ。

九六　太　平　記　室町末期寫　池田本　零本　二　册　池田龜鑑氏藏

九行平假名交リ書、鳥ノ子蝴蝶綴。

九七　太　平　記　寛永頃寫　四二册　高野辰之氏藏

本文四十巻ニ總目錄一册・劍ノ巻一册ヲ添フ。本文ノ旁ニ朱ヲ以テ簡單ナ語釋ヲ加ヘタリ。

九八　太　平　記　一　册　東京帝國大學史料編纂所藏

奥書「右太平記原書は男爵吉川經健の所藏に係る。全部四十一册内目錄一册其祖吉川元春雲州洗合陣中に於

て自ら寫取謄寫せしものなり。毎巻の末に年月實名を朱書し永祿六年閏十二月に始り同八年に了る」。

刊本

九九　太　平　記　古活字　附訓平假名交リ十一行　巻三八　一　册　京都帝國大學圖書館藏

(圖版參照)

一〇〇　太　平　記　古活字　附訓平假名交リ十一行　四〇册　宮内省圖書寮藏

刊記「慶安三年庚寅五月吉日　荒木利兵衛開板」(圖版參照)

一〇一　太　平　記　古活字(前書ト同版)　一四册　德富蘇峰氏藏

一〇二　太　平　記　古活字(前書ト同版)　巻六・七　二　册　京都帝國大學圖書館藏

一〇三　太　平　記　古活字　單邊・片假名交リ十二行　四〇巻　二〇册　德富蘇峰氏藏

漢字二十字・序文一葉ノミ活字ヲ異ニシ、他ハ慶長八年富春堂新刊本ト同種活字ヲ用フ、卽チ慶長八年以前ノ修補改裝本ナリ。「紫川館竹田氏」ノ印記アリ。(圖版參照)

一〇四　太　平　記　古活字　單邊・片假名交リ十二行　四〇册　安田善次郎氏藏

刊記「慶長癸卯季春旣望　富春堂新刊」。(圖版參照)

一〇五　太　平　記　古活字（前書ト同版）　卷十一・十二零合　一冊　高野辰之氏藏

一〇六　太　平　記　古活字　雙邊・片假名交リ十二行　四一卷　二一冊　德富蘇峰氏藏

刊記「慶長十年乙巳九月上旬日」。

朱點、書入。「洒竹文庫」ノ印記アリ。

一〇七　太　平　記　古活字（前書ト同版）　卷十九・二十合　一冊　高野辰之氏藏

（圖版參照）

一〇八　太　平　記　古活字　雙邊・有界・片假名交リ十二行　卷二十三・二十四合　一冊　高野辰之氏藏

異本。（圖版參照）

一〇九　太　平　記　古活字　單邊・片假名交リ十二行　四一卷　二一冊　德富蘇峰氏藏

刊記「慶長十五曆庚戌二月上旬　日　春枝開板」

「來遠」ノ印記アリ。（圖版參照）

一一〇　太　平　記　古活字　單邊・片假名交リ十二行　六冊欠　一五冊　德富蘇峰氏藏

（圖版參照）

一一一　太　平　記　古活字　單邊・片假名交リ十二行　卷九・十合　一冊　京都帝國大學圖書館藏

（圖版參照）

一一二　太　平　記　古活字　單邊・片假名交リ十二行

「大田垣氏」ノ印記アリ。（圖版參照）　卷二十一・二十二・三十五・三十六合　二冊　高野辰之氏藏

一一三　太　平　記　卷二十一　一冊　小川壽一氏藏

寛永頃刊

一一四　太　平　記　二一冊　神宮文庫藏

「宮崎文庫」ノ印記アリ。

一一五　太　平　記　繪入　四〇冊　谷村一太郎氏藏

一一六　太平記總目錄・劒卷　頭註欄ヲ設ク。　一冊　猪熊信男氏藏

× ×

一一七　太平記評判秘傳理盡鈔　四〇冊　猪熊信男氏藏

寛文頃刊。

跋「右此評判者名和伯耆守長俊之遠孫名和正三傳之矣云々　大運院大僧都法師」

一一八　太　平　記　綱　目　原友軒著　寛文十二年序　四〇冊　猪熊信男氏藏

後序「寛文壬子春三月既望操毫于尾陽之旅館　原友軒」

一一九　太平記大全　万治二年刊　繪入　四〇册　猪熊信男氏藏

本文ハ平假名交リ、參考諸説ハ片假名交リナリ。

一二〇　太平記理盡圖經　明暦二年刊　二册　猪熊信男氏藏

主トシテ南北朝時代ノ武將ノ行狀・諸合戰ヲカリテ軍略ヲ述ベシモノナリ。

一二一　參考太平記　今井弘濟考訂・內藤貞顯重校　元祿四年刊　四一册　京都帝國大學圖書館藏

「圖書寮藏」ノ印記アリ。宮內省寄贈本。

一二二　太平記　元祿十一年刊　繪入横本　一〇册　早稻田大學圖書館藏

「湖泊堂」ノ印記アリ。

× ×

一二三　太平記菊水之卷　竹田小出雲等著　寶暦九年刊　一册　谷村一太郎氏藏

淨瑠璃本・七行

一二四　太平記秘説　天明二年刊　五册　猪熊信男氏藏

楠氏ノ支流和田某ヲ捉ヘ來テ小説風ニ作リシモノナリ。

一二五　南朝太平記　馬場信意著　寶暦十年刊　一二册　猪熊信男氏藏

刊記「寶暦十庚辰年正月吉日求之　浪華書林　柏原屋與市」

一二六　南朝太平記　馬場信意著　寶暦十年後刷　五册　宮城縣立圖書館藏

卷尾「文政癸未」ノ朱印アリ。

一二七　南北太平記圖會　堀經信著・菱川清春・梅川重賢畫　天保九年序　七册　石川縣立圖書館藏

6 義經記

鈔本

一二八 義經物語 江戸時代初期寫 八冊 高木武氏藏

絶對的ナ異本ニハアラズシテ、判官物語ヨリ義經記ヘ移リ行キノ中間ヲナスモノナリ。(圖版參照)

× ×

一二九 堀河夜討 奈良繪本 一冊 石黑傳六氏藏

幸若ノ堀河夜討ニ繪ヲ附シタルモノトミラル。

刊本

一三〇 義經記 古活字 平假名交リ十二行 八冊 前田利爲氏藏

「杉園藏」ノ印記アリ。(圖版參照)

一三一 義經記 古活字 平假名交リ十二行 卷三・六 二冊 德富蘇峰氏藏

表紙裏ニ「文久元酉年十月頂戴之、高塚文庫」ノ墨書符箋アリ。(圖版參照)

一三二 義經記 古活字 平假名交リ十二行 丹緣本 八冊 安田善次郎氏藏

(圖版參照)

一三三 義經記 正保二年刊 繪入 卷七欠 七冊 早稻田大學圖書館藏

一三四 義經記 寛文十年刊 繪入 八冊 宮內省圖書寮藏

「帝室圖書」ノ印記アリ。一卷ハ取合セ本。

一三五 義經記 元祿十年刊 八冊 帝國圖書館藏

「榊原家藏」「故榊原芳埜納本」ノ印記アリ。

× ×

一三六 義經記 元祿二年刊 金平本・十七行 鱗形屋板 七冊 帝國圖書館藏

7 曾我物語

鈔本

一三七 曾我物語 眞字本 本門寺本ノ寫 一〇冊 帝國圖書館藏
天文二十三年ノ日義ノ書寫本ニヨリ、文化四年日堯ノ書寫シタルヲ更ニ寫シタルモノナリ。

一三八 曾我物語 五冊 山岸德平氏藏
題簽ニ「本朝報恩合戰謝德闘諍集幷序」トアリ。駿河國富士郡大石寺ニ傳ハルモノノ傳寫本ナリ。

一三九 曾我物語 大石寺本寫 一冊 佐々木信綱氏藏
「孝義双烈錄」ナル別名ニツキ、元文五年小宮山昌世ノ題言ヲ添フ。「久米氏水屋記」ノ印記アリ。

一四〇 曾我物語 古寫 平假名交リ八行・拈葉綴 一二冊 大阪府立圖書館藏
(圖版參照)

一四一 曾我物語 慶長八年寫 一二冊 大島雅太郎氏藏

一四二 曾我物語 德川初期寫 一二冊 麻田繁三氏藏
章段ノ區切ナク、章句接續スル古態ヲ存シ、內容ハ流布本系ニ屬スレドモ誤リ少ナキ善寫本ナリ。

第十一卷ハ古本ニ屬ス。(圖版參照)

× ×

一四三 鎌倉見聞記 二冊 小川壽一氏藏
穩顯曾我物語・新撰曾我記・繪本曾我物語等ト呼バレルモノ。

一四四 曾我實驗大全 二冊 山岸德平氏藏

一四五 延寶元祿曾我物語 一冊 山岸德平氏藏

刊本

一四六 曾我物語 古活字 平假名交リ十二行 一二冊 安田善次郎氏藏
(圖版參照)

一四七 曾我物語 古活字 附訓平假名交リ 一二冊 大島雅太郎氏藏
一面ノ繪ガ數面ノ部分畫ノ組合セナル點特ニ注意ニ値ス。例ヘバ圖版ニアル如ク背景トシテノ上半分ヲ共通ニシツヽ、甲圖ト乙圖トハ下半ヲ異ニシ、乙圖ト丙圖トハ下半圖中ノ右半ヲ異ニス。(圖版參照)

一四八 曾我物語 寛永四年刊 一二冊 小川壽一氏藏
刊記「寛永四卯年六月中旬 洛陽三條寺町誓願寺前 安田十兵衞尉開板」
「島原秘藏」「尙舍源忠房」「伊藤氏藏書印」ノ印記アリ。

一四九　曾我物語（前書ト同版）　卷二.五　二冊　谷村一太郎氏藏

一五〇　曾我物語　正保三年刊　丹緣本　一二冊　帝國圖書館藏

一五一　曾我物語　繪入　一三卷　六冊　山岸德平氏藏

一五二　曾我物語　繪入　一二冊　小川壽一氏藏

正保頃刊。但シ卷一ハ補足本。

一五三　曾我物語　繪入　一二冊　小川壽一氏藏

刊記「寛文十一年辛亥九月吉日」

× ×

一五四　根元曾我物語　五冊　山岸德平氏藏

刊記「元祿五年壬申正月吉日　躍鯉堂梓行」。「舘林藏書」ノ印記アリ。

一五五　當世御伽曾我　正德三年刊　八文字屋八左衞門板　一冊　小川壽一氏藏

繪ハ西川祐信ノ筆ナリ。

一五六　曾我物語評判　馬場信意著　一五冊　山岸德平氏藏

刊記「正德六丙申歲四月　武城　古川進七郎」

一五七　曾我勳功記　馬場信意著　一八冊　石川縣立圖書館藏

刊記「享保五年庚子歲三月吉日　京師　吉田善兵衞梓行」

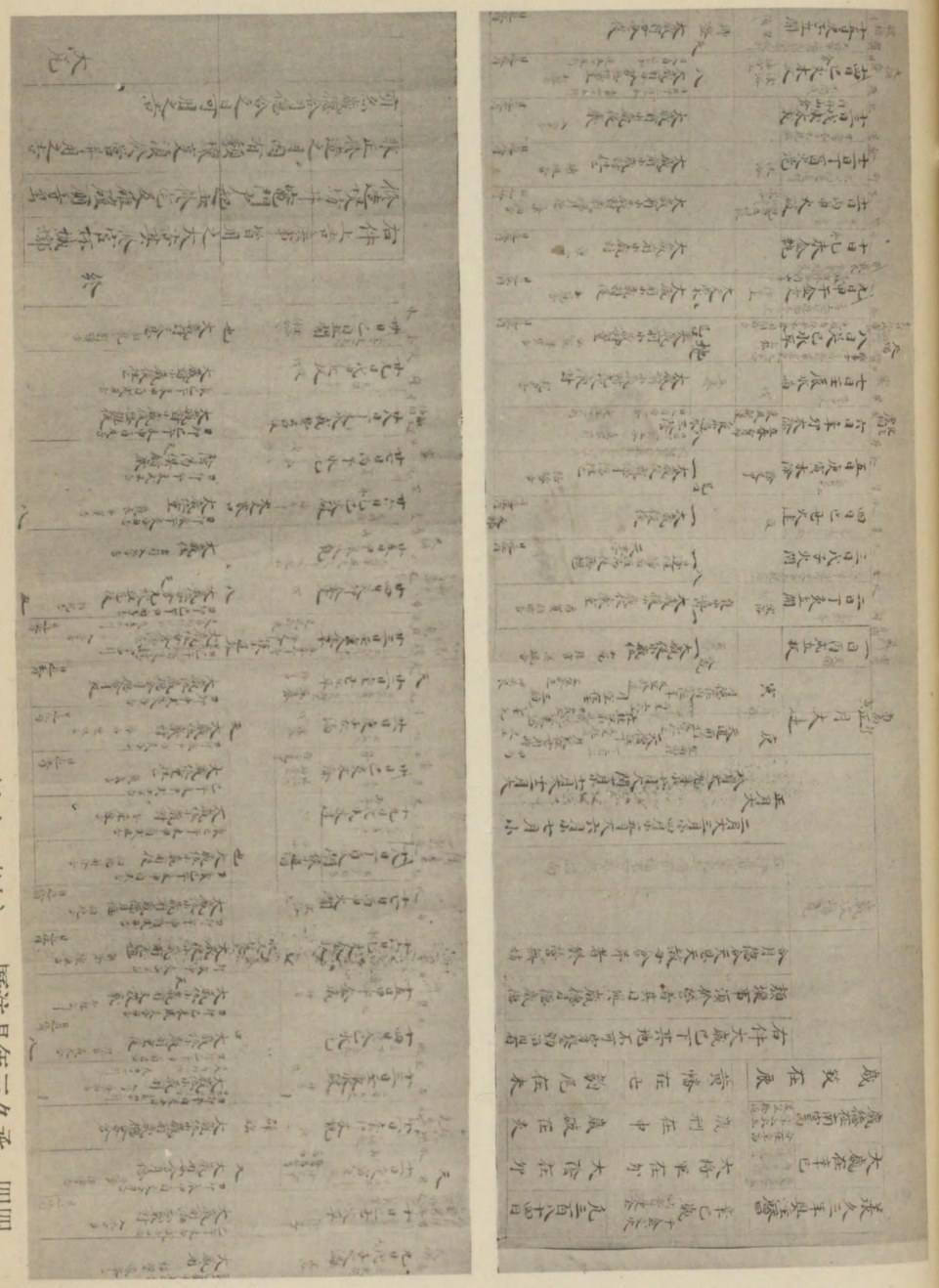
一五八　曾我物語　北尾政演畫　まつむら板　黃表紙　三冊　帝國圖書館藏

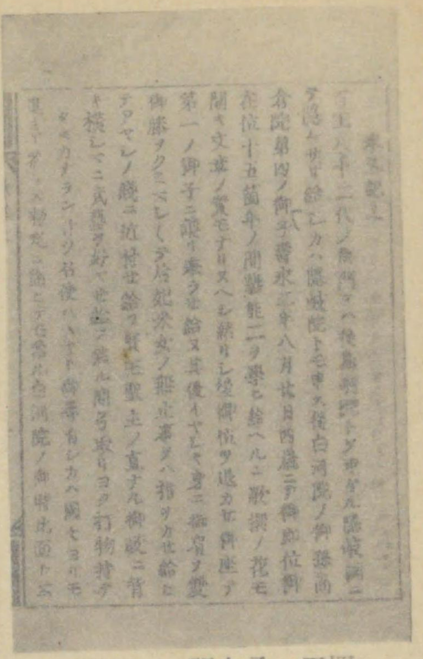
一五九　曾我一代記　蘭德齋畫　西村板　黃表紙　五冊　帝國圖書館藏

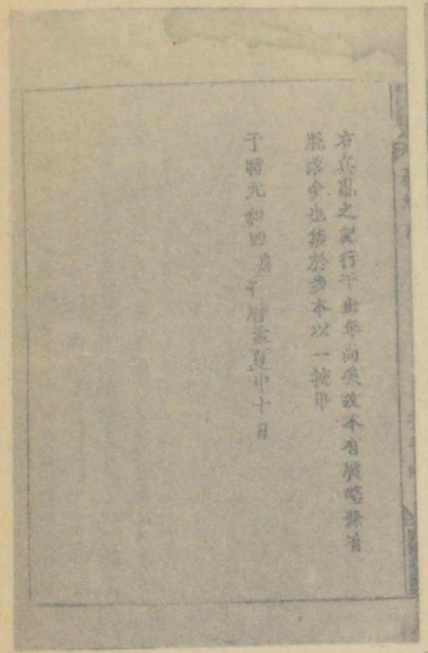
一六〇　繪入曾我物語　十返舍一九著・北尾政美畫　一冊　小川壽一氏藏

刊記「室町二丁目　東都書肆　須原屋市兵衞　名古屋本町七丁目　尾陽書肆　永樂屋東四郎」

一六一　繪本曾我物語　一冊　山岸德平氏藏

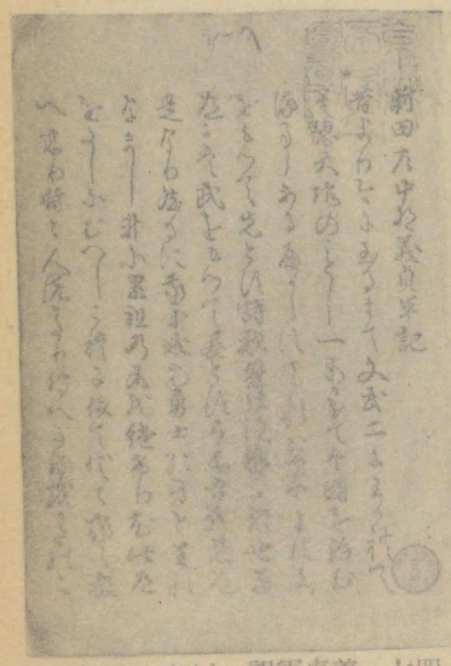


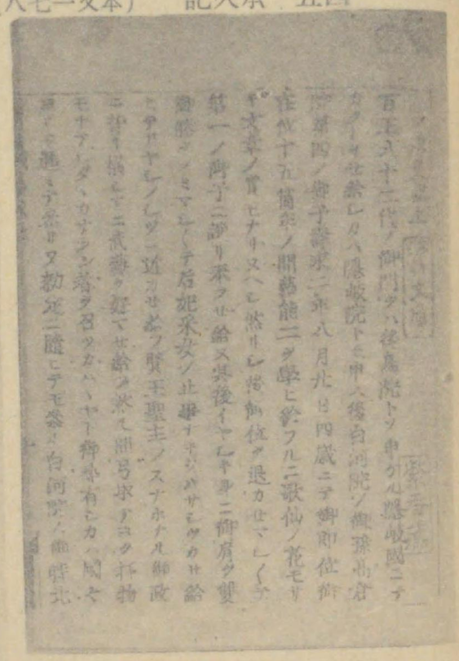




0.94尺－0.64尺

四五　承久記（本文一七八）

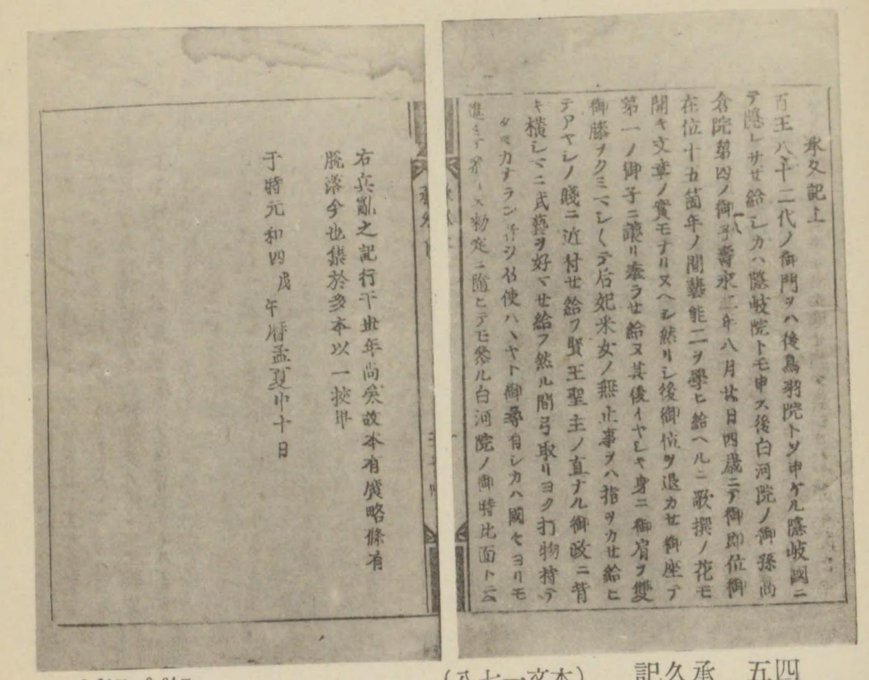




0.91尺－0.67尺

四六　承久記（本文一七九）

四七　義貞軍記（本文一四九）



承久記上

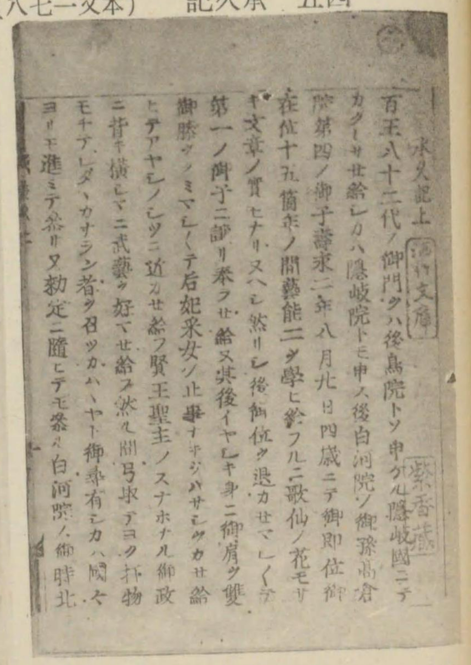
百王八十二代ノ御門ヲハ後鳥羽院トソ申ケル隱岐國ニテ隱レサセ給シカハ隱岐院トモ申ス後白河院ノ御孫尚倉院第四ノ御子壽永二年八月廿日四歳ニテ御即位御在位十五箇年ノ間藝能二ヲ學ヒ給ヘルニ歌撰ノ花モ開キ文章ノ實モナリヌヘシ然リシ後御位ヲ退カセ御座ヲ第一ノ御子ニ讓リ奉ラセ給又其後イヤシキ身ニ御肩ヲ雙御勝ヲクミヘシシテ后妃采女ノ無止事ヲハ指ヲカセ給ヒテアヤシノ賤ニ近付セ給フ賢王聖主ノ直ナル御政ニ背キ横シマニ武藝ヲ好マセ給フ然ル間弓取リヨク打物持テダマカサラン者ヲ召ツカハヽヤト御事有シカハ國々ヨリモ進ミテ參リヌ勅定ニ隨ヒテモ參ル白河院ノ御時北面ト云

右兵亂之記行平此年尚參故本有虧略條有脫落今也集於多本以一校畢

于時元和四戊午暦孟夏中十日

0.94尺—0.64尺

（八七一文本）　記久承　五四

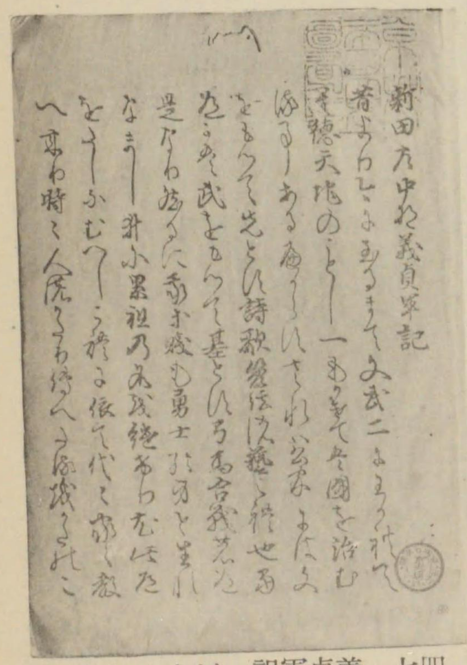


承久記上

百王八十二代ノ御門ヲハ後鳥羽院トソ申ケル隱岐國ニテカクレサセ給シカハ隱岐院トモ申ス後白河院ノ御孫尚倉院第四ノ御子壽永二年八月九日四歳ニテ御即位御在位十五箇年ノ間藝能二ヲ學ヒ給フルニ歌仙ノ花モ開キ文章ノ實モナリヌヘシ然リシ後御位ヲ退カセ給シ第一ノ御子ニ讓リ奉ラセ給又其後イヤシキ身ニ御肩ヲ雙御勝ヲクミヘシシテ后妃采女ノ止事ナキヲハサシカカセ給ヒテアヤシノシツニ近カセ給フ賢王聖主ノスナホナル御政ニ背キ横シマニ武藝ヲ好マセ給フ然ル間弓取リヨク打物モヤアレタヽカサラン者ヲ召ツカハヽヤト御事有シカハ國々ヨリモ進ミテ參リヌ勅定ニ隨ヒテモ參ル白河院ノ御時北

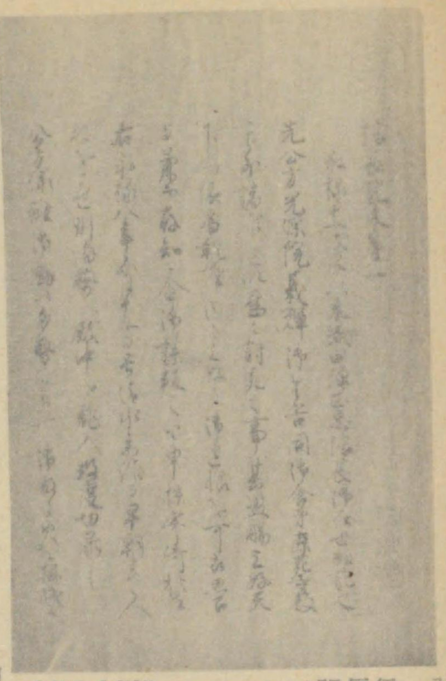
0.91尺—0.67尺

（九七一文本）　記久承　六四

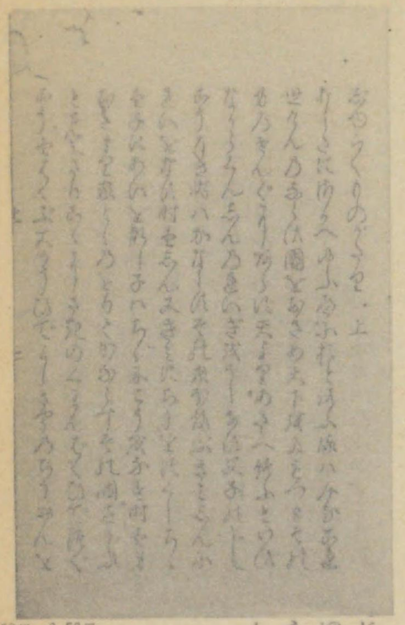


新田左中將義貞軍記

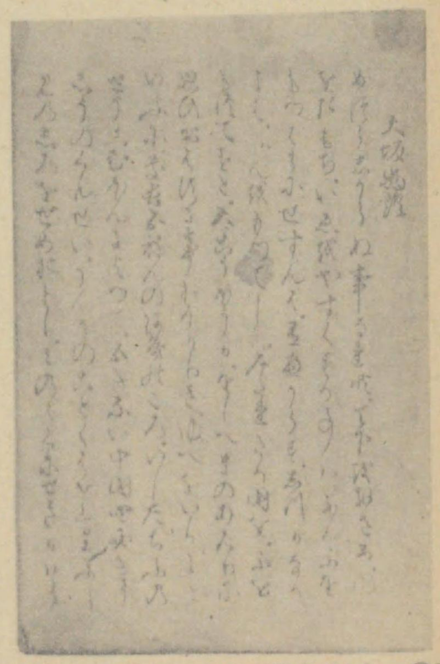
（四九一文本）　記軍貞義　七四



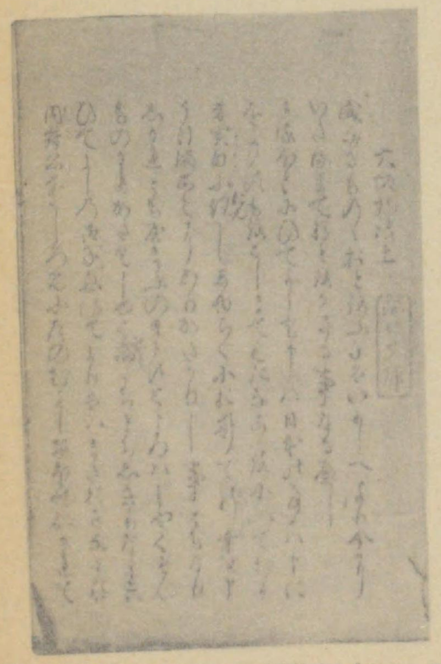
0.92尺—0.635尺 (八一二文本)記長信　八四



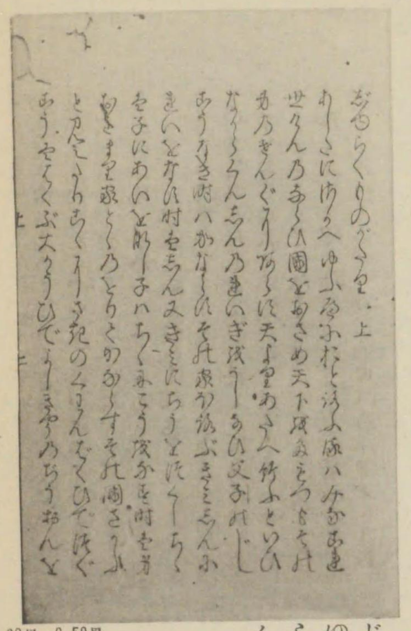
0.89尺—0.58尺 (七五二文本)ゆじらのもがたり　九四



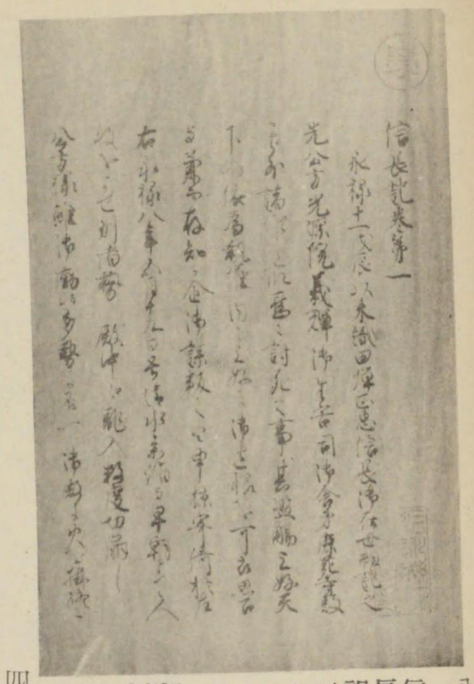
0.9尺—0.64尺 (七八二文本)大坂物語　〇五



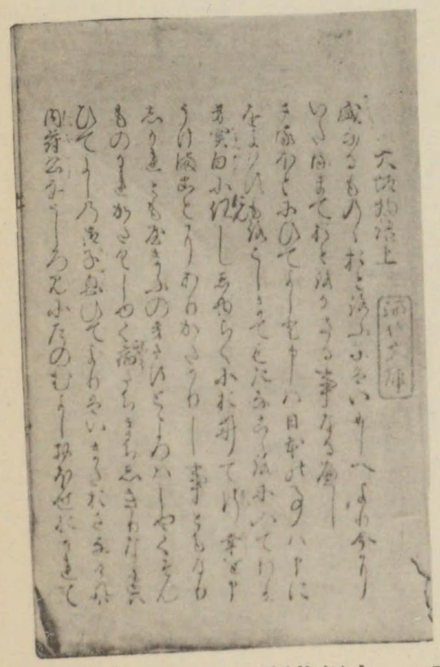
0.895尺—0.615尺 (八八二文本)大坂物語　一五



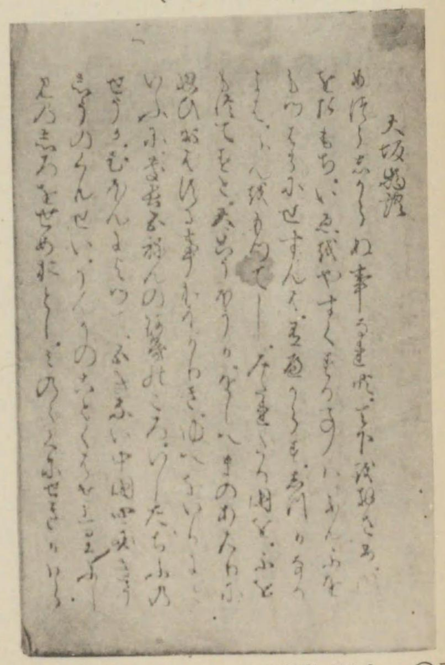
0.89尺—0.59尺 (七五二文本)くりたがゆのらじも 九四



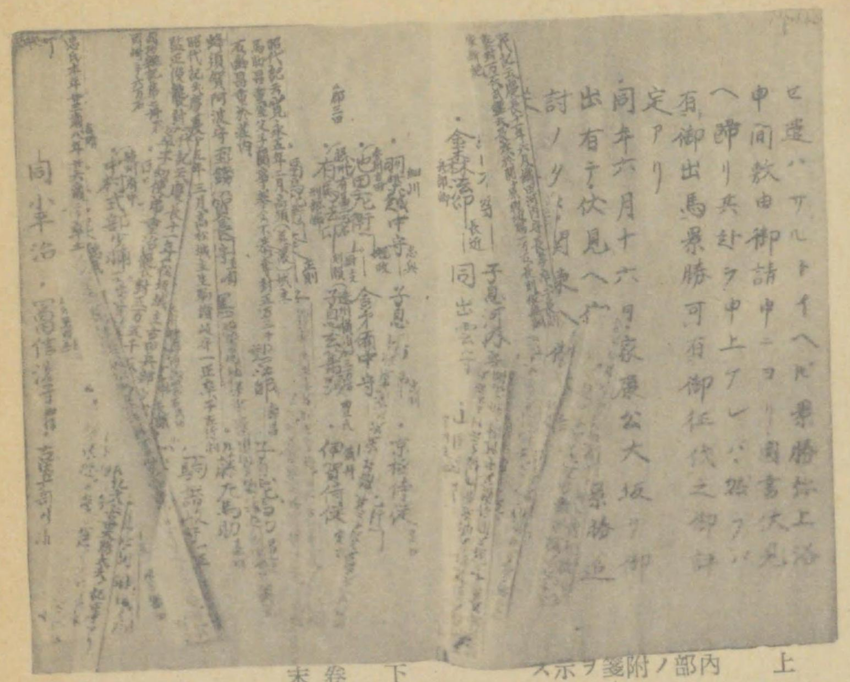
0.92尺—0.635尺 (八一二文本)記長信 八四



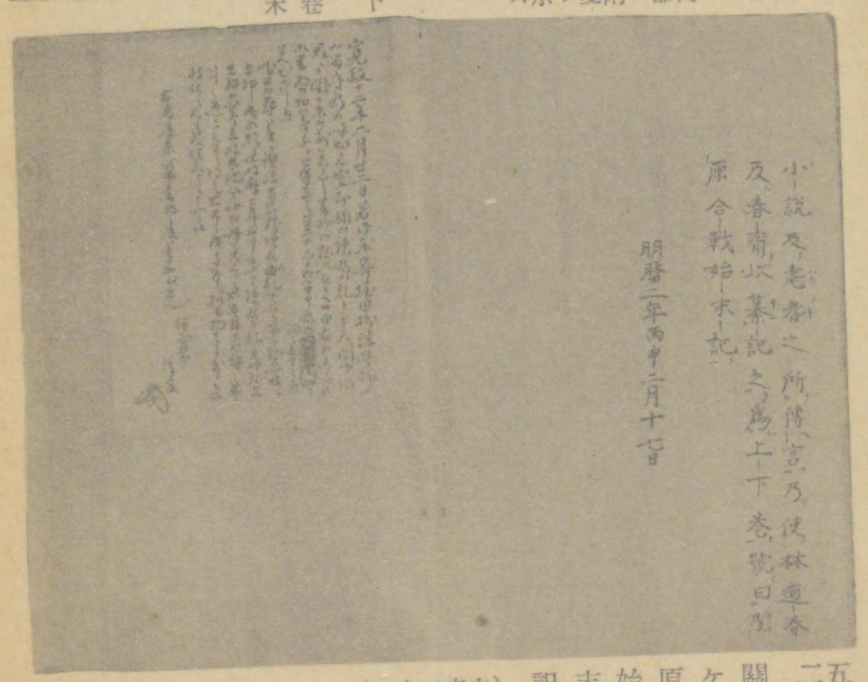
0.895尺—0.615尺 (八八二文本)語物坂大 一五



0.9尺—0.64尺 (七八二文本)語物坂大 〇五



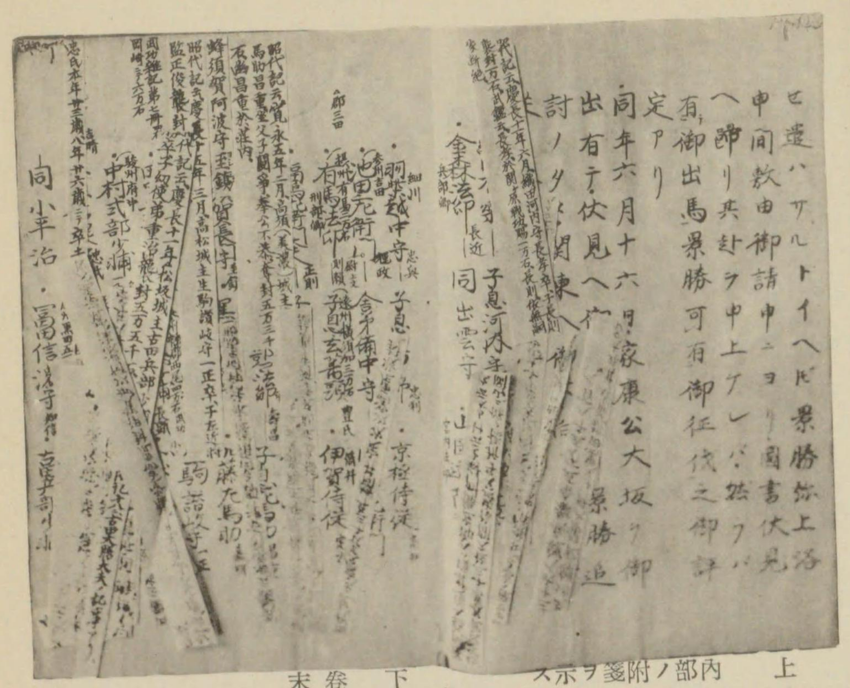
上　内部ノ附箋ヲ示ス　下　巻末



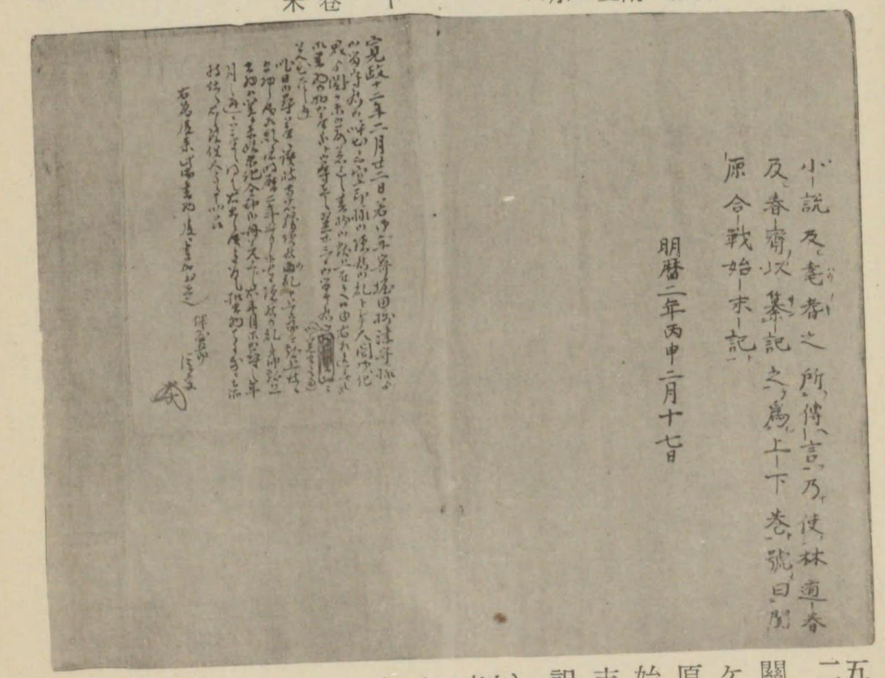
小説及老者之所傳寔乃使林道春
及春齋以纂記之為上下巻號曰關
原合戦始末記
明暦二年丙申三月十日

0.83尺—0.585尺

二五　關ヶ原始末記（一六二文本）

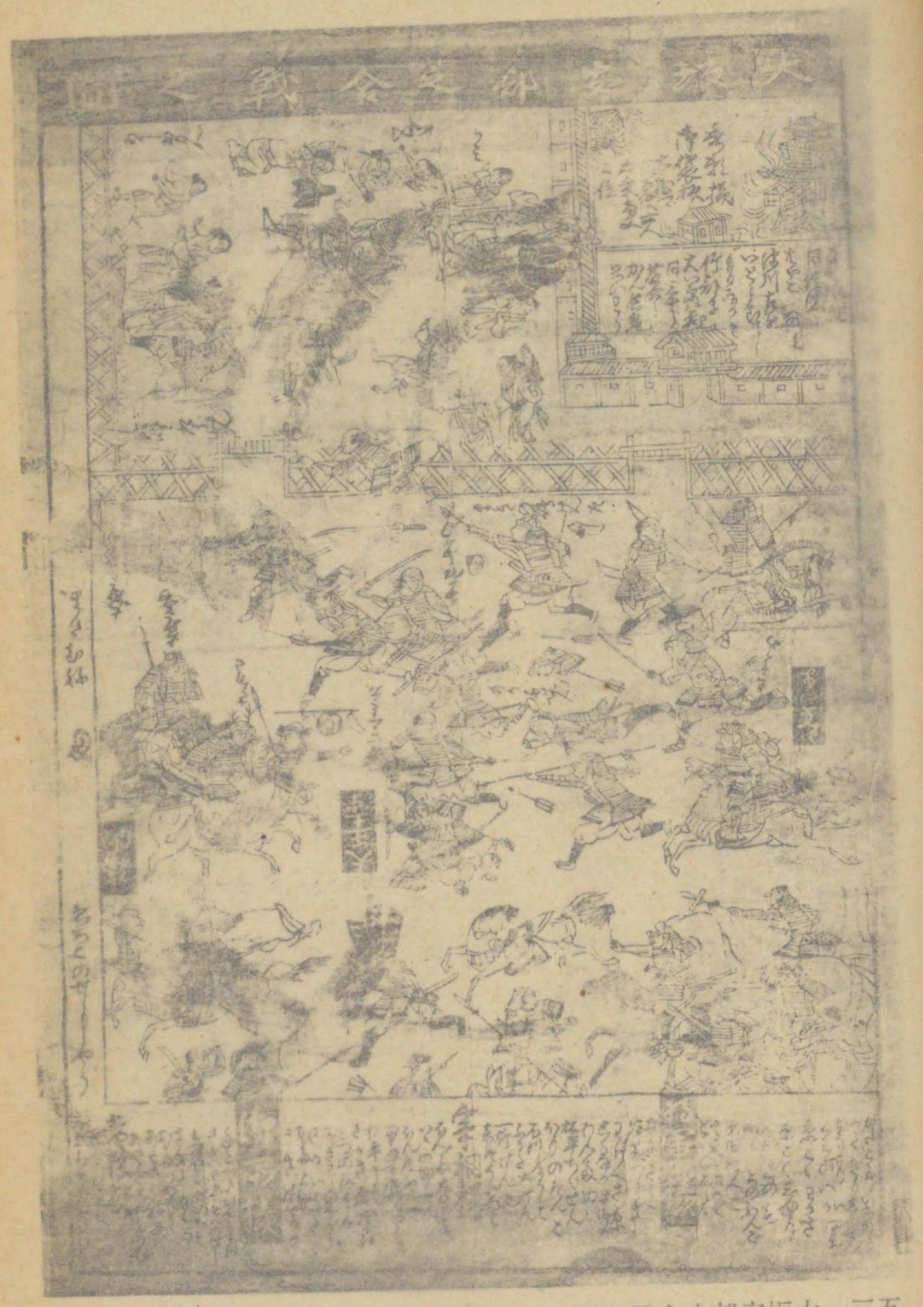


上　内部ノ附箋ヲ示ス　　下　巻末



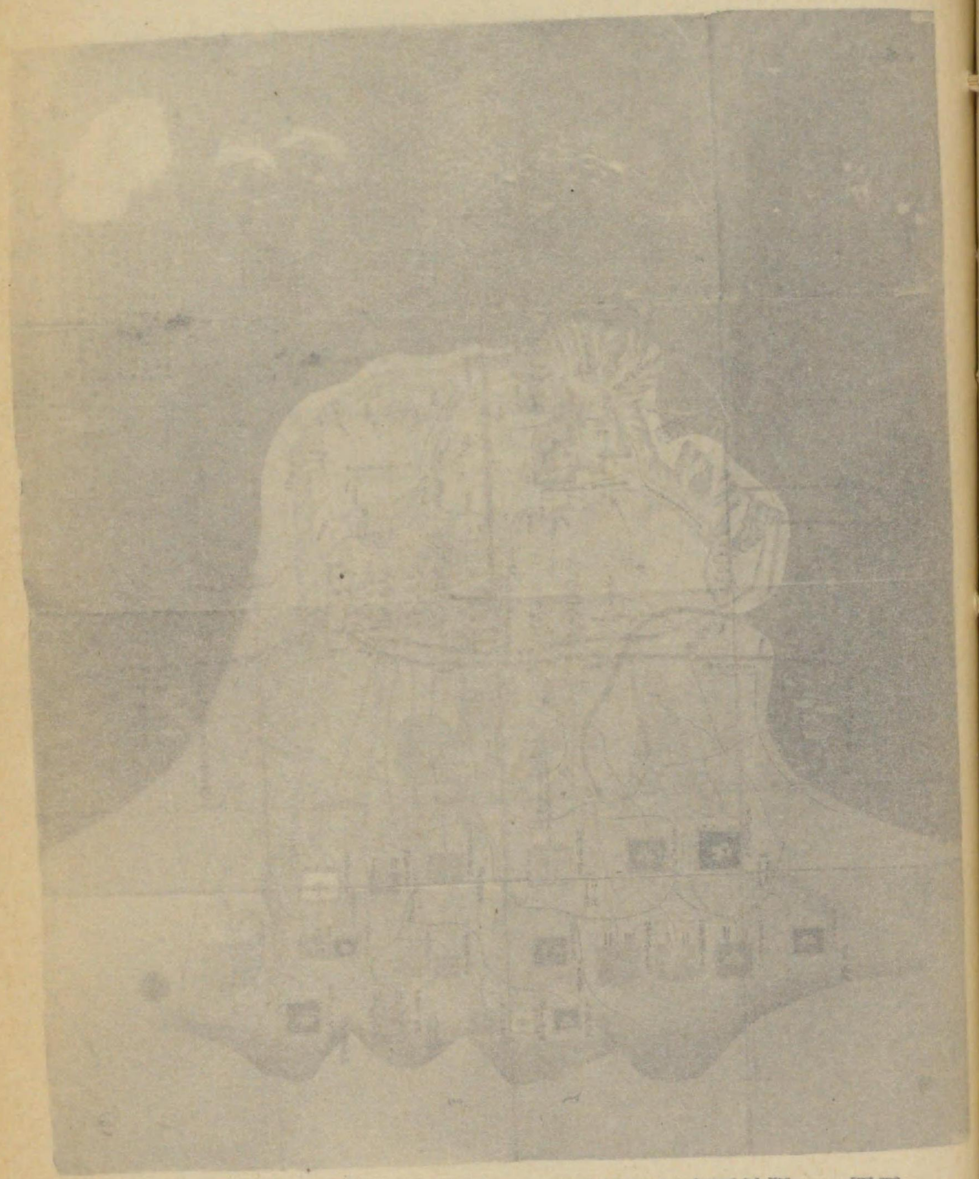
二五　關ヶ原始末記（本文二六一）

0.83尺—0.585尺



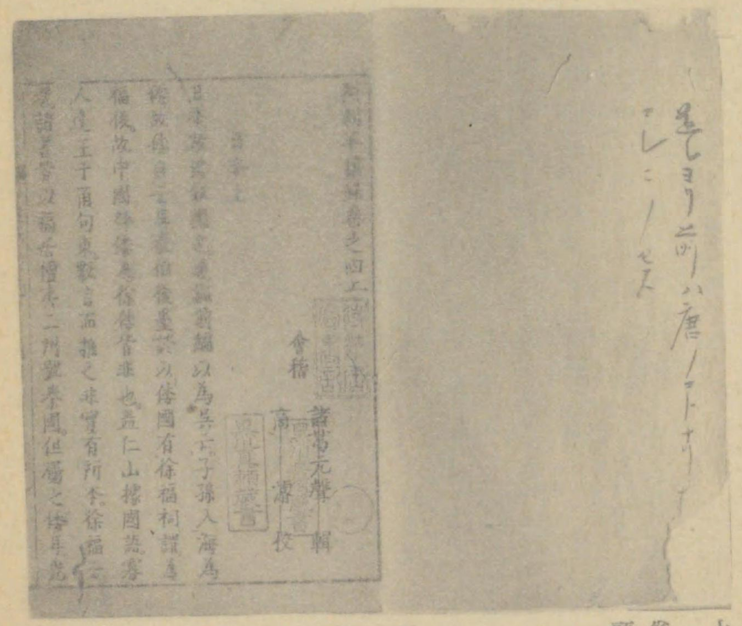
1.295尺—0.905尺　　（八九二文本）　　三五　大坂安部之合戰之圖

1.295尺—0.905尺　　（八九二文本）　　大坂安部之合戦之圖　三五

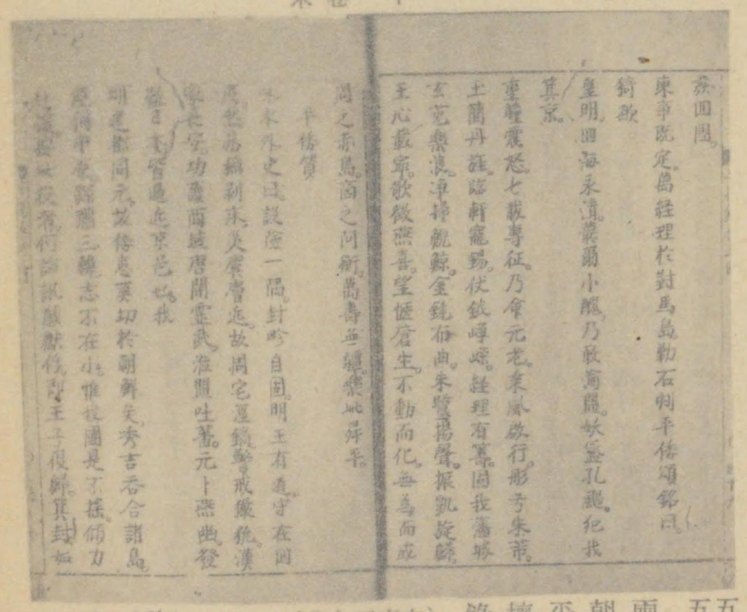


3.78尺—3.12尺　　(三五三文本)　　肥前國有間原城責圖　　四五

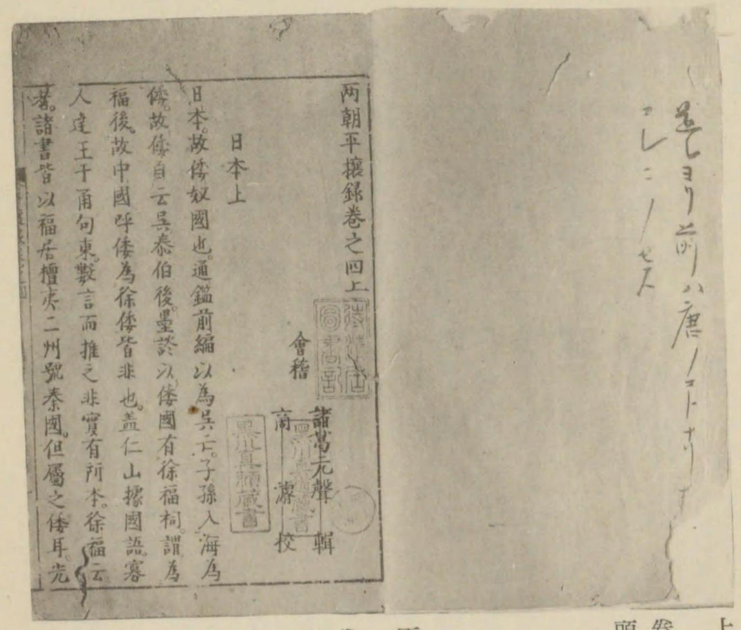
3.78尺—3.12尺　　(三五三文本)　　肥前國有間原城責圖　　四五



上卷頭　下卷末



0.76尺→0.51尺



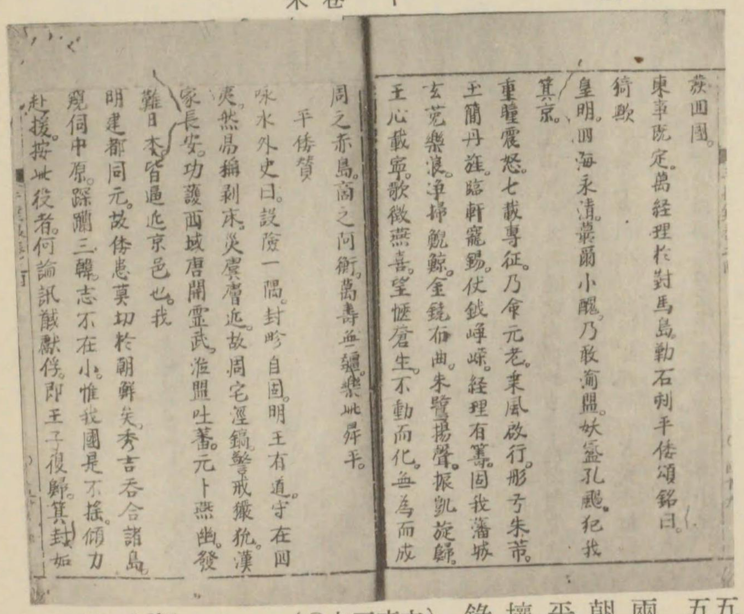
兩朝平攘錄卷之四上

諸葛无聲 輯
會稽 商濬 校

日本上

日本。故倭奴國也。通鑑前編以為吳王孫入海為倭故倭自云吳泰伯後。墨談以倭國有徐福祠。謂為福後。故中國呼倭為徐倭。皆非也。蓋仁山據國語寄人建王于甬句東。數言而推之。非實有所本。徐福云云。諸書皆以福居澶夷二州。號秦國。但屬之倭耳。

上卷頭　下卷末



東海國。
東事既定。萬經理於對馬島勒石刻平倭頌銘曰。
猗歟
皇明。四海永清。蕞爾小醜。乃敢逋盟。妖盜孔飈。犯我
箕京。
重瞳震怒。七載專征。乃命元老。東風啟行。彤弓朱芾。
王簡丹旌。踏軒寵錫。仗鉞崢嶸。經理有篤。固我藩城。
玄菟樂浪。淨掃觀鯨。金鐃布曲。朱鷺揚聲。振凱旋歸。
王心載寧。歌微燕喜。望慰蒼生。不動而化。無為而成。
周之赤島。商之河衡。萬壽無疆。樂此昇平。

平倭賛

咏水外史曰。設險一隅。封畛自固。明王有道。守在四夷。然昌稱剥床。災虞睿迹。故周宅涇鎬。警戒猃狁。漢家長安。功護西域。唐開靈武。淮盟吐蕃。元卜燕幽。發難日本。皆逼近京邑也。我
明建都同元。故倭患莫切於朝鮮矣。秀吉吞合諸島。窺伺中原。蹂躪三韓。志不在小。惟我國是不搖。傾力赴援。按此役者。何論訊馘獻俘。即王子復歸。箕封如

C.76尺—0.51尺

諸戰記

1 平安朝時代

一六二　將門純友東西軍記　寛文五年寫　一冊　神宮文庫藏

將門・純友ガ東西ニ亂ヲ起シタル始末ヲ略記セルモノ。

奥書「此記卷首舊本已脫。惜矣史之闕文也。而今欲補亘獲宅本。姑竢異日洽聞之士之爲焉云爾。寛文五寅九月念日塗墨子耳　野村氏寫焉。」「林崎文庫」ノ印記アリ。

一六三　將門純友東西軍記　寫　一冊　谷村一太郎氏藏

奥書神宮文庫本ニ同ジ。「淺草文庫」ノ印記アリ。

一六四　將門記　承德三年寫本ノ模刻　一冊　森田外與吉氏藏

稻葉通邦ノ序アリ。

一六五　陸奥話記　寛永三年寫　一冊　神宮文庫　陸

陸奥ノ古戰記錄。「林崎文庫」ノ印記アリ。

奥書「爾肖　寛永丙寅冬十月七日中霄之夜銷燭研露始終其功已。」

一六六　陸奥話記　漢文書　一冊　森田外與吉氏藏

奥書「寛文二年歳在壬寅孟夏日　端亭子了的㊞」

一六七　菅像辨・後三年幷蒙古繪辨　伊勢貞丈著　一冊　谷村一太郎氏藏

内容ニ保元物語ヲモ含ム。奥書「明治十八年五月十六日　以狩野藏本書寫了　中尾五百樹」

一六八　奥州後三年記　繪入　一冊　森田外與吉氏藏

刊記「寛文二壬戌年孟夏良辰　林和泉掾刊行」

一六九　奥羽軍記　寛文二年刊　三冊　京都帝國大學圖書館藏

後三年ノ役ノ記。

刊記「寛文二歳在壬寅孟夏良辰　林和泉掾刊行。」「宮内省寄贈本」「松岡文庫」ノ印記アリ。

一七〇　平泉實記　相原友直著　寶暦三年刊　五冊　京都帝國大學圖書館藏

奥洲藤原家ノ治亂記ニシテ頼朝一統ヲ以テ終ル。

一七一　繪本平泉實記後編　速水春曉齋著・畫　文政五年刊　六冊　福多喜一氏藏

一七二　保暦間記　古活字　單邊・片假名交リ十二行　一冊　德富蘇峰氏藏

保元元年ヨリ暦應元年ニ至ル百八十餘年ノ治亂ノ年譜ナリ。

2　鎌倉時代

一七三　盛長私記　寫　五一卷　二七冊　大阪府立圖書館藏

源頼朝・頼家・實朝・尼將軍ノ源家四代ノ日記ナリ。盛長ハ足達藤九郎ト稱シ、頼朝ノ臣ニシテ出家シテ蓮西ト稱セリ。

序文末「此私記者自二治承四康子年一至嘉祿元甲申年絶二禿筆一也」。「岸藩文庫」ノ印記アリ。

一七四　鎌倉實記　享保二年刊　一七冊　石川縣立圖書館藏

頼朝ノ伊豆配流ヨリ義經ノ陸奥落チニ至ル治亂盛衰ヲ古史舊記類ヲ引用シ詳記セルモノ。

一七五　鎌倉繁榮廣記　延寶二年刊　八文字屋八左衛門板　一二冊　石川縣立圖書館藏

源家ノ滅亡ヲ潤色シタルモノ。

一七六　結城軍中日記　天保五年摹刻本　一帖　茨城縣立圖書館藏

原書ハ結城神君ノ親筆本ト傳フルモノ。

一七七　承久三年具注暦　鎌倉初期寫　一卷　德富蘇峰氏藏

承久三年ノ墨書キノ暦ニシテ、各所ニ承久亂ニ關スル日々ノ出來事ヲ朱書ス。裏面紙葉ノ繼目ニ「三井寺乗林院」ノ墨印アリ。（圖版參照）

一七八　承久記　古活字　單邊・片假名交リ十二行　二冊　谷村一太郎氏藏

後鳥羽院北條義時ヲ征討センコトヲ謀リ給ヒシモ事成ラズ、隱岐ヘ移サレ給フ顚末ヲ記ス。
刊記「于時元和四戊午曆孟夏中十日」（圖版參照）

一七九　承　久　記　古活字　單邊・片假名交リ十二行　上下合　一　冊　德富蘇峰氏藏
「紫香藏」「洒竹文庫」ノ印記アリ。（圖版參照）

一八〇　承久兵亂記　寫　二　冊　名古屋市立圖書館
奥書「右之承久記上下二冊依所望染筆畢　權大納言信房」。加朱書入アリ。
「河村家」ノ印記アリ。河村秀穎本。

一八一　北條時賴記圖會　東籬亭悠翁著・松川半山畫　弘化五年刊　五　冊　石川縣立圖書館藏

3　吉野時代

一八二　櫻木物語　文政五年寫　一　冊　石川縣立圖書館藏
奥書「夫南朝者日本王孫之正統也。長祿年中後村上天皇而皇胤終絕。實是可悲之甚哉。斯七卷櫻木物語之章者南朝之爲珍書也。予和歌之師從穗北忠友大人傳授憑關本廣長俄令書寫畢。文政五年晩夏
桑門祐獲㊞㊞」

一八三　櫻雲記　寫　一　冊　石川縣立圖書館藏
後醍醐天皇卽位ヨリ南朝滅亡ニイタル十四年間ノ記錄。「南部家藏」等ノ印記アリ。

一八四　殘櫻記　伴信友著　嘉永三年刊　二　冊　石川縣立圖書館藏
南北兩朝媾和ノ際ニオケル神璽ノコトニツキ諸書ヲ考證シテ誤謬ヲ正シタルモノ。

一八五　殘櫻記　伴信友著　寫　一　冊　谷村一太郎氏藏

一八六　浪合記　天野信景筆・寶永六年寫　一　冊　名古屋市立圖書館藏
信濃國伊奈郡ノ並合（浪合）ニ亡ビ給ヒシ南朝ノ宗良親王・尹良親王ノ傳記ナリ。
奥書「右波合記一卷崇嚴院羽林公藏書也。拜閲之際乞以謄寫之備家乘。旹寶永六年己丑初秋也。天野信景。」「河村家」ノ印記アリ。

一八七　名和氏紀事　門脇重綾著　文久二年刊　二　冊　石川縣立圖書館藏

一八八 繪入 楠二代軍記　種田吉豐著　一〇卷　一冊　京都帝國大學圖書館藏

内題「楠氏二先生全書」序文末「寛文龍丁酉ニ飛秋九月上瀚吉　後學關武隱士　種田氏隨柳軒吉豐識焉」

一八九 楠一生記　正德六年刊　繪入　一二冊　石川縣立圖書館藏

一九〇 繪本楠公記　速水春曉齋著・畫　一〇冊　石川縣立圖書館藏

一九一 三楠實錄　畠山郡興著　正德二年刊　二二冊　猪熊信男氏藏

一九二 楠正行戰功圖會　西浦武孝著　文政三年刊　二冊　石川縣立圖書館藏

一九三 新田義貞軍記　寫　一冊　谷村一太郎氏藏

義貞ノ制定ト稱スル軍規・軍事上ノ心得書ナルモ、僞書ト稱セラル。

奥書「元龜壬申歲八月十五日　輝虎　畠山殿」

一九四 新田左中將義貞軍記　古活字　寛永六年刊　平假名交リ十行　一冊　京都帝國大學圖書館藏

（圖版參照）

一九五 鎮西菊池軍記　曉鐘成著・畫　天保十二年刊　一〇冊　石川縣立圖書館藏

一九六 難太平記　今川了俊著　寫　一冊　谷村一太郎氏藏

今川一家祖先以來ノ事歷並ニソノ功罪ヲ記ス。

奥書「右一册源侍從範英朝臣御所持之以秘本　承應元年之比令書寫者也」。「河内氏藏書」ノ印記アリ。

4 室町時代

一九七 應永記　古寫　片假名交リ書　一冊　大阪府立圖書館藏

一名「大内義弘退治記」。

一九八 明德記　古活字　單邊・片假名交リ十一行　三冊　德富蘇峰氏藏

明德元年山名氏清・同滿幸等叛シ、足利義滿之ヲ討伐セル始末記。

刊記「于時元和三年極月望日　以時」覆長十九年刊本ノ覆刻ナリ。

一九九 赤松嘉吉軍記　寛文九年刊　一冊　京都帝國大學圖書館

嘉吉元年赤松滿祐將軍足利義教ヲ弑セシ始末記ナリ。

二〇〇 應仁記　古活字　双邊・片假名交リ十二行　二冊　鈴鹿三七氏藏

所謂應仁亂ノ記ナリ。細川勝元・山名宗全ノ權力爭ヒヨリ、兩將死シ戰ニ參加セシ諸大名ノ歸國スルマデノ顚末等ヲ記ス。松岡家舊藏本。

二〇一 應仁記　古活字　單邊・片假名交リ十二行　二冊　德富蘇峰氏藏

元和・寛永頃刊。

二〇二 應仁記　寛永十年刊　二冊　神宮文庫藏

「林崎文庫」ノ印記アリ。

二〇三　應仁別記　寫　一冊　神宮文庫藏

山名・細川ノ不和ヨリ京師ノ兵亂數十度ノ合戰ヲ記ス。「林崎文庫」ノ印記アリ。

二〇四　重編應仁記　小林某著　寶永八年刊　二〇冊　谷村一太郎氏藏

文安ヨリ永祿ニ至ル百餘年ノ世態ノ變遷ヲ詳記シタルモノニシテ、前記二卷・應記五卷・後記三卷・續後記十卷ヨリ成ル。

前記ハ兩畠山ノ家督相續爭論・赤松家盛衰ノ事、應記ハ「應仁記」ヲ敷衍シタルモノ、後記ハ應仁亂後畠山・細川兩家京畿爭亂、續後記ハ將軍足利義稙治世已後永祿年間足利家滅亡マデノ事績ヲ記ス。

二〇五　足利季世記　人の卷　寫　一冊　茨城縣立圖書館藏

長享元年ヨリ永祿十二年ニ至ル足利末期凡ソ八十年間ノ武將騷亂記ニシテ、畠山記・船岡記・三好記等各ソノ內ノ一卷トシテ含マル。

奧書「弘化二季乙巳十月下浣加表　延壽識」。「水戶靑山氏藏」ノ印記アリ。

二〇六　畠山船岡記　寫　一冊　大阪府立圖書館藏

二〇七　三好軍記　福氷玄淸著　寬文三年刊　三冊　京都帝國大學圖書館藏

阿波國三好氏以下ノ戰記。

二〇八　關東古戰錄　三木成久著　天保九年刊　繪入　六冊　茨城縣立圖書館藏

足利中期以後智將勇將雲ノ如ク起リテ關東中心ニ騷亂セシ事蹟ヲ記ス。天正十八年ノ作。

二〇九　鎌倉兵亂記　一冊　市立名古屋圖書館藏

關東管領足利持氏ヲ中心トセル兵亂記。

奧書「于時寬文三年ノ初秋書寫畢　大澤氏繁久」。「河村家」ノ印記アリ。河村季穎本。

二一〇　關八州古戰錄　二十冊中六冊欠　一四冊　福井市立圖書館

天文年間ヨリ天正年間ニ至ル關以東ニオケル諸戰並ニ諸家ノ榮枯治亂ヲ記ス。

「中根氏藏記」「松平家之印」ノ印記アリ。

二一一　關東兵亂記　寫　一冊　市立名古屋圖書館藏

關東管領上杉氏累代ノ戰記ナリ。「河村家印」ノ印記アリ。河村秀穎本。

二一二　小栗實記　畠山泰全著　享保十二年刊　二二冊　石川縣立圖書館藏

二一三　伊勢峯軍記　寫　一冊　神宮文庫藏

永正天文年間勢州ニオケル寶水族峰家・工藤家等ノ騷亂ニ及ビシ次第ノ記。

二一四　南關紀聞　井澤蟠龍著　一冊　熊本縣立圖書館藏

肥前ノ大津山家代々ノ事・加藤家ノ事等ヲ記ス。

奧書「細川宣紀公武臣鳥銃首　井澤十郎左門長秀　享保五年五月十一日　外目村藤三郎殿」

後書「井澤蟠龍翁著述自書南關紀聞之一冊、關外目村藤三郎子孫關組戶長石井業隆所藏、借用之以書寫、于時明治七年甲戌之冬一月十三日十四日兩日也。思考堂主人　桑原癡平　五十三歲㊞」

二一五　伊東崩　寫　一冊　鹿兒島縣立圖書館藏

天文元年十二月島津忠朝等伊東祐充ノ軍ヲ潰滅セシ情況ヲ記ス。

奥書「本崩壹卷任望ニ、愚文兼美只今朝急々數寫方いたし、讀兼所も有之筈候得共、何れ樣御推量奉祈候。此壹書鮫島氏宗敏より借用也。文政元年戊寅九月十六日朝　兼美　花押」

二一六　肥陽軍記　寫　六冊　京都帝國大學圖書館藏

一名「龍造記」肥前肥後ニオケル豪族少貳大友家等ノ盛衰記。

二一七　隈部實記　寫　一冊　熊本縣立圖書館藏

肥後隈部家代々ノ事蹟ヲ記ス。

奥書「于天保十一庚子晩秋中旬寫之畢　本主　菊池平野村　藤兵衞」

5　戰國・安土-桃山時代

織田・豐臣氏關係

二一八　信長記　太田牛一著　古寫　五冊　前田利爲氏藏

永祿十一年ヨリ天正十年ニ至ル織田信長ノ事歷ヲ一年一卷宛ニ記述セルモノ。慶長頃寫。

第五卷末「信長天下十五年被仰付候。不顧愚案十五帖ニ世間之笑草認置也。予太田和泉生國尾張國、信長臣下也。及八旬頽齡己縮。拭澁眼染禿筆者也。丁亥八十四歲　花押。」各卷末ニ同意ノ簡單ナル奥書アリ。（圖版參照）

二一九　信長記　寛永元年刊（後刷）　小瀨甫庵著　四冊　京都帝國大學圖書館藏

太田牛一著「信長記」ヲ敷衍或ハ省略シ全體ニ文飾ヲ加ヘタモノ。

二二〇　織田軍記　遠山信春著　元祿十五年刊　二三冊　石川縣立圖書館藏

織田氏ノ家系ヲアゲ、信長一世ノ事歷ヲ二百二十四條ニワタリテ記ス。

二二一　總見記　遠山信春著　元祿十五年刊　八冊　谷村一太郎氏藏

內容「織田軍記」ニ同ジ。「宮村家藏」ノ印記アリ。

二二二　織田眞紀　織田長清著　享保四年刊　一五卷　八冊　猪熊信男氏藏

「信長記」ヲ著者ガ家祿ニヨリ增訂シタル漢文體ノ日記錄。

二二三　林鐘談　天保十年寫　一冊　大阪府立圖書館藏

光秀反逆・織田家滅亡ノコトヨリ家康伊賀越マデヲ記ス。末ニ光秀ノ連歌百韻ヲ載ス。

「葆光書記」ノ印記アリ。久世子爵家舊藏。

二二四　姉川合戰前後略譜　有澤永貞著　寶永二年寫　一冊　前田直行氏藏

二二五　遠州三方原合戰記（遺老物語卷九）寫　一冊　石川縣立圖書館藏

元龜三年京都ニ上ラントセシ武田信玄ト德川家康ノ合戰記。

二二六　元天危事　寫　二冊　京都帝國大學圖書館藏

元龜天正年間ニ起レル諸合戰記。「水府彰館稿本・西山公御評」ノ文字アリ。加朱。子爵稻葉正繩ノ寄贈本。

二二七　伊勢兵亂記　寫　神戸良政著　河村宗顯筆　一冊　市立名古屋圖書館藏

天正時代ニオケル關・工藤・北方等伊勢武士ノ戰亂常ナキ情況ヲ叙シ、信長秀吉等ノ伊勢地方ニ對スル攻略顚末ヲ記ス。

奥書「寬永十五年九月十一日　神戸佐右衞門良政紀州樣ヘ上ル寫シ也。大津氏印」

二二八　勢州兵亂記　神戸良政著　寫　一冊　市立名古屋圖書館藏

二二九　勢州軍記　神戸良政著　元祿十二年寫　二冊　神宮文庫藏

信長父子・秀吉時代ノ北畠家・長野家・神戸家・瀧川家・工藤家・關家等伊勢武士ノ興亡ヲ記ス。

奥書「此十册從山岡借用　元祿十二乙卯水無月寫之」。「林崎文庫」ノ印記アリ。

二三〇　勢州軍記　神戸良政著　寫　十二卷　四冊　市立名古屋圖書館藏

「河村家印」ノ印記アリ。

二三一　長湫合戰前後略譜　有澤永貞著　寶永三年寫　一冊　前田直行氏藏

德川家康・織田信雄ト聯合シテ長久手・小牧ニテ秀吉ト戰ヒシ略譜

二三二　繪本拾遺信長記　丹羽桃溪畫　享和三年刊　二三冊　石川縣立圖書館藏

二三三　本能寺軍記　附・山崎戰場錄　美浦翁山著　文久年寫　一冊　石川縣立圖書館藏

北條時敬舊藏。

二三四　山崎合戰記　寫　一冊　神宮文庫藏

「林崎文庫」「牘庫」ノ印記アリ。

二三五　明智軍記　元祿十六年刊　一〇冊　石川縣立圖書館藏

二三六　太閤南北合戰記　寫　二冊　谷村一太郎氏藏

奥書「于時天正十一年十一月吉辰　大村由己謹誌之」。「松平家藏書」ノ印記アリ。

二三七　豐臣鎭西御軍記　寫　五冊　谷村一太郎氏藏

二三八　豐臣鎭西軍記　嘉永三年寫　一二冊　富山市立圖書館藏

二三九　繪本豐臣勳功記　櫻澤堂山著・松川半山畫　文久三年刊　一〇冊　石川縣立圖書館藏

二四〇　繪本豐臣琉球軍記　富田南北著・岡田半山畫　天保七年刊　一〇冊　石川縣立圖書館藏

二四一　天正記　太田牛一著　寫　九卷五冊　神宮文庫藏

別名「天正軍記」。甲州武田氏ノ滅亡、信長弑沒、秀吉天下掌握ノコト等ヲ錄シ、慶長三年秀吉花見ノコトニテ終ル。「林崎文庫」ノ印記アリ。

二四二　御撰大坂記　二冊　大阪府立圖書館藏

自天正八年至慶長十九年記錄。

奧書「德廟御撰　以林大學頭信所藏之本寫之」。「井出文庫」ノ印記アリ。

二四三　賤ヶ嶽合戰覺書　寫　一冊　谷村一太郎氏藏

甫庵太閤記ヨリ賤ヶ嶽合戰ノ記ヲ抄出シタルモノ。

二四四　賤箇嶽記　僧雄山著　元祿十年刊　一冊　谷村一太郎氏藏

二四五　賤箇嶽合戰記　僧雄山著　元祿十年刊　四冊　京都帝國大學圖書館藏

二四六　賤ヶ嶽合戰記　寫　一冊　神宮文庫藏

「林崎文庫」ノ印記アリ。

二四七　賤嶽戰圖　寫　一枚　谷村一太郎氏藏

二四八　柴田合戰記　寫　一冊　谷村一太郎氏藏

二四九　柴田退治記　大村由己著　寫　一冊　神宮文庫藏

賤ヶ嶽合戰ノ後、勝家敗レテ北庄ニ自殺セシヨリ、秀吉大阪ニ築城スルマデノ記錄。

「林崎文庫」ノ印記アリ。

二五〇　樂壽筆叢　河村秀穎稿本　三冊　市立名古屋圖書館藏

柴田陣雜錄・長久手合戰雜錄・明智亂雜記ノ三冊ニ分ル。

河村秀穎ハ尾張ノ士ニシテ、天野信景ノ門ニ學ビテ國學ニ精シク、首書神祇令集解・日本紀作者辨・令備考・徒刑十卷等ノ著アリ。天明三年六月十六日沒ス。

二五一　尾州小牧軍記　山中忠兵衞著　寫　一冊　神宮文庫藏

奧書「右此書者山中忠兵衞見聞之趣所記置也」。「林崎文庫」ノ印記アリ。

二五二　尾州小牧軍記　山中忠兵衞著　寫　一冊　市立名古屋圖書館藏

二五三　小牧御陣記　八田行全寫　一冊　福井市立圖書館藏

二五四　名護屋合戰記・淸須合戰記　寫　一冊　市立名古屋圖書館藏

「河村家藏」ノ印記アリ。

二五五　天正征伐記　享保八年寫　一冊　市立名古屋圖書館藏

天明元年河村秀穎ノ朱書入アリ。

二五六　長久手御戰記　村松勘右衞門寫　横本　一冊　市立名古屋圖書館藏

二五七　じゆらくものがたり　古活字　平假名漢字交リ十一行　三冊　德富蘇峰氏藏

豐臣秀次ノ一生ヲ主トシテ叙述セルモノニシテ、太閤秀吉發向ノコト、以下十二項ニ分ル、物語。寛永頃刊。濁點附活字ニシテ、原裝・原題簽ナリ。（圖版參照）

二五八　聚樂物語　繪入　山本九左衞門板　四冊　京都帝國大學圖書館藏

一名「關白物語。」

二五九　慶長治亂記　寫　二冊　京都帝國大學圖書館藏

慶長三年正月ヨリ同四年十二月二十四日マデノ治亂記。見返ニ言フ「此本慶長軍記トハ違ヒ申候。」

二六〇　慶長軍記　植木悅著　寫　二冊　大阪府立圖書館藏

豐臣秀吉御治世ヨリ內府公儒佛二敎崇敎ノ事ニ至ル數十項アリ。文祿年中ヨリ慶長末頃マデノ記錄ニシテ殊ニ關ヶ原ノ戰ヲ詳記ス。

二六一　關原始末記　林道春著　寫　二卷　一冊　德富蘇峰氏藏

奧書「明曆二年丙申二月十七日」

卷首ニ「伴信友文庫」ノ印記アリ。卷中到ル所ニ加朱校定ノタメノ小符箋アリ。卷末ニ符箋シテ信友ノ後記アリ。

文ニ曰ク「寛政十二年二月廿二日若御年寄堀田攝津守樣ヨリ御留守居御呼出ニ而空印樣御隱居御禮トシテ大閤御他界ヨリ關ヶ原御落着迄之書物御獻上在之候由右相違無之哉御書物御控御座候哉ト御尋在之翌廿三日御留守居ヨリ以覺書壹通被差出左之通

昨日御尋御座候讃岐守忠勝隱居御禮申上候節ニ獻上仕候書物之儀相糺候處明曆二年五月廿七日隱居御禮之節獻上書物ハ關ヶ原始末記全部二冊差上申候右年月等御尋之年月之通ニ御座候得共右書之儀ト奉存候控書物ハ手前ニモ所持仕候右之趣役人トモ申聞候

伴州五郎信友（花押）」（圖版參照）

右爲後來此書物之後ニ書加置者也。

二六二　關原始末記　寫　二冊　德富蘇峰氏藏

伴信友手校定本ヲ原本通リ書寫セルモノ。但シ上下分冊ス。

二六三　關ヶ原記大全　寫　三十卷　一〇冊　市立名古屋圖書館藏

一名「關ヶ原鑑」

奧書「元祿三年庚午至月歷齋　筑後劒三隱士宮腰秀興寫。」

「河村家藏」ノ印記アリ。河村秀穎本。

二六四　關ヶ原軍記大全　宮川尙古著　寫　四十五卷　二三冊　市立名古屋圖書館藏

自序「正德癸己春三月吉　忍齋宮川尙古書」
「河村家藏」ノ印記アリ。

二六五　關ヶ原御一戰覺書　安政四年寫　一冊　神宮文庫藏
奥書「于時安政四己年臘月中旬認畢　武市惠左衞門美章」
「古事類苑編纂事務所」ノ印記アリ。

二六六　關ヶ原軍記　大田和泉守著自筆稿本　一冊　神宮文庫藏
「內藤耻叟藏書」、「守靜亭圖書記」「古事類苑編纂事務所」等ノ印記アリ。

二六七　關ヶ原軍記　寫　一冊　太田敬太郎氏藏

二六八　關ヶ原御合戰記　延寶三年寫　一冊　市立名古屋圖書館藏

二六九　關ヶ原合戰傳記　寫　一冊　市立名古屋圖書館藏

二七〇　關原合戰略記　有澤永貞著　寫　二冊　前田直行氏藏

二七一　關原合戰追加　有澤永貞著　寫　二冊　前田直行氏藏

二七二　攝戰始末實記　寫　二冊　大阪府立圖書館藏
關ヶ原役後ノ賞罰・被害記錄・諸法度等ノ輯錄。

二七三　美濃國關ヶ原合戰圖　寫　一鋪　石川縣立圖書館藏
森田柿園ノ識記アリ。

二七四　岐阜責之圖　一鋪　福井市立圖書館藏
關ヶ原合戰ノ陣取圖ナリ。

二七五　島津兵庫頭義弘　關ヶ原始終大慨之記　寫　一冊　鹿兒島縣立圖書館藏
奥書「右一冊者島津主殿殿ヨリ致借用寫之不可有他見者也
寬延四辛未彌生中浣
右一冊頴娃內膳殿方ヨリ致借用寫之他見有間敷候以上
寶曆五年亥三月上旬　山口五郎兵衞
右一冊山口五郎兵衞殿ヨリ令借用同苗與右衞門寫之者也。
天明三年卯五月　日　本田助之亟
天明八申十二月寫之　速水甚五郎」

二七六　石田軍記　一五冊　石川縣立圖書館藏

二七七　慶長中外傳　寫　堀樗庵著　六六冊　石川縣立圖書館藏
慶長五年ノ關ヶ原合戰ヨリ元和元年大阪落城マデノ豐臣家ノ事蹟ヲ詳シク編述シタルモノ。

二七八　おあんものがたり　天保八年刊
おきくものがたり　一冊　谷村一太郎氏藏

二書ノ合本。おあんものがたりハ慶長五年ノ關ケ原合戰ヲ美濃國大垣城ニアリテ實地ニ見聞シタル者ノ物語。おきくものがたりハ元和元年大阪落城ノ際ニ從軍見聞シタル事實物語。
刊記「天保丁酉盡日　三可書屋校刻」

二七九　大坂軍記　古寫　一冊　大阪府立圖書館藏
大坂冬夏ノ陣ノ戰記。南眞寺舊藏。

二八〇　大坂陣覺書　寫　二冊　大阪府立圖書館藏

二八一　大阪冬陣記（羅山林先生別集卷一）　寫　一冊　神宮文庫藏
奥書「此書慶長十九年十一月ヨリ十二月廿九日ニ至ル日記也。林羅山別集ト題シテ罫紙ニ讀耕齋文庫ノ五字アリ。蓋世間ニ見ザル所ノ書也可爲珍　內藤恥叟書」「讀耕齋文庫」「古事類苑編纂事務所」「內藤恥叟藏印」ノ印記アリ。

二八二　難波冬夏軍記　寫　一四冊　大阪府立圖書館藏
大阪ノ役ノ軍記ナリ。秀頼上洛ノコトヨリ始マリ家康ノ死ヲ以テ筆ヲ止ム。

二八三　難波冬夏記落城之卷　寫　一冊　森田外與吉氏藏

二八四　厭蝕太平記　寫　三十卷　五冊　福田喜一氏藏
慶長十九年大阪一亂ノ事ヲ記シ、專ラ眞田幸村・後藤基次・長曾我部元親・木村重成等ノ武勇ヲ記ス。

二八五　難波戰記　寫　五冊　大阪府立圖書館藏

秀頼上洛ノ事ヨリハジメ、大阪役ヲ叙シ、江戸社寺緣起等ヲ記ス。

二八六　浪花軍記　寫　四冊　大阪府立圖書館藏
大阪兒徒評議ノコトヨリ大野道犬蓄金ノ事マデ、十六卷ニ分ツ。卷末ニ關係文書八點、彩色繪圖十葉ノ模寫ヲ載ス。

二八七　大坂物語　古活字　平假名交リ。　二冊　德富蘇峰氏藏
慶長以後大阪ノ爭亂、將軍家ノ盛衰ヲ起ス。元和頃刊。
上卷ハ黑丸點附十一行ニシテ、原裝・原題簽ナリ。下卷ハ十二行ニシテ、原題簽存スレド、古ク上卷十一行本ニ配セラレ改裝セル如シ。（圖版參照）

二八八　大坂物語　古活字　平假名交リ十一行　二冊　德富蘇峰氏藏
元和寛永頃刊。「洒竹文庫」ノ印記アリ。（圖版參照）

二八九　大坂物語　寛文八年刊　繪入　二冊　早稻田大學圖書館藏
刊記「寛文八年申ノ六月吉日　本通油町　問屋板」

二九〇　大坂物語　繪入　三冊　大阪府立圖書館藏
刊記「寛文十二年壬子初春吉日」

二九一　大坂物語　繪入　小形本　上・下合　一冊　德富蘇峰氏藏
刊記「享保三年戊戌正月吉日　西村屋新板。」「宮崎藏書印」「赤松文庫」等ノ印記アリ。

二九二　大坂物語　一冊　早稻田大學圖書館藏
藤野潔舊藏。「湖泊堂」ノ印記アリ。

二九三　大坂夏御陣御先手勤方覺　寫　四冊　神宮文庫藏
「納齊」ノ印記アリ。

二九四　大坂御陣首帳　一冊　中神利人氏藏
當時ノ血痕附着ス。

二九五　大坂城攻丁場附圖　森田定運筆　一舖　森田外與吉氏藏
堅四尺七分ー横三尺八寸三分

二九六　大坂夏之陣圖　一枚　金澤市立圖書館藏

二九七　大坂落城之圖　寫　一舖　谷村一太郎氏藏
奥書「右大阪落城之圖一帖者東照宮御直披仰付御留守番江被下置。右以下云々二十六字元本所記也。嘉永年間使男維薫模寫之。元本吉本參石摹謄。參石官遊江戸之時借得一候家藏傳寫者而摹取云。十畝園」
「竹原圖書」ノ印記アリ。

二九八　大阪安部之合戦之圖　（瓦板）　一枚　早稻田大學圖書館藏
我國最古ノ瓦版トシテ珍重セラルルモノナリ。（圖版參照）

地方關係

二九九　本朝三國志　寶永六年刊　三六册　石川縣立圖書館藏
織田・武田・上杉・德川・豐臣ヲ中心トセル東國諸家ノ興廢治亂ヲ詳記シタルモノ。
刊記「于時寶永第六歳仲春吉日　武城・須原氏茂兵衞」

三〇〇　奥陽軍秘錄　寫　三册　宮城縣立圖書館藏
伊達政宗ノ戰功ヲ錄シ、仙臺藩領有ニ至ル經過ヲ記ス。「宮城縣書籍圖書之印」アリ。

三〇一　常陽四戰記　寫　一册　茨城縣立圖書館藏
永祿二年常州信太郡小田城主讃岐守氏治ト上杉謙信トノ合戰及ビ眞壁城主左衞門尉氏幹トノ合戰、茨城郡笠間城主大和守心休ト同國猿子氏トノ合戰、同跡軍ノ四戰略記ナリ。

三〇二　新編東國記　正德二年刊　一〇册　石川縣立圖書館藏
天正三年ヨリ同十八年ニ至ル十六年間ノ關東ニオケル攻守合戰記。

三〇三　正次戰記　一翁軒編　寫　三册　石川縣立圖書館藏
上州本多正純ノ家臣片岡源太左衞門正次ノ戰記ナリ。

三〇四　信州河中島五戰記　清野助次郎著　正德三年刊　三册　京都帝國大學圖書館藏
川中島ニオケル甲越五度ノ戰鬪始末記。

三〇五　川中嶋合戰評判　柳田可石著　貞享四年刊　一冊　京都帝國大學圖書館藏

三〇六　河中島之辨　寫　一冊　神宮文庫藏

川中島合戰ノ評論。「林崎文庫」ノ印記アリ。

三〇七　甲越春秋　松原櫟園著　慶應三年刊　四冊　新潟縣立圖書館藏

謙信・信玄ノ事蹟ヲ記ス。

三〇八　川中嶋合戰圖　森田盛昌筆　一枚　森田外與吉氏藏

三〇九　甲陽軍傳解　小峰弘致著　三〇冊　石川縣立圖書館藏

高坂昌信ノ「甲陽軍鑑」ノ不確不備ノ點ヲ全クシ、且ツ史實ヲ明確ニ傳ヘルモノナリト云フ。

刊記「元錄十二歲己卯十一月吉旦　松會三四郎梓」

三一〇　中興源記　森田西岸筆寫　二冊　森田外與吉氏藏

奥書「右中興源記上下二册者吾家四世西岸大人之親筆也。此書者先代藏書目錄軍書之部甲陽軍鑑等之次裁之。或日中興源記者甲州流軍法家免許相傳之一部也云々。然者西岸大人從出口伊左衞門政信相傳之書也。可秘藏者也　柿園良見誌」

三一一　武田三代軍記　片島深淵著　正德五年刊　二二冊　福井市立圖書館藏

武田信虎・晴信・勝頼三代ノ軍記錄。「書鬢」「越國文庫」ノ印記アリ。

三一二　甲亂記　春田摠次郎著　正保三年刊　一冊　谷村一太郎氏藏

天正十年武田勝頼ノ滅亡ヲ記ス。

三一三　春日山日記　大塚貞傳著　文化四年　柴田某寫　六冊　谷村一太郎氏藏

越後春日山ヲ居城トセル上杉氏ノ祖爲景ヨリ說キ謙信ノ戰策ニ及ブ。

三一四　越後軍記　白雲子著　元祿十五年刊　一二冊　新潟縣立圖書館藏

長尾景虎ノ一生並ニ上杉氏ヲ繼ギシ景勝ノ治國マデヲ記ス。

三一五　北越軍記　雲菴著　寶永八年刊　一七冊　石川縣立圖書館藏

上杉景勝・同謙信ノ事蹟ヲ記ス。

三一六　北國太平記　馬場信意著　寶永四年刊　一五冊　石川縣立圖書館藏

戰國時代ノ末期ニ於ケル上杉氏ヲ中心トセル北陸地方ノ諸戰雜記。

三一七　淺井三代軍記　山雲子著　文政六年刊　一五冊　石川縣立圖書館藏

江州小谷ノ城主淺井亮政ノ信長ニ滅ボサレシ始末記。

三一八　朝倉義景記　寫　一冊　大友佐一氏藏

越前ノ領主朝倉義景ノ一向一揆並ニ織田信長等トノ關係ノ記述ナリ。

三一九　一乘錄　寫　三冊　藏尙太郎氏藏

越前ノ一乘谷ヲ居城トセシ朝倉氏ヲ中心トシタル戰記ナリ。朱書アリ。
「南部家藏」ノ印記アリ。

三二〇　柳瀨合戰前後略譜　有澤永貞著　寫　一冊　前田直行氏藏

元龜三年ヨリ翌天正元年ニ亘リ、朝倉義景ノ信長ニ對峙シテ越前柳瀨ニ陣セシ前後ノ略記ナリ。

三二一　濃陽戰記　深貝盛時寫　享保九年　二冊　金澤市立圖書館藏

濃陽諸士傳ニ增補首書シタルモノニシテ、美濃ノ首護ノコトヨリ美濃・尾張等ノ諸地方ニオケル豪族齋藤・織田・稻葉・土岐等ノ居城、家系・事蹟乃至諸寺院ノ由來等ヲ記ス。

三二二　伊勢軍記　寫　一冊　神宮文庫藏

關ケ原役ニオケル伊勢地方ノ諸城主ノ行動、長享年中宇治山田兵亂ノ事、天正年間度會郡山田中島ノ亂等ヲ記ス。「東氏之印」ノ印記アリ。

三二三　神境合戰類聚　足代弘訓寫　一冊　神宮文庫藏

治承五年ヨリ慶長五年ニ亘ル宇治山田ヲ中心ニ神官ノ加ハリテノ神境攻防ノ次第ヲ錄ス。

三二四　伊賀亂記　享保十四年寫　三冊　京都帝國大學圖書館藏

伊賀ニオケル諸將ノ攻伐、信田ノ攻入等ヲ記ス。

三二五　中州軍記　四冊　京都帝國大學圖書館藏

毛利・尼子等中國諸將ノ事蹟ヲ記ス。

三二六　土佐軍記　寶永七年刊　一二冊　石川縣立圖書館藏

長曾我部氏歷代ノ事蹟ヲ收錄ス。

三二七　元親記　高島正重著　寫　三冊　高知縣立圖書館藏

長曾我部元親ノ一生ノ事歷ヲ記述シタモノナリ。
朱書入アリ。「敎授館圖書」「高知縣學校ノ印」等ノ印記アリ。

三二八　長宗我部盛衰記　中田好賢編　寫　九冊　高知縣立圖書館藏

「敎授館圖書」「高知縣學校印」ノ印記アリ。

三二九　筑紫軍記　九皐散人著　元祿十六年刊　一六冊　石川縣立圖書館藏

文龜以後文祿ニ至ル凡ソ八十年間、九州ニ於ケル諸名家ノ世系ヲ牒シ、忠臣賊子ノ事績ヲ詳記シタルモノナリ。

三三〇　熊莊合戰並響原合戰覺書　一冊　熊本縣立圖書館藏

前者ハ熊莊城主甲斐守昌ト淸船城主甲斐宗運ノ鬪諍記。後者ハ天正年中相良義陽ト甲斐宗運ノ合戰記。
奧書「右響原合戰之事、宗運記・大友興廢記等ノ諸說皆義陽生野心而爲被討、宗運戴後悔之言。全篇不穩。予抱不審己久焉。今此書得于太田吉郎者午而始辟雲霧。正說實記珍重々々。于時文政五壬午歲正月廿五日寫之　大石眞麿
右本書以朱寫　上林閑水翁　筆於表紙」

三三一　拾集昔語　卷一・三　二冊　熊本縣立圖書館藏
阿蘇ノ宮ノ事・加藤家ノ事・御船城ノ事・佐々ガ事・秀吉政略ノ事等諸記事ヲ集錄シタルモノ。

三三二　拾集物語　三・五　二冊　熊本縣立圖書館藏
佐々成政肥後ニ國替後ニ起リシ一揆等ノ事・加藤家ノ事等肥後ヲ中心トセル諸事件ヲ輯ム。

三三三　梅北記　小本　寫　一冊　熊本縣立圖書館藏
加藤清正ノ征韓役後ニ薩摩ノ士梅北宮内等不在頭トナリテ一揆ヲ起セシ顚末ヲ記ス。

三三四　庄内軍記　寫　一冊　熊本縣立圖書館藏
伊集院忠眞ノ島津氏ニ叛キシ戰記。朱書アリ。

三三五　響野原戰記　寫　釋鳳侶編　寶曆二年　一冊　熊本縣立圖書館藏
本書ハ伊東信齊ノ響原合戰記、莊嚴寺並ニ天神緣起ヲ合セテ影寫セルモノナリ。
奥書「井澤幡龍士菊池・佐々傳記ヲ錄サル、トイヘドモ所存有テ此響原ノ合戰不書、殆闕略ニ似タリ。僕竊ニ之記訖。彼ノ書ト見合セハ一助トモナランカト云ル爾。
享保四曆二月上弦　伊東信齊祐敬」

三三六　巖屋完節志　帆足鵬卿譯　嘉永三年野尻惟位寫　一冊　熊本縣立圖書館藏
「時習館圖書之印」ノ印記アリ。

6　江戸時代初期

三三七　天草征伐記　田丸具房著　寫　一・二冊欠　四冊　長崎縣立圖書館藏
耶蘇教ノ傳來ヨリ說キ起シ、天草一揆ノ起因ヨリ征伐ノ顚末ヲ詳述セルモノ。

三三八　天草一戰記　寫　一冊　森田外與吉氏藏
卷頭ハ「天草一戰之覺」トアリ、從軍者ノ覺書ナリ。

三三九　島原軍記　寫　一冊　森田外與吉氏藏
森田柿園秘藏書ナリキ。

三四〇　島原合戰記　三冊　京都帝國大學圖書館藏
一名「天草物語」。天草軍ニ從軍セシモノノ見聞錄ナリ。

三四一　島原始末記　寫　一冊　石川縣立圖書館藏

三四二　島原記　寫　二冊　金澤市立圖書館藏
島原ノ一揆ニ關スル諸記錄ヲ集メタモノ。

三四三　島原記　繪入　三冊　早稻田大學圖書館藏
寬永刊。黑川眞賴舊藏「待賈堂」ノ印記アリ。

三四四　寛永南島變　堀麥水自筆稿本　一二冊　石川縣立圖書館藏

「慶長中外傳之附錄」。天草ノ征討記ヲ潤色シタルモノ。最後ノ二冊ハ附錄トシ、宇流貪日本ニ渡ル・伴天連將軍ニ謁ス・切支丹小說・長崎紀事・高山右近信長ニ歸ス・伴天連白翁ト法論・耶蘇類族追放・肥前國乏圖等ヲ收ム。卷二・十一ノ二冊ハ寫本ニテ補足セルモノ。

三四五　寛永南島變　堀麥水著　寛政三年森田修陳寫　一〇冊　森田外與吉氏藏

題簽ハ坂井一調筆。

三四六　天草軍談　寫　一冊　長崎縣立圖書館藏

三四七　天草軍談大全　田丸具房著　文政二年清水菅谷寫　二一冊　谷村一太郎氏藏

三四八　參考島原記　新藤安精・福島恩齋共編　弘化二年青山勝俊寫　四冊　谷村一太郎氏藏

參州岡崎ノ城主水野氏ガ編述シタ島原騷動記ヲ、ソノ侍醫伊藤春琳ガ潤色シ、更ニ新藤・福島二氏ガ參考校訂シタルモノナリ。

三四九　原城耶蘇亂記　寫　一冊　長崎縣立圖書館藏

天草一揆關係記錄。

三五〇　高來郡一揆之記　寫　一冊　長崎縣立圖書館藏

天草一揆關係記錄。

三五一　慶明錄　寫　四五冊　大阪府立圖書館藏

寛永元年ヨリ寛文十三年ニ至ル日誌ニシテ、天草一揆關係ノ記事多シ。

三五二　肥前國有馬戰記　寫　三冊　長崎縣立圖書館藏

三五三　肥前國有間原城責圖（原圖）　一鋪　松井簡治氏藏

（圖版參照）

7 海外關係

三五四 神功皇后三韓退治圖會 山月庵主人著 天保十二年刊 五冊 朝鮮總督府圖書館藏

三五五 大友眞鳥實記 畠山竹隱齋著 一四冊 石井久二郎氏藏

三五六 蒙賊記 石川眞清著 安政三年刊 五冊 谷村一太郎氏藏

弘安四年蒙古襲來ノ戰記。

三五七 蒙古寇紀 長村鑒著 昭和六年刊 一冊 谷村一太郎氏藏

文應年間ノ蒙古襲來ノ記。

三五八 征韓偉略 川口長孺著 天保二年刊 五冊 宮城縣立圖書館藏

三五九 朝鮮征伐記 堀正意著 萬治二年刊 繪入 卷三・五欠 七冊 玉井敬泉氏藏

秀吉ノ朝鮮征伐ニ關スル軍記物語ニ繪圖ヲ入レ數十項ニ分ツタモノ。

三六〇 朝鮮太平記 馬場信意著 寶永二年刊 三〇冊 石川縣立圖書館藏

文祿慶長役ニオケル日本軍ノ朝鮮ニオケル戰爭始末ヲ記ス。

三六一 高麗軍覺 寫 一冊 鹿兒島縣立圖書館藏

文祿役ニオケル諸將ノ配備・奮鬪振等ヲ記ス。萬治二年ノ作。

三六二 朝鮮物語 嘉永二年刊 三冊 猪熊信男氏藏

大河內秀元ガ太田飛驒守ノ幕下ニ屬シテ征韓役ニ從ヒシ時ノ陣中見聞日記ナリ。

三六三 秀吉より關白秀次へ與へし覺書之寫 一卷 石川縣商品陳列所藏

天正二十年五月十八日附、朝鮮征伐ニ關スル注意書二十五箇條。

三六四 懲毖錄 元祿八年刊 一冊 谷村一太郎氏藏

朝鮮國ニテ編セシ文祿役ノ戰記。

三六五 朝鮮懲毖錄 元祿八年刊 四冊 猪熊信男氏藏

三六六 奮忠紓難錄 僧南鵬著 朝鮮版 一冊 朝鮮總督府圖書館藏

朝鮮ニテ編セシ文祿役ノ奮忠錄ニシテ淸正ノ營中ヲ探ル記事等アリ。

三六七 奮忠紓難錄 僧南鵬著 朝鮮版 二冊 谷村一太郎氏藏

三六八 忠烈錄 履諱編 朝鮮版 二冊 朝鮮總督府圖書館藏

朝鮮ニテ編セシ文祿役記錄ニシテ戰死者ノ碑文・祭文等ヲ輯ム。

三六九 李忠武公全書 朝鮮官版 八冊 大友佐一氏藏

朝鮮李舜臣公ノ文集ニシテ第六卷ニ文錄役ノ記事ヲ輯ム。